

授業科目	英語コミュニケーション（英会話初級）				
担当者	近藤 未奈			国家出題基準	
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

この授業では、語彙、リスニング、会話、文法の各技能の演習をバランス良く行い、医療実務に役立つ総合的な英語力の養成をはかります。基礎的な英語文法の確認をしつつ医療関連の語彙を増やし、ロールプレイ方式での会話練習を行うことにより、実際の現場で英語を使うことのできる能力の習得を目指します。

■ 到達目標

医療専門分野に関係した基礎的な英語表現に慣れ、現場で実際に英語が必要とされた時に適切な対応ができる英語運用能力を身につける。

■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション：受講にあたっての諸注意
イントロダクション：医療現場で英語を使えることの意義 / 医療の英語はどのようなものかを知る
- 第2回 Meeting Patients「患者登録と生活習慣アンケートをする」その1
- 第3回 Meeting Patients「患者登録と生活習慣アンケートをする」その2
- 第4回 Taking a Medical History「病歴および健康状態を把握する」その1
- 第5回 Taking a Medical History「病歴および健康状態を把握する」その2
- 第6回 Assessing Patients' Symptoms「病状や症状をアセスメントする」
- 第7回 Taking Vital Signs「バイタルサインを確認する」
- 第8回 Conducting Medical Examinations「検査の注意や指示をする」
- 第9回 Directions「道案内・建物の中の案内の英語」
- 第10回 Assessing Pain「疾病・負傷による痛みをアセスメントする」
- 第11回 Advising about Medication「処方された薬についてアドバイスする」
- 第12回 Improving Patients' Mobility「体の機能回復を介助・援助する」その1
- 第13回 Improving Patients' Mobility「体の機能回復を介助・援助する」その2
- 第14回 Appointments「病院の予約・日時の表現」
- 第15回 Caring for Inpatients「入院患者のケアをする」

■ 評価方法

受講態度（予習・授業への取り組みなど:40%）、小テスト（20%）、筆記試験（40%）を総合的に評価します。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎回の授業で学んだ新しい内容はすぐに復習し、覚えるべき内容を確実に定着させていくこと。語句についての学習事項は特に、意識して覚えるようにすることで後の授業内容にも役立ちます。

教科書の予習指示があった場合、指定の箇所の英語を読み、英和辞書などを使いわからない語句の意味を調べ、内容を日本語で理解・説明できるようにしておく。

小テスト対策の勉強は教科書の内容を理解するための予習も兼ねているので、範囲の語句の意味を覚えておくこと。

■ 教 科 書

書 名：『Caring for People（医療分野で働くためのコミュニケーションコース）』
著者名：黛美智子，宮津多美子，Philip Hinder，志田京子，杉田雅子，山下巖
出版社：センゲージ ラーニング株式会社

■ 参考図書

■ 留意事項

小テストは指定の教科書より出題します。テストについての詳細は初回授業で説明します。
授業中に英和辞典（電子辞書可／高校英語に対応できるレベルのもの）が必要となるので、毎回必ず持参すること。
配布された資料は教科書の一部として扱います。過去に配布されたものも毎回持ってきてください。
成績評価基準の詳細や、その他諸注意については初回授業で伝えるので、必ず初回から出席してください。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：① DP：①②
OT 専攻 CP：①② DP：①②

授業科目	国語表現学（レポート作成法）				
担当者	岡崎 昌宏			国家出題基準	
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

レポートの作成など、大学では、自身の考えを練り、それを正確に、過不足なく表現する能力が一層求められる。そしてそれは、社会の様々な場面でも必要となる能力である。この授業では、正確な表現のために必要な知識や技術を習得するとともに、レポートの作成方法を実践的に学ぶ。また、優れた文章を読み、表現技術への意識を高める。

■ 到達目標

自身の考えを整理し、それをレポートなどの形で正確に表現できるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 概説―正確な表現の重要性
- 第2回 文章を書くための知識（1）―表記など
- 第3回 文章を書くための知識（2）―原稿用紙の使い方、段落など
- 第4回 正確な文章のために（1）―説明不足の文をなくす
- 第5回 正確な文章のために（2）―過度な説明、重複説明をなくす
- 第6回 正確な文章のために（3）―長くなってしまった文を、短くする
- 第7回 正確な文章のために（4）―句読点への意識を高める、語彙力を高める
- 第8回 論文・レポートの文章を読み、その表現の特徴を学ぶ
- 第9回 レポートを書く（1）―様々な事実を集める
- 第10回 レポートを書く（2）―意見の方向を定める
- 第11回 レポートを書く（3）―自説の明確な根拠を考える
- 第12回 レポートを書く（4）―基本的な展開方法を知る
- 第13回 レポートを書く（5）―レポートを書き、推敲する
- 第14回 様々な文章に接し、表現への意識を高める
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

平常点（授業中の課題への取り組みも含む）100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

前回までの内容をよく復習したうえで授業にのぞむこと。

■ 教 科 書

授業中に配布するプリントを用いる。

■ 参考図書

必要に応じて授業中に紹介する。

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP : ① DP : ①②

OT 専攻 CP : ①② DP : ①②

授業科目	人間関係学				
担当者	飯田 英晴			国家出題基準	II-4-B
学科名	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

治療者に求められる対人技法の基礎から応用まで学び、より良いコミュニケーションについて自ら考え、応用できる能力の基礎を修得する。

■ 到達目標

患者さんとの関わりに求められる基本的な対人技法を用い対話することができることを目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 コミュニケーションの基本概念と構造 -1
- 第2回 コミュニケーションの基本概念と構造 -2
- 第3回 医療におけるコミュニケーション -1
- 第4回 医療におけるコミュニケーション -2
- 第5回 医療におけるコミュニケーション -3
- 第6回 社会的相互作用
- 第7回 社会的役割と役割行動
- 第8回 援助的コミュニケーション
- 第9回 対人技法の基本 -1
- 第10回 対人技法の基本 -2
- 第11回 対人技法の基本 -3
- 第12回 闘病生活における患者・治療者との人間関係
- 第13回 人間の理解 1（男と女のなぞ）
- 第14回 人間の理解 2（人間らしいとは）
- 第15回 人間の理解 3（なぜ騙される、騙しのテク、人の不思議）

■ 評価方法

書き込み式テキストの活用、討論、提出課題などの評価20%、授業時間外課題の提出20%、総括的評価60%で評価する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

5回、授業時間外課題を提出させる。

■ 教科書

不要

■ 参考図書

不要

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

OT 専攻 CP：①⑥ DP ①②③⑤

授業科目	コミュニケーションリハ学Ⅲ				
担当者	大西環・大根茂夫・中村靖子・辻郁（オムニバス）			国家出題基準	
学科名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

- ・失語症とはどのような言語障害であるかを理解し、コミュニケーションの取り方について学ぶ。
- ・講義のほか、言語障害の方との対話会も実施。

■ 到達目標

- ・失語症が他の言語障害とどのように異なるのか、概略を説明できるようになる。
- ・有効なコミュニケーション方法を知り、自ら工夫しコミュニケーションを図れるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 失語症の症状 フリートークから症状を診る（大西）
 第2回 失語症の症状 症状の解説及び SLTA の紹介（大西）
 第3回 失語症の症状の復習とコミュニケーションの取り方、対話会とは（大西）
 第4回 模擬対話会 ST 2 年生とも模擬対話＋学生からのフィードバック（大西、大根、中村）
 第5回 模擬対話会の全体フィードバックと対話会準備の説明（大西）
 第6回 対話会の当日準備（大西、大根、中村）
 第7回 対話会とフィードバック（大西、大根、中村）
 第8回 国家試験対策（中村）

■ 評価方法

試験80％ 提出課題20％

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業後は復習を行うこと。
 グループでの準備や活動をしっかり行うこと。

■ 教 科 書

書 名：絵でわかる言語障害
 著者名：毛束真知子
 出版社：学研

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：⑦⑧ DP：③④⑤
 OT 専攻 CP：①④⑥ DP：①②⑤

授業科目	心理学				
担 当 者	鈴木暁子			国家出題基準	
学 科 名	理学療法学専攻（選択）	学 年	1 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻（必修）	開講時期	前期	選択・必修	PT 選択／OT 必修

■ 内 容

心理学は人間の心や行動を客観的に理解するための学問である。人間の心というブラックボックスを科学的に解き明かしていく心理学の研究方法は、私たちの身の回りの事象を客観的に理解する事にも役立つ。この広く深い学問の魅力をできる限り伝えたい。

■ 到達目標

人を援助する職業に必要な人間理解の糸口となる心理学の基礎知識を学習するとともに、国家試験科目である臨床心理学の基礎となる知識も身につける事を目標とする。

■ 授 業 計 画

- 第1回 心理学の考え方①
- 第2回 心理学の考え方②
- 第3回 ト라우マについて
- 第4回 人の性格①
- 第5回 人の性格②
- 第6回 知能と記憶
- 第7回 学習①
- 第8回 学習②
- 第9回 動機づけと情動①
- 第10回 動機づけと情動②
- 第11回 グループワーク
- 第12回 社会心理学入門①
- 第13回 社会心理学入門②
- 第14回 人と音楽
- 第15回 臨床に活かすコーチング

■ 評価方法

期末試験 90% 授業態度 10%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講師の指示に従ってください。

■ 教 科 書

書 名：改訂版 はじめて出会う心理学
 著者名：長谷川寿一 他
 出版社：有斐閣アルマ

■ 参考図書

書 名：心理学概論
 著者名：山内弘継・橋本幸監修
 出版社：ナカニシヤ出版

■ 留 意 事 項

配布資料が多いので整理方法をよく考えて下さい。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP : ① DP : ①②

OT 専攻 CP : ①⑥ DP : ①②③⑤

授業科目	言語学				
担当者	松井理直			国家出題基準	
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択

■ 内 容

医療ミスを引き起こす原因の1つとなる論理判断の錯誤について、言語学の立場から考察を行う。

■ 到達目標

医療現場におけるコミュニケーション・ミスについて理解を深めることを目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 導入：医療ミスを引き起こす原因について
- 第2回 ことばと論理の関係 (1)：連言判断における過誤
- 第3回 ことばと論理の関係 (2)：選言判断における過誤
- 第4回 ことばと論理の関係 (3)：排他的選言をめぐる過誤
- 第5回 ことばと論理の関係 (4)：含意判断における過誤
- 第6回 ことばと論理の関係 (5)：「言い換え」とトートロジー
- 第7回 ことばと確率：医療診断におけるエビデンス
- 第8回 擬陽性問題について
- 第9回 前提確率から見た患者の立場と治療者の立場の違い
- 第10回 仮説と錯誤
- 第11回 第一種のエラーと第二種のエラー
- 第12回 統計学の基礎
- 第13回 有意水準と第一種のエラー
- 第14回 検定力と第二種のエラー
- 第15回 授業のまとめと到達度の確認

■ 評価方法

授業内に毎回行うミニテスト：50% 到達度の確認試験：50%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

基本的に授業中に全て理解することを目標とするが、復習に必要な時間として 50 分程度を目安とする。予習に関しては、特に必要としない。なお、授業内容に関しては教科書を用いず、適宜プリントを配布する。

■ 教 科 書

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①⑦⑧ DP：①②③④
OT 専攻 CP：①⑥⑦ DP：①②③④

授業科目	情報処理学				
担 当 者	永井 文子			国家出題基準	
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

Microsoft Windows? および Microsoft Office? アプリケーションを使用し、ファイル・フォルダの管理、文書作成、レポート作成、表計算、グラフ作成、発表資料作成等、学習に必要な PC 操作スキルを学習する。さらに、セキュリティと情報モラルの基礎を学習する。

■ 到達目標

- ・講義支援システム「Moodle」へのアクセス方法と課題提出方法を理解し利用できる。
- ・PC から利用する Web メールシステムを使用し、学校発行のメールアドレスでの送受信ができる。
- ・PC 上での文章入力、Windows 上のインターネットブラウザ利用の速やかな操作ができる。
- ・PC (Windows) 上におけるファイル管理を理解し、操作できる。
- ・文書作成ソフトを使用し、見やすく体裁の整った文書やレポートを作成できる。
- ・表計算ソフトを使用し、数式や書式設定を応用した表やグラフを作成・操作できる。
- ・プレゼンテーション資料作成ソフトを使用し、簡単な発表用スライドを作成できる。
- ・セキュリティと情報モラルの一般的な事例における、適切な対応／対策を理解し各自の ID、メールアドレスおよびそれぞれのパスワードの管理ができる。

■ 授 業 計 画

- 第1回 授業概要。ブラウザの利用①。学校メール(G-mail)利用開始(アドレス／パスワード設定)。eメール送受信。講義支援システム Moodle の利用開始 (ID / パスワード設定、ログイン／ログアウト)。
- 第2回 ファイル管理。(フォルダ及びファイル作成と Moodle からの、ファイル取得と保存の練習)。
ブラウザの利用②。G-mail における添付ファイルの扱い。
情報倫理 (ネット・電子メール利用の基礎知識とマナー)。
タイピング練習。
- 第3回 文書作成①
Word2013上での日本語入力 (変換操作)。
文書作成における書式設定① (文字書式、段落書式)。
- 第4回 文書作成②
文書作成における書式設定② (ページ書式)。
表の作成と編集。表罫線と段落罫線。
- 第5回 文書作成③
オブジェクト (図形、イラスト、画像) の扱い (挿入と加工)。
- 第6回 文書作成課題 (Word 課題)
作成・提出。
- 第7回 表計算①
Excel2013画面確認、シートとブック、入力と四則計算、セルの書式設定。
- 第8回 表計算②
集計表における数式 (四則計算、関数①)、絶対参照と相対参照。
- 第9回 表計算③
関数②、グラフの作成と編集。
- 第10回 表計算④
分析機能 (データベース機能)。
Office 連携 (Excel → Word) と形式。
- 第11回 表計算課題 (Excel 課題)
作成・提出。

- 第12回 プレゼンテーション①
プレゼンテーションと資料の関係。
PowerPoint2013概要、スライドの作成①テキスト入力。
- 第13回 プレゼンテーション②
オブジェクト挿入と加工。
プレゼンテーション機能（スライド切替・アニメーション設定・スライドショー）。
- 第14回 プレゼンテーション③
Office 連携（Excel グラフと表の利用と形式）とプレゼンテーションファイル作成練習。
総合演習準備（総復習）。
- 第15回 総合演習課題
作成・提出。

■ 評価方法

提出課題（8～10回）40%、総合演習課題60%（但し、受講態度に著しく問題がある場合は減点対象とします）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

PC キーボードのタイピングスキルを各自時間と環境を工夫してトレーニングすることを時間外の学習として必須とする。期初に案内する「オンライン上の練習サイト」上での「目標レベル」に到達するよう継続して練習すること。

講義毎に使用するファイルを保存するため、USB メモリを持参すること。（USB メモリは自身が使用しやすいもので構わない。他科目との共用も可。各自で使用・管理できるものを持参）

■ 教科書

書 名：Office2013で学ぶコンピュータリテラシー（ISBN978-4-407-33254-4）

著者名：小野目如快

出版社：実教出版

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：① DP：①②

OT 専攻 CP：① DP：①②

授業科目	医療情報学				
担当者	周藤 俊治			国家出題基準	
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
		開講時期	後期	選択・必修	選択

■ 内 容

現代の保健・医療・福祉の分野において欠かせない ICT の活用に必要な基礎知識として①デジタルデータがどのように発生しネットワーク上を流れているのか、②医療機関にどのようなシステムが導入・運用されているのか、③情報の収集や活用に関して講義を行なう。

■ 到達目標

- ①情報に関する計算ができる（情報量（A/D 変換）、転送速度）。
- ②保健医療情報システムの概要や、関連法規について説明できる。
- ③データのとりまとめ（代表値、散布度）や統計資料について説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 情報学（Ⅰ） 情報とは
- 第2回 情報学（Ⅱ） 情報量の計算について
- 第3回 情報学（Ⅲ） ネットワーク技術について
- 第4回 情報学（Ⅳ） 情報セキュリティ
- 第5回 保健医療情報システム（Ⅰ） 医用画像について
- 第6回 保健医療情報システム（Ⅱ） 電子カルテについて
- 第7回 保健医療情報システム（Ⅲ） 施設内の情報システムについて
- 第8回 保健医療情報システム（Ⅳ） 施設間の情報システムについて
- 第9回 統計基礎（Ⅰ） 尺度・度数分布について
- 第10回 統計基礎（Ⅱ） 代表値について
- 第11回 統計基礎（Ⅲ） 散布度について
- 第12回 医療統計（Ⅰ） 病院の統計資料
- 第13回 医療統計（Ⅱ） 比と率と割合
- 第14回 医療統計（Ⅲ） 相対危険度
- 第15回 医療情報の倫理 医の倫理・情報の倫理・関連法規について

■ 評価方法

筆記試験50% 課題提出50%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義情報（<http://www.medbb.net>）および、講義中に配付した資料を基に予習・復習すること。特に「到達度確認」は、確実に理解しておくこと。

■ 教 科 書

■ 参考図書

■ 留意事項

講義資料は適宜配布します

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP : ① DP : ①②

授業科目	医療情報学				
担当者	星 雅丈			国家出題基準	
学科名	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
		開講時期	後期	選択・必修	選択

■ 内 容

現代の医療・介護・福祉の分野において ICT の活用は必須事項である。将来、医療・介護の現場で働くセラピストは、あるレベル以上の情報処理技術や、医療情報に関する基礎知識を身に付けておかなければ、恥をかくに留まらず、現場に迷惑をかけることになる。本講義では、医療における情報の役割や守るべき倫理・セキュリティ、および、医療情報システムが現場で如何に利用されているかを学修する。そして、今後の調査研究活動に必要なデータ解析に関する情報処理技術や統計の基礎知識について学修する。

■ 到達目標

- ・情報の役割・重要性・危険性を理解し、基本情報処理技術を身に付け、ICT を適切に利用できる。
- ・医療における情報システムの目的と利用方法を理解し、実習病院における診療情報の流れをイメージできる。
- ・調査研究活動において必要とされる最低限のデータ処理・解析技術を身に付け、情報の利活用に資する資料を作成することができる。

■ 授業計画

- 第1回 情報学（Ⅰ） 情報と社会の関わりについて
- 第2回 情報学（Ⅱ） 情報の特質と医療情報について
- 第3回 情報学（Ⅲ） 医療における情報と情報処理技術について
- 第4回 情報学（Ⅳ） 情報通信・ネットワーク技術について
- 第5回 医療情報の倫理（Ⅰ） 関係法規・セキュリティ技術について
- 第6回 医療情報の倫理（Ⅱ） 個人情報保護・情報倫理について
- 第7回 医療情報システム（Ⅰ） オーダーエントリー・電子カルテシステムについて
- 第8回 医療情報システム（Ⅱ） 病院情報システム・リハビリテーション部門システムについて／小テスト
- 第9回 医療情報システム（Ⅲ） 小テストの復習／医療保険制度と医療情報について
- 第10回 演習：表計算ソフト基本操作の復習（Ⅰ）／国勢調査のデータ処理
- 第11回 演習：表計算ソフト基本操作の復習（Ⅱ）／地理情報を用いたデータ処理
- 第12回 演習：医療統計（Ⅰ） 尺度と度数分布について
- 第13回 演習：医療統計（Ⅰ） 基本統計量（平均値・分散・標準偏差）について
- 第14回 演習：医療統計（Ⅲ） 医療評価指標について（大規模データのクレンジング）
- 第15回 演習：医療統計（Ⅲ） 医療評価指標について（大規模データからの統計指標抽出）

■ 評価方法

小テスト：30% 課題提出：30% 課題レポート：40%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

皆さんが医療現場に入職した際、新人として期待されることのひとつにコンピュータを扱う技術があります。4年制大学から病院に入る皆さんは、技術を中心として学んできた専門学校生とは異なり、研究活動や演習などで身につけた、より幅の広い知識やアカデミックな経験が求められます。

本科目ではその一端を学びますので、情報処理用語やセキュリティ・情報倫理に関する小テストでは、それまでの講義の内容を配布資料を元にしっかり復習してください。演習では、できる限り他人の力を借りずに、試行錯誤することを望みます。卒業研究や入職後の研究活動に必要な、データ処理技術を習得する第一歩と考え、労をいとわず毎回真剣に自分自身で取り組んでください。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：医療情報 第5版 医療情報システム編

著者名：日本医療情報学会編集

出版社：篠原出版新社

書 名：第4版 医療情報サブノート

著者名：日本医療情報学会医療情報技師育成部会 編集

出版社：篠原出版新社

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

OT 専攻 CP：① DP：①②

授業科目	統計学				
担当者	周藤 俊治			国家出題基準	
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択

■ 内 容

取得したデータを集計し有効に活用するには、統計の基礎を理解するとともに取り扱う能力を身につける必要がある。そこで、本講義では PC を利用しデータを取り扱い、見やすい表の作り方やグラフの作り方から、検定・推定などの手法に関する授業を行う。

■ 到達目標

代表値や散布度などの指標を算出できる
 わかりやすい表・グラフを作成できる
 推定や検定の内容を理解し適切な検定法を選択できる

■ 授業計画

第1回 記述統計（Ⅰ）度数分布表
 第2回 記述統計（Ⅱ）度数分布図
 第3回 記述統計（Ⅲ）代表値
 第4回 記述統計（Ⅳ）散布度
 第5回 推定（Ⅰ）大数の法則
 第6回 推定（Ⅱ）中心極限定理
 第7回 推定（Ⅲ）正規分布による推定
 第8回 推定（Ⅳ）t 分布による推定
 第9回 検定（Ⅰ）二標本 t 検定
 第10回 検定（Ⅱ）一標本 t 検定
 第11回 検定（Ⅲ）ウィルコクソンの符号順位検定
 第12回 検定（Ⅳ）カイ二乗検定
 第13回 検定（Ⅴ）多重比較法
 第14回 判断分析（Ⅰ）感度・特異度
 第15回 判断分析（Ⅱ）ROC 曲線

■ 評価方法

試験50% 授業内課題50%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義情報（<http://www.medbb.net>）を確認し予習・復習すること。

■ 教科書

書 名：入門 統計学 検定から多変量解析・実験計画法まで
 著者名：栗原 伸一
 出版社：オーム社

■ 参考図書

■ 留意事項

PC は持ち込み可です

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP : ① DP : ①②

OT 専攻 CP: ①⑦ DP : ①②④

授業科目	文学				
担当者	小林 信			国家出題基準	
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	選択

■ 内 容

日本の近現代の文学史を振り返りながら、明治期、大正期、昭和期（戦前・戦後）の代表的作家の作品を読み、その批判的精神を理解する。

■ 到達目標

日本の近現代の文学の代表的作家の作品を読むことを通して、その作家の生き方や人となり、批判的精神を理解し、今後の学生生活ならびに社会生活のなかで必要とされる「自立して生きる力」を養うことをめざす。

■ 授業計画

- 第1回 授業ガイダンス（授業計画・形態の説明）
自己紹介（興味・関心のある作家、作品、分野など）調べ、発表したい作家を選び記述・発表。
- 第2回 日本の近現代文学史概説（文学思潮、作家、作品など）
- 第3回 （ex）石川啄木の文学について
時代背景や作品を通して作家像を解説
- 第4回 石川啄木の作品を読む「一握の砂、呼子と口笛、時代閉塞の現状」
（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く。）討論（意見の発表）
- 第5回 （1）森鷗外の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第6回 森鷗外の作品を読む「礼儀小言、当流比較言語学、遺言」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く。）討論。
- 第7回 （2）夏目漱石の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第8回 夏目漱石の作品を読む「現代日本の開化、イズムの功過、私の個人主義」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く）、討論。
- 第9回 （3）芥川龍之介の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第10回 芥川龍之介の作品を読む「文芸的な、あまりに文芸的な、或旧友へ送る手記、或阿呆の一生、点鬼簿」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く）、討論。
- 第11回 （4）永井荷風の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第12回 永井荷風の作品を読む「浮世絵の鑑賞、新婦朝者日記、断腸亭日乗」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く）、討論。
- 第13回 （5）坂口安吾の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第14回 坂口安吾の作品を読む「墮落論、続墮落論、日本文化私観」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く）、討論。
- 第15回 授業のまとめ（反省、課題、調べてみたい作家など）
各自の発表以外の作家1名についての感想（800字以内）

■ 評価方法

平常点（50%）
発表レジュメ（50%）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業に関係する作家の作品（事前に配布）を読んで授業に臨むこと。

■ 教 科 書

■ 参 考 図 書

■ 留 意 事 項

無断欠席や遅刻をしてはいけない。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①⑦ DP：①②④

OT 専攻 CP：①⑥ DP：①②

授業科目	教育学				
担当者	加藤啓一郎			国家出題基準	
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択

■ 内 容

本人の主体性の尊重、関係性の重視という視点に立って、発達、成長の過程を捉えなおし、教育的な働きかけについて実践研究を通して検討する

■ 到達目標

教育についての問題を、社会とのかかわりの中で捉えなおすことを通して、医療関係者に必要とされる教育学的思考や手法を身につけることを目的とする

■ 授業計画

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 主体性、関係性の重視と教育
- 第3回 生涯発達の視点と障害について1
- 第4回 生涯発達の視点と障害について2
- 第5回 生涯発達の視点と障害について3
- 第6回 生涯発達の視点と障害について4
- 第7回 生涯発達の視点と障害について5
- 第8回 エピソード記述の方法
- 第9回 教育における主体性の問題を捉えなおす
- 第10回 家族、地域の問題について
- 第11回 実践的検討1
- 第12回 実践的検討2
- 第13回 実践的検討3
- 第14回 実践的検討4
- 第15回 エピソードの発表と討議

■ 評価方法

出席、受講態度、レポート、試験の結果を総合的に評価する。レポート80%、発表20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

配布したプリントを読んでおくこと。

■ 教科書

授業中にプリントを配布

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①④ DP：①②
OT 専攻 CP：①③⑥ DP：①②③⑤

授業科目	法学概論				
担当者	家 正治			国家出題基準	
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	選択

■ 内 容

「社会あるところに法あり」という法格言があります。社会規範には道德規範、宗教規範、習俗規範、法規規範等がありますが、それらの中で法規規範はどのような特徴を有するのかを理解し、また今日の国内法と国際法が当面する問題と課題を考えたいと思います。

■ 到達目標

本講義を通じて、国内社会における「人の支配」に対する「法の支配」、また国際社会における「力の支配」に対する「法の支配」について理解することを目指します。その中で、リーガル・マインド「法的ものの考え方」に接近したいと思います。

■ 授業計画

- 第1回 「法学」を学ぶにあたって
- 第2回 法とは何か ― とくに法と道德について
- 第3回 法の発展と法の体系
- 第4回 近代国家と憲法
- 第5回 憲法と国民主権主義
- 第6回 憲法と基本的人権尊重主義
- 第7回 憲法と平和主義
- 第8回 憲法と権力分立（三権分立）
- 第9回 法と裁判（とくに裁判基準について）
- 第10回 国内法と国際法の関係
- 第11回 戦争の違法化と安全保障
- 第12回 人権の国際的保障（国際人権保障）の発展
- 第13回 国際経済のシステムと諸課題について
- 第14回 地球環境の保護とその発展
- 第15回 国内社会と国際社会における「法の支配」

■ 評価方法

筆記試験 60%
出席を含む平常点 40%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎回授業の始めに若干の時間を割き、身近で生起している法的問題（トピック）を取り上げて検討することにいたします。一般新聞、とくに政治、経済、社会面に留意しておいて下さい。

■ 教科書

書 名：法学入門〔第6版〕
著者名：末川博 編
出版社：有斐閣

■ 参考図書

書 名：現代法学入門〔第4版〕
著者名：伊藤正己・加藤一郎 編
出版社：有斐閣

■ 留意事項

問題意識をもつとともに日常的な勉学への努力を望みます。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP:① DP : ①②

OT 専攻 CP:① DP : ①②

授業科目	国際社会と日本				
担当者	家 正治			国家出題基準	
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択

■ 内 容

国際社会の構造とその現状を理解し、現代の国際社会が直面する戦争と平和の問題、途上国問題、人権問題、地球環境問題等の全人類的課題をとり上げながら、その中で占める日本の位置と役割について考察いたします。

■ 到達目標

国際社会の構造や実態を把握し、国際社会を規律している原則や規範について理解し認識するとともに、現代国際社会において日本の占める位置と係わりについて理解できるように努めます。

■ 授 業 計 画

- 第1回 国際社会の成立とそこでの日本
- 第2回 国際社会の発展とそこでの日本の位置と係わり
- 第3回 国際社会を動かす主要なアクターと日本
- 第4回 戦争の違法化と国際紛争の平和的解決（日本の係わりを含めて）
- 第5回 勢力均衡政策から集団安全保障へ（日本の係わりを含めて）
- 第6回 平和維持活動（PKO）の役割と日本の位置
- 第7回 軍縮の現状とその阻害要因および日本の役割
- 第8回 日米安全保障体制の展開と現状
- 第9回 先進国と途上国をめぐる経済問題 — 歴史的展開
- 第10回 先進国と途上国をめぐる経済問題 — 現状と実態
- 第11回 人権の国際的保障（国際人権保障）の発展
- 第12回 人権の国際的保障（国際人権保障）と日本
- 第13回 難民問題とその庇護と保護および日本の対応
- 第14回 地球環境の保護と国際協力（日本の役割を含めて）
- 第15回 今後の国際社会と日本の果たすべき位置

■ 評価方法

筆記試験（60％） 出席を含む平常点（40％）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

国際社会で生起している具体的な事例をとり上げながら、授業を行ないたいと思います。毎日、できるだけ一般新聞の国際面を読むように心掛けて下さい。

■ 教 科 書

書 名：国際関係〔全訂版〕
 著者名：家正治／岩本誠吾／桐山孝信／戸田五郎／西村智朗／福島崇宏 著
 出版社：世界思想社

■ 参考図書

書 名：国際機構〔第四版〕
 著者名：家正治／小畑郁／桐山孝信 編
 出版社：世界思想社

■ 留意事項

問題意識をもつとともに日常的な勉学への努力を望みます。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①④ DP：①②

OT 専攻 CP：①③ DP：①②

授業科目	生物学				
担当者	林 研			国家出題基準	
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

細胞・遺伝子など生物の基本的な仕組みを踏まえつつ、人間の身体のはたらきを学ぶ。

■ 到達目標

生物学の基礎を習得し、マクロな人体とミクロの世界を結びつけて理解できるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス、生物とは何か
- 第2回 細胞の構造
- 第3回 細胞分裂と発生
- 第4回 細胞の分化と幹細胞
- 第5回 神経・筋・骨
- 第6回 遺伝
- 第7回 遺伝子発現
- 第8回 ゲノム科学
- 第9回 酵素
- 第10回 エネルギーの生成
- 第11回 血液と免疫
- 第12回 内分泌系と自律神経系
- 第13回 恒常性の調節
- 第14回 刺激の受容
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

筆記試験（80%）、小テスト1回（20%）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎回配布する復習問題を、次の週までに解いておくこと。

■ 教科書

書 名：生物学 ヒトと環境の生命科学
 著者名：川崎祥二・古庄律 編著
 出版社：建帛社

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：① DP：①②
 OT 専攻 CP：① DP：①②

授業科目	福祉住環境論				
担 当 者	山田 隆人	国家出題基準			
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択

■ 内 容

OT・PT の職能の一つとして、日常生活活動の支援がある。環境因子である居住環境を改善することで、対象者の生活機能の維持・向上を計ります。本講義では、居住環境の改善に関連する制度や施策、関連する職能との連携および居住環境改善を行う為の基礎知識を学びます。

■ 到達目標

居住環境改善に関する法制度や社会状況を理解する
 高齢者や障害者の暮らしの状況を理解する
 障害の特性を理解し、環境支援の方法を理解する

■ 授 業 計 画

第1回 オリエンテーション、高齢者を取り巻く社会状況と住環境
 第2回 介護保険制度の概要
 第3回 高齢者向けの住宅施策の変遷と概要
 第4回 障害者を取り巻く社会状況と住環境
 第5回 福祉住環境とケアマネジメント
 第6回 図面を見る読む
 第7回 建築物の構造と留意点
 第8回 体の大きさと寸法
 第9回 福祉住環境整備の共通基本的技術
 第10回 生活行為別福祉住環境整備の手法 玄関
 第11回 生活行為別福祉住環境整備の手法 トイレ
 第12回 生活行為別福祉住環境整備の手法 浴室
 第13回 生活行為別福祉住環境整備の手法 その他
 第14回 福祉住環境整備課題1
 第15回 福祉住環境整備課題2

■ 評価方法

課題・確認テスト（100%）、出席状況（無断欠席や遅刻はマイナス評価）、の結果を総合的に評価する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業前に教科書の該当ページを全て読んでくること。
 確認のための課題・テストなどを実施する場合がある。
 教科書は最新版を購入すること。

■ 教 科 書

書 名：福祉住環境コーディネーター検定試験？ 2級公式テキスト
 著者名：東京商工会議所
 出版社：東京商工会議所

■ 参 考 図 書

■ 留 意 事 項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP : ①②③ DP : ①②
OT 専攻 CP : ①②③ DP : ①②

授業科目	自然科学概論				
担当者	林 研			国家出題基準	
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

物理・化学の基礎を学ぶとともに、様々な科学の分野の現状について広く見渡す。

■ 到達目標

人間の身体を理解する土台となる基礎知識と科学的素養を身につける。

■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス、科学の歴史
- 第2回 科学の方法
- 第3回 ニュートンと力学
- 第4回 回転運動と仕事
- 第5回 宇宙と物理
- 第6回 物質
- 第7回 物質の状態
- 第8回 物質の変化
- 第9回 エネルギーと環境
- 第10回 地球科学
- 第11回 進化と遺伝子
- 第12回 人体理解の歴史
- 第13回 脳科学
- 第14回 新しい科学
- 第15回 科学と社会

■ 評価方法

筆記試験（100％）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

補助資料で復習問題を出したときは、各自解いておくこと。

■ 教科書

使用しません。適宜プリントを配布します。

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①④ DP：①②
OT 専攻 CP：①③ DP：①②

授業科目	栄養学				
担 当 者	仲村 祐江	国家出題基準	基礎分野Ⅰ - 2-N		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	選択

■ 内 容

栄養学の基礎である五大栄養素を概説し、各栄養素の消化と吸収のメカニズムを学ぶ。そしてさらにライフステージごとの食事摂取基準を理解し、栄養アセスメントの理解を目指す。

■ 到達目標

1. 各栄養素の働きを理解する。
2. 基本的な栄養アセスメントを理解する。

■ 授業計画

- 第1回 1. 栄養素とは
2. 基本的な栄養アセスメントを理解する。
- 第2回 2. 栄養素とは
2. 基本的な栄養アセスメントを理解する。
- 第3回 炭水化物の種類と代謝と栄養1（糖質）
- 第4回 炭水化物の種類と代謝と栄養2（食物繊維）
- 第5回 脂質の種類と代謝と栄養
- 第6回 たんぱく質の種類と代謝と栄養
- 第7回 ビタミンの種類と機能
- 第8回 ミネラルの種類と機能
- 第9回 五大栄養素のまとめ
- 第10回 消化と吸収1 ～栄養素の吸収と仕組み～
- 第11回 消化と吸収2 ～腸内細菌の役割～
- 第12回 エネルギー代謝と食事摂取基準
- 第13回 ライフサイクルと栄養摂取 ～栄養状態の判定～
- 第14回 「食べること」の障害に対しての栄養サポート ～摂食・嚥下障害～
- 第15回 加齢による身体機能低下及び筋力低下のための栄養サポート ～筋力を高める栄養～

■ 評価方法

授業での課題レポート20% 小テスト10%
筆記試験70%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

栄養学は、専門用語が多いため授業前にテキストに目を通して確認をしておいてください。復習も必ず行い授業内容の理解に努めてください。

■ 教科書

書 名：イラスト栄養学総論
著者名：著者代表 田村 明
出版社：東京教学社

■ 参考図書

書 名：日本人の食事摂取基準〈2015年版〉
著者名：佐々木 敏 菱田 明
出版社：第一出版

■ 留 意 事 項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP : ① DP : ①②
OT 専攻 CP : ① DP : ①②

授業科目	医の倫理				
担 当 者	浜渦 辰二			国家出題基準	専門基礎 II-1-A
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

「医の倫理」の思想的系譜を明らかにし、現代における「医の倫理」の中心問題を講義する。

■ 到達目標

理学療法や作業療法などのリハビリテーション医療を学ぶ者に必要な「医の倫理」の知識を習得する。

■ 授 業 計 画

- 第1回 「医の倫理」思想史（1）：古代ギリシアの「ヒポクラテスの誓い」から現代の「リスボン宣言」まで
- 第2回 「医の倫理」思想史（2）：パターナリズムとインフォームド・コンセント
- 第3回 理学療法士、作業療法士、医師、看護師の倫理綱領
- 第4回 医療の現在（1）：病院医療から在宅医療へ
- 第5回 医療の現在（2）：病院死から在宅死へ
- 第6回 脳死と臓器移植
- 第7回 緩和ケア
- 第8回 終末期医療の最前線

■ 評価方法

毎回のコメント 30% 最後のレポート 70%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

事前に読んでおく文献、事後に読むべき文献を指示する。

■ 教 科 書

書 名：WMA 医の倫理マニュアル
 著者名：日本医師会
 出版社：日本医事新報社

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：⑦⑧ DP：③④⑤
 OT 専攻 CP：①⑥ DP：①②③⑤

授業科目	チーム医療論				
担 当 者	井上悟・大西環・辻郁（オムニバス）			国家出題基準	専門基礎分野Ⅲ -2
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

今改めて、チーム医療が求められる理由とチーム医療の事例、現状について紹介する。
理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のチームでの役割・業務・等について紹介する。

■ 到達目標

チーム医療が求められる理由とチーム医療の事例、現状について認識する。
理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のチームでの役割・業務・等について理解する。

■ 授 業 計 画

- 第1回 チーム医療とは？ 今更、なぜチーム医療が求められるのか？
- 第2回 チームモデルとメリット／デメリット
- 第3回 チーム医療実践具体事例1：医療安全・感染制御
- 第4回 チーム医療実践具体事例2：NST・がん
- 第5回 チーム医療実践具体事例3：リハビリテーション・チーム
- 第6回 ST：言語聴覚療法概論（発達障害）工藤
- 第7回 ST：言語聴覚療法概論（知的能力障害）齋藤
- 第8回 ST：言語聴覚療法概論（運動障害性構音障害）大根
- 第9回 ST：言語聴覚療法概論（失語症）大西
- 第10回 ST：言語聴覚療法概論（摂食嚥下障害）中村
- 第11回 作業療法の専門性（辻）
- 第12回 メイクアップを切り口としたチーム実践の実際（林部）
- 第13回 スポーツを切り口としたチーム実践の実際（足立）
- 第14回 動物介在を切り口としたチーム実践の実際（吉田）
- 第15回 事例検討演習（辻）

■ 評価方法

筆記試験またはレポート 70%、授業態度 30%で総合評価します。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと

■ 教 科 書

書 名：絵でわかる言語障害 言葉のメカニズムから対応まで 第2版
著者名：毛束真知子
出版社：Gakken 2376円

■ 参考図書

書 名：チーム医療を成功させる10か条
著者名：福原麻希
出版社：中山書店、2013年、3150円（最新版で）

■ 留 意 事 項

オムニバスのため、各回の講義内容、順序・等については変更することがあります。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP : ④ DP : ①②

OT 専攻 CP : ③ DP : ①②

授業科目	障害者スポーツ指導論				
担当者	島 雅人			国家出題基準	
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	自由選択

■ 内 容

障がい者スポーツ指導に関する専門的な知識と技術を身につけ、地域における障がい者スポーツのリーダー的役割が担えるよう、知識と技術の習得を図る。障がい者スポーツ指導における留意点や心理的側面について学ぶ。全国障害者スポーツ大会の歴史、目的と意義、実施競技、障がい区分に関する理解を座学にて学習する。全国スポーツ大会競技の指導法と競技規則について、実技実習を通して知識と技術を身につける。

■ 到達目標

1. 障がい者スポーツ指導に関する専門的な知識と技術を身につけることができる。
2. 障がい者スポーツ指導に留意点や心理的側面について理解することができる。
3. 全国障害者スポーツ大会の歴史、目的と意義、実施競技、障害区分を理解できる。
4. 全国スポーツ大会競技の指導法と競技規則について、実技実習を通して知識と技術を身につけることができる。

■ 授 業 計 画

- 第1回 文化としてのスポーツ (1. 5)
- 第2回 障がい者のスポーツ指導における留意点 (1. 5)
- 第3回 全国障害者スポーツ大会選手団の編成とコーチの役割 (1. 5)
- 第4回 全国障害者スポーツ大会の実施競技 (1. 0)、全国障害者スポーツ大会の障害区分 (0. 5)
- 第5回 全国障害者スポーツ大会の障害区分 (1. 5)
- 第6回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 陸上 (1. 5)
- 第7回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 陸上 (1. 5)
- 第8回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 サッカー (1. 5)
- 第9回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 サッカー (1. 5)
- 第10回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 グランドソフトボール (1. 5)
- 第11回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 グランドソフトボール (1. 5)
- 第12回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 水泳 (1. 5)
- 第13回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 水泳 (1. 5)
- 第14回 最重度障がい者のスポーツの実践 (実技) 学内 ボッチャ 他 (1. 5)
- 第15回 最重度障がい者のスポーツの実践 (実技) 学内 ボッチャ 他 (1. 5)

■ 評価方法

レポート 100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各講義の内容、実施する競技の規則に関しては、あらかじめ目を通しておくこと。
日頃から障がい者スポーツに関する情報を意識して得るようにしてください。テレビやインターネットで多くの情報を得ることができます。また、地域や大学が主催するイベントに参加して、できる限り障がい者スポーツに関わる機会を多く設定し、実体験を通じて障がい者スポーツの魅力を感じ、自分自身ができることについて考え行動することを望みます。

■ 教科書

書 名：障害者スポーツ指導教本 初級・中級＜改訂版＞

著者名：（公財）日本障がい者スポーツ協会 編

出版社：ぎょうせい

書 名：全国障害者スポーツ大会競技規則集（解説付）

著者名：（公財）日本障がい者スポーツ協会 編

書 名：パラリンピックスポーツ / ルールとテクニック

著者名：学研教育出版

出版社：中村 和彦

書 名：パラリンピック大百科

著者名：コンデックス情報研究所（著）,? 陶山 哲夫（監修）,? 日本障がい者スポーツ協会 & 2 その他

出版社：清水書院

書 名：希望をくれた人 - パラアスリートの背中を押したプロフェッショナル -

著者名：宮崎 恵理（著）

出版社：協同医書出版社

■ 参考図書

■ 留意事項

本科目は、中級障がい者スポーツ指導員資格を取得するために必修となる科目である。

欠席した場合は資格取得が出来なくなるため、出席に関しては十分注意すること。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：⑦⑧ DP：③④⑤

OT 専攻 CP: ④⑦ DP：②④

授業科目	スポーツ医学				
担 当 者	佐藤 睦美・他（オムニバス）			国家出題基準	
学 科 名	理学療法学専攻（必修）	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻（自由）	開講時期	前期	選択・必修	必修／自由

■ 内 容

スポーツによる傷害、内科的疾患、トレーニングや栄養についての基礎を学ぶ

■ 到達目標

スポーツ活動の場において、医療スタッフ・指導者として必要なスポーツ医学の知識を体得する

■ 授業計画

- 第1回 スポーツ傷害総論
- 第2回 ドーピング
- 第3回 熱中症
- 第4回 アスレチックリハビリテーション
- 第5回 スポーツと栄養
- 第6回 スポーツ現場におけるサポート①
- 第7回 スポーツ現場におけるサポート②
- 第8回 スポーツ現場におけるサポート③

■ 評価方法

講義内課題，レポート 100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義で学んだ内容をしっかりと復習すること

■ 教 科 書

■ 参考図書

書 名：やさしいスチューデントトレーナーシリーズ4 新・スポーツ医学
 著者名：メディカル・フィットネス協会（監修）
 出版社：嵯峨野書院

■ 留意事項

連絡事項は Moodle の科目ページを通じて行うので、各自確認すること

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP: ①②③④⑤
 OT 専攻 CP: ①②③⑤
 DP：CP との関連はポリシー参照

授業科目	リハビリテーション概論				
担 当 者	井上 悟	国家出題基準		専門基礎分野Ⅲ -2	
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

リハビリという言葉は、一般社会でも非常によく使われるようになった。通常、疾病や外傷によって生じた障害に対する機能回復のための治療・訓練として用いられてきている。しかし、この解釈は、リハビリテーションの中の極めて狭い領域を示しているに過ぎない。リハビリテーション本来の理念を歴史的背景を含め紹介する。

■ 到達目標

リハビリテーション(rehabilitation)を正しく理解する。正しい知識をもって、リハビリテーション医療の対象や現状、各専門職の役割について知る。

■ 授 業 計 画

- 第1回 リハビリテーションとは？ その概念・理念・定義
- 第2回 健康・疾病・障害の概念と分類
- 第3回 障害論（国際障害分類、国際生活機能分類）
- 第4回 廃用症候群とは
- 第5回 障害の心理と障害受容
- 第6回 リハビリテーションの過程（評価とは？）
- 第7回 リハビリテーションの諸段階：医学的・職業的リハビリテーション
- 第8回 リハビリテーションの諸段階：社会的・教育的リハビリテーション
- 第9回 医療と各職種に関わる諸問題
- 第10回 リハビリテーション専門職とその役割
- 第11回 チーム・アプローチ：評価と記録の重要性
- 第12回 ADL,QOL の概念と評価法
- 第13回 地域リハビリテーションと高齢者対策
- 第14回 リハビリテーションを支える社会保障制度と法律 1
- 第15回 リハビリテーションを支える社会保障制度と法律 2

■ 評価方法

筆記試験またはレポート 70%、授業態度 30%で総合評価します。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと

■ 教 科 書

書 名：リハビリテーション概論（第3版）
 著者名：上好秋孝・田島文博
 出版社：永井書店，2014年（最新版で）,3000円税別

■ 参 考 図 書

書 名：チーム医療を成功させる10か条
 著者名：福原麻希
 出版社：中山書店，2013年,3150円（最新版で）

■ 留 意 事 項

指定の教科書は後期開講のリハビリテーション医学の参考書として利用可能。各回の講義テーマ、内容については関連する講義の進捗状況により変更することがあります。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：④ DP：①②

OT 専攻 CP：③ DP：①②

授業科目	介護概論				
担当者	橋本 卓也			国家出題基準	I -1A,B,2,3
学科名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

近年、重視されている「キュアからケアへ」という概念に内包されている「治療から全人間的ケアへ」「医学モデルから生活・社会モデルへの転換」という視点を共有するとともに、介護・介助実践におけるジレンマについても考察・言及する。また、重い障害をもつ人たちから提起された「介助者手足論」という考え方を通して利用者の尊厳を支えるケアのあり方や自立（自律）支援を目指すケアについて理解を深める。さらに「認知症」800万人時代といわれている現代における認知症高齢者に対する「家族介護」「在宅介護」のあり方を考える。

■ 到達目標

- ①日本が抱える介護問題の実態及びその要因について理解することができる。
- ②利用者本位、当事者本位の視点にたった介護・介助のあり方について考察することができる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
日本が抱える介護問題の背景（日本の近代化と少子・高齢化問題）
- 第2回 介護の原理性（介護の本質及び全人間的視点にたったケアのあり方について）
- 第3回 介護・介助実践を通して生起するジレンマについて
- 第4回 アシュリー事件を通して見えてくる重い障害をもつ人々たちに対する介助のあり方・価値等について
- 第5回 感情労働としてのケアワークについて
- 第6回 「介助者手足論」という理論から見えてくる利用者本位の視点に立ったケアのあり方とは
- 第7回 グリーフケアについて
- 第8回 認知症高齢者に対する家族介護・在宅介護のあり方について（NHK の映像を通して）

■ 評価方法

レポート（3回）を評価点とする。その他、出席率・授業中の態度等は減点対象とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

日頃から介護問題に関する記事・ニュース等について関心をもつこと。

■ 教 科 書

■ 参考図書

書 名：母よ殺すな

著者名：横塚晃一

出版社：生活書院

書 名：アシュリー事件

著者名：児玉真美

出版社：生活書院

■ 留意事項

授業への積極的参加を望む。介護者－被介護者両者の視点から介護（介助）の在り方を学ぶこと

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP : ①③④ DP : ①②

OT 専攻 CP : ①②③ DP : ①②

授業科目	疫学・公衆衛生学				
担当者	白井 文恵	国家出題基準	専門基礎Ⅲ -B, 専門Ⅲ -7		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

地域で生活する人々の健康の維持・増進・向上のために必要な公衆衛生学について学習する。

■ 到達目標

健康に生活するとはどのようなことか、健康に生活することを保障する社会の仕組みについて理解する。

■ 授業計画

- 第1回 衛生学・公衆衛生学序論
- 第2回 保健統計
- 第3回 疫学
- 第4回 疾病予防と健康管理
- 第5回 主な疾病の予防
- 第6回 母子保健
- 第7回 高齢者の保健・医療・介護
- 第8回 まとめ

■ 評価方法

筆記試験 80% 提出課題20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習：授業前に教科書の単元を読んでおくこと

復習：授業後、教科書の単元を読み、わからないことは次の授業の時に質問すること

■ 教 科 書

書 名：シンプル衛生公衆衛生学2018
 著者名：鈴木庄亮監修
 出版社：南江堂

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①③ DP：①②
 OT 専攻 CP：①②③ DP：①②

授業科目	障害者福祉論				
担当者	橋本 卓也			国家出題基準	Ⅲ -1-D ①
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

障害者福祉に関する理念・価値・法制度及び障害構造等を体系的に理解するとともに障害をもつ人たちの生活・教育・雇用・施設環境等の実態を通して彼らを排除する社会構造への関心と支援のあり方を模索する。また、障害をもつ人たちがおかれている現状を把握し、「医学モデル」という狭義の捉え方ではなく、「生活・社会モデル」の視点からこの問題を考える。

■ 到達目標

- ①障害者福祉の理念・価値及び障害をもつ人たちの生活実態を把握することができる。
- ②障害をもつ人たちの生活ニーズを解決するための制度・施策等を把握し、支援のあり方を考察することができる。
- ③障害者福祉に関する医学モデルと生活・社会モデルの差異を理解できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
障害者福祉の理念及び価値
- 第2回 障害者の法的定義と日本の障害者の実態
- 第3回 日本の障害者福祉施策体系
- 第4回 障害者の雇用・就労の現状と課題
- 第5回 障害者の所得保障と経済的負担軽減
- 第6回 障害者制度・施策の変遷（支援費制度から障害者総合支援法へ）
- 第7回 障害者施設論（世界の情勢と課題及び地域移行について）
- 第8回 障害者の権利擁護と障害者虐待防止法（権利侵害の実態と要因）

■ 評価方法

筆記試験100% 出席率は減点対象とする。その他、授業中の態度など総合的に評価する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回の授業項目について「参考図書」その他の当授業に関連する書籍を読んだ上で、授業に臨むこと。

■ 教 科 書

■ 参考図書

書 名：よくわかる障害者福祉
著者名：小澤 温（編）
出版社：ミネルヴァ書房

■ 留意事項

当該科目は、スポーツ指導員（初級）に必要な科目である。欠席すると取得が難しくなるため健康管理等に留意して欠席がないように心がけること。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP : ①③④ DP : ①②

OT 専攻 CP : ①②③ DP : ①②

授業科目	老人福祉論				
担当者	橋本 卓也			国家出題基準	Ⅲ - 1 - C
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

現代日本の高齢者を取り巻く現状と福祉課題を考察するとともに介護保険制度、地域包括ケアシステムについて理解する。また、権利擁護の視点から高齢者に対する虐待・孤立死等の要因を探る。更に国の認知症施策としてある認知症祖初期集中支援チームについても学ぶ。

■ 到達目標

- ①高齢者福祉の社会的背景、理念、目標等について理解することができる。
- ②介護保険を中心とする高齢者福祉施策と、それに基づいた様々な施策と具体的実践について説明することができる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
日本の高齢者の実態と高齢者を取りまく現状
- 第2回 介護保険制度について
- 第3回 地域包括ケアシステムについて
- 第4回 認知症の症状と日本の現状
- 第5回 認知症初期集中支援チームについて
- 第6回 孤独死・孤立死の現状について
- 第7回 セルフ・ネグレクトについて
- 第8回 地域における見守りネットワークについて

■ 評価方法

定期試験（筆記試験）80％ 小テスト20％ その他、授業中の態度など総合的に評価する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回の授業項目について「参考図書」その他の当授業に関連する書籍を読んだ上で、授業に臨むこと。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：高齢者に対する支援と介護保険制度
著者名：岡田進一 橋本正明（編著）
出版社：ミネルヴァ書房

■ 留意事項

授業に対して積極的な参加を望む（態度、発言、小テストへの取り組みなど）

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①③④ DP：①②
OT 専攻 CP：①②③ DP：①②

授業科目	感染症学				
担当者	藤岡 重和	国家出題基準	II-2-b, III-1-B-j		
学科名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

感染症と人・微生物との関わり、感染防御機構、感染症の検査と診断、治療、そして感染予防策について学習する。感染症は、リハビリテーション領域において、特に注意が必要であり、各種感染症について基本的理解ができるように解説する。

■ 到達目標

1. 微生物と感染症、感染防御機構について基本的理解ができる
2. 代表的な感染症について、病原微生物とその感染経路、臨床像、診断と治療法を理解する
3. 院内感染および感染予防対策について説明できる

■ 授業計画

- 第1回 感染症総論 (1) 微生物と感染症、感染防御機構
第2回 感染症総論 (2) 感染症の検査と診断、感染症の治療
第3回 感染症各論 (1) 呼吸器感染症、結核
第4回 感染症各論 (2) 消化器感染症、食中毒、肝炎
第5回 感染症各論 (3) 尿路感染症、性感染症、皮膚・粘膜の感染症
第6回 感染症各論 (4) 人獣共通感染症、寄生虫感染症、新興感染症、感染症トピックス
第7回 感染制御学 (1) 院内感染、薬剤耐性菌、標準予防策、感染経路別予防策
第8回 感染制御学 (2) リハビリテーション業務における感染対策、国家試験対策

■ 評価方法

筆記試験 80% 小テスト 10% 受講態度 10%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。
次回授業までに、前回の授業内容を復習しておいてください。

■ 教科書

書 名：臨床微生物、医動物 (NURSING GRAPHICUS 疾患の成り立ち 3)
著者名：矢野久子、安田陽子
出版社：MC メディカ出版

■ 参考図書

書 名：病原体・感染・免疫 第2版
著者名：藤本秀士
出版社：南山堂

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①③⑥ DP：①②
OT 専攻 CP：①②⑤ DP：①②

授業科目	医療安全学				
担当者	藤岡 重和			国家出題基準	III-A-b
学科名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

頻発する医療事故を概観し、医療現場の現状と医療職を取りまく社会的環境を理解する。次に、事故発生のメカニズムと事故分析、事故対策について学習する。また、事故事例の分析を通して医療機関における安全対策のありかたについて考える。

■ 到達目標

1. 医療事故の実際を知り、安全対策の必要性について理解する
2. 事故の発生要因について説明できる
3. 医療機関における安全対策を説明できる

■ 授業計画

- 第1回 医療事故の疫学、頻度、医療事故事例の紹介
 第2回 医療事故の定義、分類、医療事故の報告制度
 第3回 医療事故発生のメカニズム
 第4回 医療事故分析、事故対策
 第5回 医療機関における安全対策 (1)
 第6回 医療機関における安全対策 (2)
 第7回 医療事故後の対応、医療事故に関する法的責任
 第8回 リハビリテーション業務における安全対策

■ 評価方法

筆記試験 60%、提出課題 30%、受講態度 10%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業で、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。
 次回授業までに、前回の授業内容を復習しておいてください。

■ 教科書

書 名：医療安全（NURSING GRAPHICUS 看護の統合と実践 2）
 著者名：松下由美子、杉山良子、小林美雪
 出版社：MC メディカ出版

■ 参考図書

書 名：リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン
 著者名：日本リハビリテーション医学会診療ガイドライン委員会
 出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①③⑥ DP：①②
 OT 専攻 CP：①②⑤ DP：①②

授業科目	基礎解剖学				
担当者	柴田 雅朗	国家出題基準	専門基礎Ⅰ - 1 ABCDEHJ		
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

人体および人体を構成している細胞・組織・器官の形態・構造の基本を系統的に学ぶ。

■ 到達目標

人体構造の基礎的知識を身につけ、運動器系や神経系の解剖学を学ぶための基礎を作る。

■ 授業計画

第1回 解剖学総論

1. 細胞・組織・器官・系
2. 肉眼解剖と組織学
3. 系統解剖と局所解剖学
4. 発生学
5. 体表解剖学
6. 人体の正常・異常・個体差
7. 解剖学的姿勢
8. 基本的な解剖学用語

第2回 骨学総論 1. 骨の肉眼的構造 2. 髄腔と骨髓 3. 体腔

第3回 関節靱帯学総論

1. 線維性連結
2. 軟骨性連結
3. 滑膜性連結
4. 関節の一般構造（関節包、滑膜、滑液）
5. 関節の特殊構造（関節円板、関節半月、関節靱帯、関節唇）

第4回 筋学総論

1. 筋の分類（平滑筋と横紋筋）
2. 随意筋と不随意筋
3. 骨格筋の基本形態
4. 腱と腱膜
5. 筋の付着（起始と停止）
6. 筋の作用（屈曲・伸展、内転・外転、内旋・外旋）
7. 主動筋、拮抗筋、協力筋
8. 骨格筋の補助装置（筋膜、支帯、筋間中隔、筋滑車、滑液包、腱鞘）

第5回 神経学総論 1

1. 中枢神経系と末梢神経系
2. 求心性神経と遠心性神経
3. 白質と灰白質
4. 神経細胞（神経細胞体、樹状突起、軸索、髄鞘）
5. 神経線維と神経

第6回 神経学総論 2

1. 脊髄の白質と灰白質（前柱、後柱、前索、側索、後索）
2. 脊髄の区分（頸髄～尾髄）
3. 脊髄髄節と脊髄神経（髄節、前根と後根、前枝と後枝）

第7回 組織および胚葉

1. 組織（上皮組織、支持組織）
2. 胚葉（外胚葉、中胚葉、内胚葉）
3. 三層性胚盤と器官・組織形成

第8回 循環器系総論

1. 血管系の役割
2. 血管（動脈・毛細血管・静脈の構造）
3. 動脈・静脈と動脈血・静脈血
4. 吻合
5. 終動脈

第9回 心臓

1. 心筋細胞
2. 心臓の位置
3. 心臓を包む膜
4. 心臓の内腔（心房と心室）
5. 肺循環と体循環

第10回 心臓（続き）

1. 房室弁（腱索と乳頭筋、左房室弁・右房室弁）
2. 動脈弁（肺動脈弁・大動脈弁）
3. 心臓の血管（冠状動脈、冠状静脈洞）

第11回 動脈系

1. 大動脈
2. 大動脈弓（腕頭動脈、左総頸動脈、左鎖骨下動脈）
2. 頭頸部に分布する動脈
3. 上肢帯と上肢に分布する動脈
4. 胸部内臓・腹部内臓に分布する動脈

第12回 動脈系（続き）

1. 脳の動脈

第13回 胎児循環

1. 胎盤
 2. 臍静脈と臍動脈
 3. 静脈管（アランチウス管）
 4. 卵円孔
 5. 動脈管（ボタロー管）
- リンパ系 1. リンパ管とリンパ節 2. 胸管 3. 右リンパ本幹 4. 脾臓

- 第14回 総復習 1
復習のための練習問題（国家試験形式）とその解説
- 第15回 総復習 2
復習のための練習問題（国家試験形式）とその解説

■ 評価方法

筆記試験 100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

復習を必ず毎回やって、分からない内容がないようにして下さい。分からないことは自分で調べ、解決がつかない場合は遠慮なく質問して下さい。

■ 教科書

書 名：PT・OT・STのための解剖学
著者名：渡辺正仁 監修
出版社：廣川書店

書 名：ネッター解剖学アトラス
著者名：相磯貞和 訳
出版社：南江堂

書 名：消して忘れない解剖学 要点整理ノート
著者名：井上 馨・松村譲児 編集
出版社：羊土社

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①③④⑥ DP：①②
OT 専攻 CP：①②③⑤ DP：①②

授業科目	解剖学基礎実習				
担当者	柳 千磨, 伊禮 まり子, 相原 一貴 (オムニバス)			国家出題基準	専門分野 I -1-B
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

上肢の骨・関節・筋・体幹の骨・関節・筋について、骨実習や組織実習、体表解剖学などを通して学ぶ。

■ 到達目標

運動器系解剖学の基礎的知識を身につけ、それを骨標本・身体に適用することができるようになる。

■ 授業計画

第1回 全身骨格とその分類

1. 骨の標本を使って全身骨格を作る。
2. 全身骨格を軸骨格と付属性骨格に分ける。
3. 付属性骨格をさらに分類する。
4. 海綿骨と緻密骨を区別する。

第2回 脊柱と体表解剖学

1. 椎骨の基本構造。
2. 頸椎・胸椎・腰椎・仙骨・尾骨について観察する。
3. 自分自身の体で椎骨を触知する。

第3回 上肢帯骨と体表解剖学

1. 肩甲骨の各部を観察する。
2. 鎖骨の各部を観察する。
3. 肩甲骨と鎖骨を触知する。
4. 肩甲骨と鎖骨の動きを理解する。

第4回 胸郭と体表解剖学

1. 胸骨の各部
2. 胸骨角
3. 肋硬骨と肋軟骨
4. 真肋と仮肋
5. 肋骨の各部
6. 第一肋骨（前斜角筋結節と鎖骨下動脈溝）
7. 頸肋と腰肋
8. 胸骨と肋骨の触知

第5回 自由上肢と体表解剖学

1. 上腕骨の各部
2. 橈骨の各部
3. 尺骨の各部
4. 手の骨
5. 手根溝
6. 自由上肢骨の触知

第6回 脊柱と胸郭の連結

1. 椎骨間の連結
2. 椎間板
3. 環軸関節（正中環軸関節と外側環軸関節、環椎十字靱帯）
4. 胸郭の連結
5. 肩鎖関節
6. 胸鎖関節

第7回 上肢の関節と靱帯

1. 肩関節
2. 腕尺関節
3. 腕橈関節
4. 上橈尺関節
5. 下橈尺関節
6. 手関節
7. 手根中手関節
8. 中手指節関節
9. 指節間関節

第8回 下肢帯骨と骨盤

1. 寛骨
2. 腸骨
3. 坐骨
4. 恥骨
5. 骨盤

第9回 自由下肢骨

1. 大腿骨
2. 脛骨
3. 腓骨
4. 膝蓋骨
5. 足の骨

第10回 股関節と仙腸関節

1. 股関節の構造と動き
2. 仙腸関節の構造と動き

第11回 膝関節、脛腓関節と足関節

1. 膝関節の構造と動き
2. 脛腓関節の構造と動き
3. 足関節の構造と動き

第12回 頭蓋骨その1

1. 頭蓋を構成する骨
2. 頭蓋骨の連結
3. 泉門

第13回 頭蓋骨その2

1. 眼窩
2. 鼻腔
3. 副鼻腔
4. 側頭下窩
5. 翼口蓋窩
6. 顎関節

第14回 総復習1

復習のための練習問題とその解説

第15回 実技試験

■ 評価方法

小テスト：40% 実技試験：10% 筆記試験：50%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業後各自復習を行い、その知識定着度を測る為、次の授業で小テストに臨んでももらいます。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：標準理学療法学・作業療法学【解剖学】

著者名：（編）野村 巖

出版社：医学書院

書 名：プロメテウス解剖学アトラス【解剖学総論運動器系】

著者名：（監訳）坂井 建雄，松村 譲児

出版社：医学書院

■ 留意事項

身体の触知などを行うので、身体を触り易い服装で臨んでください。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①②③④⑥⑦ DP：①②④

授業科目	解剖学基礎実習				
担 当 者	山田 隆人	国家出題基準	専門分野Ⅰ -1-B		
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

上肢の骨・関節・筋・体幹の骨・関節・筋について、骨実習や組織実習、体表解剖学などを通して学ぶ。

■ 到達目標

運動器系解剖学の基礎的知識を身につけ、それを骨標本・身体に適用することができるようになる。

■ 授業計画

第1回 全身骨格とその分類

1. 骨の標本を使って全身骨格を作る。
2. 全身骨格を軸骨格と付属性骨格に分ける。
3. 付属性骨格をさらに分類する。
4. 海綿骨と緻密骨を区別する。

第2回 脊柱と体表解剖学

1. 椎骨の基本構造。
2. 頸椎・胸椎・腰椎・仙骨・尾骨について観察する。
3. 自分自身の体で椎骨を触知する。

第3回 上肢帯骨と体表解剖学

1. 肩甲骨の各部を観察する。
2. 鎖骨の各部を観察する。
3. 肩甲骨と鎖骨を触知する。
4. 肩甲骨と鎖骨の動きを理解する。

第4回 胸郭と体表解剖学

1. 胸骨の各部
2. 胸骨角
3. 肋硬骨と肋軟骨
4. 真肋と仮肋
5. 肋骨の各部
6. 第一肋骨（前斜角筋結節と鎖骨下動脈溝）
7. 頸肋と腰肋
8. 胸骨と肋骨の触知

第5回 自由上肢と体表解剖学

1. 上腕骨の各部
2. 橈骨の各部
3. 尺骨の各部
4. 手の骨
5. 手根溝
6. 自由上肢骨の触知

第6回 脊柱と胸郭の連結

1. 椎骨間の連結
2. 椎間板
3. 環軸関節（正中環軸関節と外側環軸関節、環椎十字靱帯）
4. 胸郭の連結
5. 肩鎖関節
6. 胸鎖関節

第7回 上肢の関節と靱帯

1. 肩関節
2. 腕尺関節
3. 腕橈関節
4. 上橈尺関節
5. 下橈尺関節
6. 手関節
7. 手根中手関節
8. 中手指節関節
9. 指節間関節

第8回 下肢帯骨と骨盤

1. 寛骨
2. 腸骨
3. 坐骨
4. 恥骨
5. 骨盤

第9回

1. 大腿骨
2. 脛骨
3. 腓骨
4. 膝蓋骨
5. 足の骨

第10回 股関節と仙腸関節

1. 股関節の構造と動き
2. 仙腸関節の構造と動き

第11回 膝関節、脛腓関節と足関節

1. 膝関節の構造と動き
2. 脛腓関節の構造と動き
3. 足関節の構造と動き

第12回 頭蓋骨その1

1. 頭蓋を構成する骨
2. 頭蓋骨の連結
3. 泉門

第13回 頭蓋骨その2

1. 眼窩
2. 鼻腔
3. 副鼻腔
4. 側頭下窩
5. 翼口蓋窩
6. 顎関節

第14回 総復習1

復習のための練習問題とその解説

第15回 実技試験

■ 評価方法

小テスト：40% 実技試験：10% 筆記試験：50%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業内容についての小テストを次回の講義時間に実施します。小テストまでに、授業で確認した内容を各自復習を行って下さい。

身体構造である解剖学的な視点に加え、運動学的な視点、触診などを演習的に行っていく予定である。触診などの技術的な内容は、必ず復習して置くこと。実技テストでは、触診などの技術的な内容を確認する。

■ 教科書

書 名：標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版

著者名：野村巖 編集

出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：ネッター解剖学アトラス

著者名：相磯貞和 訳

出版社：南江堂

■ 留意事項

基本的な人体の構造を学びます。内容は国家試験で求められる内容を基本としています。

作業療法士の国家試験では、出題数が多い教科です。しっかり学びましょう。

■ ポリシー該当項目

OT 専攻 CP：①②③④⑤ DP：①④

授業科目	運動器系の解剖学				
担 当 者	田中 稔	国家出題基準	専門基礎Ⅰ -1ABC		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

身体部位の形態と構造を理解することにより、身体運動を理解する基礎を学ぶ。

■ 到達目標

理学療法においては、加齢や寝たきり等による運動機能低下の予防、維持が主要目的となるが、骨格や筋などの運動器官の解剖学的知識の習得は目的の達成のために極めて重要となる。講義内容では、細胞と組織、骨格系、関節靭帯系、筋系の形態を機能と関連付けすることで理解を深めていく。また、組織学的な知見を示すことで、解剖学分野の科学的な関心へとつなげていく。

■ 授 業 計 画

- 第1回 解剖学総論：人体の概要・構成
- 第2回 骨学各論：上肢の骨
- 第3回 上肢の関節と靭帯
- 第4回 筋学各論：上肢帯、上腕の筋
- 第5回 筋学各論：前腕、手の筋
- 第6回 骨学各論：下肢の骨
- 第7回 下肢の関節と靭帯
- 第8回 筋学各論：下肢帯の筋
- 第9回 筋学各論：大腿の筋
- 第10回 筋学各論：下腿、足の筋
- 第11回 骨学各論：頭蓋、脊柱、胸郭
- 第12回 頭頸部、体幹の関節と靭帯
- 第13回 筋学各論：頭頸部の筋
- 第14回 筋学各論：胸腹部の筋
- 第15回 筋学各論：背部の筋

■ 評価方法

筆記試験：80%，小テスト：20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業開始時に知識の確認テストを実施する。そのため、事前に前回授業の復習をしておくこと。

■ 教 科 書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学

著者名：編集：野村 巖

出版社：医学書院

書 名：基礎運動学 第6版

著者名：中村隆一・齋藤宏・長崎浩 著

出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参 考 図 書

■ 留 意 事 項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP : ④⑥ DP : ②③⑤

授業科目	運動器系の解剖学				
担 当 者	山田 隆人	国家出題基準	専門基礎Ⅰ -1ABC		
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

骨格や筋などの運動器官の解剖学的知識の習得は、作業療法支援を行う上で必要となる。講義では、骨格、関節靭帯、筋系の形態を機能に関連付けて理解を深める。

■ 到達目標

骨格の位置や構造、作用を理解できる
 関節靭帯の構造や作用を理解できる
 筋の位置や構造、作用を理解できる

■ 授 業 計 画

第1回 オリエンテーション、解剖学総論
 第2回 骨学総論
 第3回 骨学各論：頭蓋、脊柱、胸郭
 第4回 骨学各論：上肢、下肢
 第5回 関節靭帯総論
 第6回 頭頸部、体幹の関節と靭帯
 第7回 上肢の関節と靭帯
 第8回 下肢の関節と靭帯
 第9回 筋学総論
 第10回 上肢帯、上肢の筋
 第11回 前腕・手の筋
 第12回 下肢帯・大腿の筋
 第13回 下腿・足の筋
 第14回 頭頸部の筋
 第15回 胸腹部・背部の筋

■ 評価方法

小テスト：40% 実技試験：10% 筆記試験：50%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業内容についての小テストを次回の講義時間に実施します。小テストまでに、授業で確認した内容を各自復習を行って下さい。
 身体構造である解剖学的な視点に加え、運動学的な視点、触診などを演習的に行っていく予定である。触診などの技術的な内容は、必ず復習して置くこと。実技テストでは、触診などの技術的な内容を確認する。

■ 教 科 書

書 名：標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版
 著者名：野村巖 編集
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：ネッター解剖学アトラス
著者名：相磯貞和 訳
出版社：南江堂

■ 留意事項

基本的な人体の構造を学びます。内容は国家試験で求められる内容を基本としています。
作業療法士の国家試験では、出題数が多い教科です。しっかり学びましょう。

■ ポリシー該当項目

OT 専攻 CP：①②③④⑤ DP：①④

授業科目	神経系の解剖学				
担当者	柴田雅朗・赤松香奈子（オムニバス）			国家出題基準	専門基礎Ⅰ-D
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

中枢神経系および末梢神経系の各部について学習し、運動や感覚の伝わる経路（伝導路）について学ぶ。

■ 到達目標

中枢神経系および末梢神経系を構成している各部の名称や機能を説明でき、上行性および下行性伝導路の種類と各伝導路の主要な部位が分かる。これらは専門領域で学ぶ神経系疾患、リハビリテーションの理解の基礎となる。

■ 授業計画

- 第1回 髄膜、脳室、脳脊髄液
脊髄：各部の名称、前根、後根
- 第2回 大脳：1. 溝、回、葉 2. 大脳皮質 3. ブロードマン野 4. 運動野、体性感覚野 5. 優位半球 6. 神経線維の種類
- 第3回 大脳（続き）：1. 大脳基底核（機能、構造、障害） 2. 内包（構造、血管分布、脳卒中）
- 第4回 大脳（続き）：1. 扁桃体
間脳：1. 視床 2. 視床下部
中脳：1. 中脳蓋 2. 中脳被蓋 3. 大脳脚
- 第5回 橋：1. 橋底部 2. 橋被蓋
延髄：1. オリーブ 2. 錐体交叉 3. 網様体
小脳：1. 構成〔区分〕 2. 皮質と髄質 3. 小脳脚
- 第6回 末梢神経系：1. 脊髄神経とは 2. 脊髄神経前枝 3. 脊髄神経後枝
- 第7回 末梢神経系（続き）：1. 腕神経叢の構成 2. 腕神経叢の障害
- 第8回 末梢神経系（続き）：1. 脳神経の総論 2. 嗅神経、視神経 3. 動眼神経 4. 滑車神経 5. 三叉神経 6. 外転神経
- 第9回 末梢神経系（脳神経続き）：1. 顔面神経 2. 内耳神経 3. 舌咽神経 4. 迷走神経 5. 副神経 6. 舌下神経
自律神経系：1. 自律神経とは 2. 交感神経 3. 副交感神経
- 第10回 下行性伝導路：1. 錐体路（皮質脊髄路、皮質核路） 2. 錐体外路 3. 反射路
- 第11回 上行性伝導路：1. 温痛覚（外側脊髄視床路） 2. 粗大触圧覚（前脊髄視床路） 3. 精細触圧覚・意識にのぼる深部感覚（長後索路）
- 第12回 上行性伝導路（続き）：1. 無意識的な深部感覚：脊髄小脳路・副楔状束小脳路 2. 関連痛
総復習のための練習問題配布
- 第13回 総復習1：復習のための練習問題（国家試験形式）とその解説
- 第14回 総復習2：復習のための練習問題（国家試験形式）とその解説
- 第15回 総復習3：復習のための練習問題（国家試験形式）とその解説

■ 評価方法

筆記試験 100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

復習を必ず毎回やって、分からない内容がないようにして下さい。分からないことは自分で調べ、解決がつかない場合は遠慮なく質問して下さい。

■ 教科書

書 名：PT・OT・STのための解剖学

著者名：渡辺正仁 監修

出版社：廣川書店

■ 参考図書

書 名：ネッター解剖学アトラス

著者名：相磯貞和 訳

出版社：南江堂

書 名：消っして忘れない解剖学 要点整理ノート

著者名：井上 馨・松村譲児 編集

出版社：羊土社

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①③④⑥ DP：①②

OT 専攻 CP：①②③⑤ DP：①②

授業科目	内臓系の解剖学				
担 当 者	赤松 香奈子	国家出題基準	専門基礎Ⅰ -1F		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

医学の基礎である解剖学のうち内臓系について、単なる形態構造のみの学習にとどまらず、関連する器官と合わせてその構造と機能を学ぶ。

■ 到達目標

医療専門職として必要な内臓系の構造と機能を、関連機関と合わせて理解する。
さらには適切な専門用語を用いて説明することができることを目標とする。

■ 授 業 計 画

第1回 オリエンテーション、
呼吸器系；1. 鼻腔 2. 咽頭
第2回 呼吸器系；3. 喉頭（声帯） 4. 気管
第3回 呼吸器系；5. 胸腔 6. 肺
第4回 消化器系；1. 口腔 2. 歯列 3. 唾液腺
第5回 消化器系；4. 食道 5. 胃
第6回 消化器系；6. 小腸 7. 大腸
第7回 消化器系；8. 肝臓 9. 胆嚢
第8回 消化器系；10. 脾臓 11. 後腹膜臓器
第9回 泌尿器系；1. 腎臓
第10回 泌尿器系；2. 尿管 3. 膀胱
第11回 生殖器系；1. 男性生殖器
第12回 生殖器系；2. 女性生殖器
第13回 内分泌器系；1. 視床下部と脳下垂体 2. 甲状腺 3. 副腎 4. 精巣と卵巣 5. 脾臓
第14回 感覚器系；1. 視覚器
第15回 感覚器系；2. 聴覚器 3. 嗅覚器 4. 味覚器 5. 皮膚感覚器
総復習

■ 評価方法

筆記試験100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

系統ごとに復習プリントを配布するので、復習しておくこと。講義で配布する資料のみではなく、さまざまな参考書等を用いて理解を深めること。

■ 教 科 書

書 名：PT・OT・STのための解剖学
著者名：渡辺正仁 監修
出版社：廣川書店

■ 参考図書

■ 留 意 事 項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP : ①③④⑥ DP : ①②

OT 専攻 CP : ①②③⑤ DP : ①②

授業科目	生理学Ⅰ				
担当者	木村 晃大			国家出題基準	専門基礎Ⅰ－ 2－ABCNO
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

人体の各臓器がいかに正常の機能を維持し、1 個体としての機能を発揮しているのかを学習する。

■ 到達目標

各臓器における構造と機能を理解するだけでなく、生理学を通じて生命現象を理論的に考察する力を養う事を目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 細胞と内部環境（総論）
- 第2回 筋肉1（筋、運動）
- 第3回 筋肉2（筋肉）
- 第4回 神経1（神経）
- 第5回 神経2（神経）
- 第6回 末梢神経（神経）
- 第7回 自律神経
- 第8回 中枢神経1（神経、運動）
- 第9回 中枢神経2（神経）
- 第10回 中枢神経3（感覚）
- 第11回 中枢神経4（感覚）
- 第12回 中枢神経5（言語）
- 第13回 代謝1（栄養・代謝）
- 第14回 代謝2（体温調節）
- 第15回 前期総括

■ 評価方法

試験（85%：講義中に行われた小テストもこれに含める）と提出物（10%）・授業態度（5%）により評価する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも、幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んで下さい。授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。毎授業ごとに渡される復習プリントは、講義プリントや参考書を見ながら次の講義までに完成させ、講義の最初に提出すること。

■ 教科書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門分野 生理学（第4版）
 著者名：岡田 隆夫・長岡 正範
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：標準生理学（第8版）
 著者名：小澤 滯司 他
 出版社：医学書院

■ 留 意 事 項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP : ①⑥ DP : ①②

OT 専攻 CP : ①⑤ DP : ①②

授業科目	生理学Ⅱ				
担 当 者	木村 晃大			国家出題基準	専門基礎Ⅰ -2-JHIKLM
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

人体の各臓器がいかに正常の機能を維持し、1 個体としての機能を発揮しているのかを学習する。

■ 到達目標

各臓器における構造と機能を理解するだけでなく、生理学を通じて生命現象を理論的に考察する力を養う事を目標とする。

■ 授 業 計 画

第1回 血液1（血液）
 第2回 血液2（免疫）
 第3回 循環器1（循環）
 第4回 循環器2（循環）
 第5回 呼吸器1（呼吸）
 第6回 呼吸器2（呼吸）
 第7回 腎臓1（排尿）
 第8回 腎臓2（排尿・呼吸（酸・塩基平衡））
 第9回 消化器1（消化・吸収）
 第10回 消化器2（咀嚼・嚥下・排便）
 第11回 内分泌1
 第12回 内分泌2
 第13回 内分泌3（内分泌・生殖）
 第14回 性と生殖（生殖）
 第15回 後期総括

■ 評 価 方 法

試験（85%：講義中に行われた小テストもこれに含める）と提出物（10%）・授業態度（5%）により評価する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも、幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んで下さい。授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。毎授業ごとに渡される復習プリントは、講義プリントや参考書を見ながら次の講義までに完成させ、講義の最初に提出すること。

■ 教 科 書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門分野 生理学（第4版）
 著者名：岡田 隆夫・長岡 正範
 出版社：医学書院

■ 参 考 図 書

書 名：標準生理学（第8版）
 著者名：小澤 滯司 他
 出版社：医学書院

■ 留 意 事 項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP : ①⑥ DP : ①②

OT 専攻 CP : ①⑤ DP : ①②

授業科目	生理学Ⅲ				
担 当 者	田坂厚志・牧之瀬一博・相原一貴 (オムニバス)	国家出題基準	専門基礎分野Ⅰ -2-B～D, F～L, N		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	選択

■ 内 容

本科目では1年次科目である「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」で学んだ内容を基盤として、リハビリテーションを実践する際に必要となる知識を重点的に学習し、理解を深めます。

■ 到達目標

1. 身体を動かす際の中枢神経の働き（生理）について理解する。
2. 身体を動かす際の末梢神経と効果器（筋）の働き（生理）について理解する。
3. 感覚の生理学的働きや、身体運動との関係について理解する。
4. 身体運動と呼吸・循環・代謝機能の働きについて理解する。

■ 授 業 計 画

- 第1回 中枢神経1
- 第2回 中枢神経2
- 第3回 中枢神経3
- 第4回 筋肉と末梢神経1
- 第5回 筋肉と末梢神経2
- 第6回 末梢神経（脳神経と自律神経）
- 第7回 感覚器と感覚①
- 第8回 感覚器と感覚②、発生と組織
- 第9回 腎臓
- 第10回 循環器1
- 第11回 循環器2
- 第12回 循環器3
- 第13回 呼吸器1
- 第14回 呼吸器2
- 第15回 代謝

■ 評価方法

（田坂）筆記試験30％，小テスト及び提出課題10％

（牧之瀬）筆記試験30％，小テスト及び提出課題10％

（相原）筆記試験20％

学生の心得に記載の無い欠席（-4点），遅刻（-2点）は減点対象とする．事前連絡及び大学への出席後速やかに届けを提出すれば減点を緩和する

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」で学習した内容を復習すること。

適宜提示する。

■ 教 科 書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門分野 生理学（第4）

著者名：岡田 隆夫・長岡 正範

出版社：医学書院

■ 参 考 図 書

■ 留 意 事 項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP : ③④⑥ DP : ①②

授業科目	生理学Ⅲ				
担当者	山田 隆人	国家出題基準	専門基礎分野Ⅰ -2-B～D, F～L, N		
学科名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	選択

■ 内 容

人体の各臓器のそれぞれの機能と構造を理解する

■ 到達目標

生理現象を理論的に考察できるようになる

■ 授業計画

- 第1回 神経の興奮伝導
- 第2回 中枢神経1 大脳・間脳
- 第3回 中枢神経2 脳幹・小脳、伝導路
- 第4回 末梢神経1 末梢神経・脳神経
- 第5回 末梢神経2 支配神経
- 第6回 反射と筋活動
- 第7回 感覚
- 第8回 呼吸器系
- 第9回 循環器系1 心臓・心電図
- 第10回 循環器系2 脳動脈・静脈・血液
- 第11回 消化器系1 消化器系の構造と機能
- 第12回 消化器系2 食道以下の消化器系
- 第13回 排泄
- 第14回 代謝
- 第15回 ホルモン

■ 評価方法

講義内の確認テスト（豆テスト等）50%、筆記テスト50%で評定を行う。欠席の場合は、確認テストの評点が加算されない。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各単元で学んだ国家試験の問題を確認・復習すること。理解を深めた内容は、豆テスト等で確認を行う。

■ 教 科 書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第4版
 著者名：岡田隆夫、長岡正範
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：国家試験の達人 PT・OT シリーズ 運動解剖生理学編
 著者名：理学療法科学学会編
 出版社：株式会社 アイパック

■ 留意事項

基本的な人体の生理機能を学びます。内容は国家試験で求められる内容を基本としています。
 作業療法士の国家試験では、出題数が多い教科です。しっかり学びましょう。

■ ポリシー該当項目

OT 専攻 CP : ①②③⑤ DP : ①④

授業科目	生理学Ⅳ				
担当者	伊禮 まり子	国家出題基準	専門基礎分野Ⅰ -2-BCDFHINQ		
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	選択

■ 内 容

身体運動において、生体内の各種機構がどのように働いているかを講義する。

■ 到達目標

運動生理学の基礎的な知識および考え方を身につけ、運動時の生体内の変化、およびトレーニング効果について説明できることを目標とする。

■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 運動と筋骨格系 (1)
- 第3回 運動と筋骨格系 (2)
- 第4回 運動と神経系 (1)
- 第5回 運動と神経系 (2)
- 第6回 運動と神経系 (3)
- 第7回 運動と呼吸 (1)
- 第8回 運動と呼吸 (2)
- 第9回 運動と循環 (1)
- 第10回 運動と循環 (2)
- 第11回 運動と代謝
- 第12回 運動と栄養
- 第13回 運動学習とトレーニング
- 第14回 運動と発育・発達・加齢
- 第15回 総括

■ 評価方法

筆記試験 (90%)、小テスト (10%) に授業態度を併せて評価する。
欠席・遅刻・早退は減点の対象とする (欠席：－4点、遅刻・早退：－2点)。

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

運動・動作を治療手段とするセラピストにとって、運動生理学は自らの治療が生体機能に及ぼす影響を理解する基礎となります。1年次の生理学や、2年次の生理学実習とリンクする内容でもありますので、しっかりと学んでください。また、授業時間のみでは理解は深まりません。授業後には講義内容をまとめる、小テストの復習をする等、自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。

■ 教 科 書

書 名：不要

■ 参考図書

書 名：運動生理学20講 第2版

著者名：勝田 茂

出版社：朝倉書店

書 名：リハビリテーション運動生理学

著者名：玉木 彰（監修）、解良武士（編集）

出版社：メジカルビュー社

書 名：運動生理学の基礎と発展

著者名：春日規克・竹倉宏明

出版社：フリースペース

書 名：改訂 身体活動と体力トレーニング

著者名：藤原勝夫・外山寛

出版社：日本出版サービス

書 名：身体機能の調節性

著者名：池上晴夫

出版社：朝倉書店

書 名：姿勢制御の神経生理機構

著者名：藤原勝夫

出版社：杏林書院

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①②④⑥ DP：①②

この科目を理解するためには、生理学Ⅰ、生理学Ⅱの理解が必要です。

授業科目	生理学Ⅳ				
担 当 者	山田 隆人	国家出題基準	専門基礎分野Ⅰ -2-BCDFHINQ		
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	選択

■ 内 容

人体の各臓器のそれぞれの機能と構造を理解する

■ 到達目標

生理現象を理論的に考察できるようになる

■ 授業計画

- 第1回 神経の興奮伝導
- 第2回 中枢神経1 大脳・間脳
- 第3回 中枢神経2 脳幹・小脳、伝導路
- 第4回 末梢神経1 末梢神経・脳神経
- 第5回 末梢神経2 支配神経
- 第6回 反射と筋活動
- 第7回 感覚
- 第8回 呼吸器系
- 第9回 循環器系1 心臓・心電図
- 第10回 循環器系2 脳動脈・静脈・血液
- 第11回 消化器系1 消化器系の構造と機能
- 第12回 消化器系2 食道以下の消化器系
- 第13回 排泄
- 第14回 代謝
- 第15回 ホルモン

■ 評価方法

講義内の確認テスト（豆テスト等）50%、筆記試験50%で評定を行う。欠席の場合は、確認テストの評点が加算されない。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各単元で学んだ国家試験の問題を確認・復習すること。理解を深めた内容は、豆テスト等で確認を行う。

■ 教 科 書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第4版
 著者名：岡田隆夫、長岡正範
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：国家試験の達人 PT・OT シリーズ 運動解剖生理学編
 著者名：理学療法科学学会編
 出版社：株式会社 アイパック

■ 留意事項

基本的な人体の生理機能を学びます。内容は国家試験で求められる内容を基本としています。
 作業療法士の国家試験では、出題数が多い教科です。しっかり学びましょう。

■ ポリシー該当項目

OT 専攻 CP : ①②③⑤ DP : ①④

授業科目	生理学実習				
担当者	木村 晃大			国家出題基準	専門基礎Ⅰ -2FⅡ-2F
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

解剖学・生理学・運動学の講義を踏まえ、環境の変化・運動に対する生体の反応や恒常性維持について学習する。

■ 到達目標

人の生理機能を自らの手で計測し、その結果を解析・考察する事により、人体機能のダイナミクスやホメオスタシスが維持されるメカニズムを理解する。また、この実習を通して、医療従事者として必要な姿勢や洞察力を養う。

■ 授業計画

- 第1回 実習オリエンテーション
- 第2回 講義・機器取扱い実施確認1
- 第3回 講義・機器取扱い実施確認2
- 第4回 講義・機器取扱い実施確認3
- 第5回 講義・機器取扱い実施確認4
- 第6回 実習1
- 第7回 実習2
- 第8回 実習3
- 第9回 実習4
- 第10回 実習5
- 第11回 解説(講義)
- 第12回 解説(講義)

■ 評価方法

実習態度・レポート(50%)、試験(50%)により評価する。

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

出席や実習中の態度も成績評価に含みます。レポート提出は期限厳守のこと。レポート未提出は再履修とします。被験者の安全や守秘義務を守る事を念頭にして、真剣に取り組むこと。

生理学実習では、参考書などを調べて考えることで、“課題を自分で解決する事が出来る様になる事”を一つの目標にしています。

また、全ての内容は国家試験に直結します。積極的に色々な参考書を調べてレポートを作成し、各項目について理解を深める様に努めて下さい。レポートの評価では①内容のオリジナリティ、②各項目について深く理解しようとする努力が認められるかどうか、を重視します。

同学年、前年度の物を問わず、レポートのコピーはカンニングと同様の行為であり、一切認められません。発覚した場合には厳罰をもって対応します。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：標準生理学（第7版）

著者名：小澤 滯司 他

出版社：医学書院

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①⑥ DP：①②

OT 専攻 CP：①⑤ DP：①②

授業科目	運動学総論				
担 当 者	境 隆弘	国家出題基準	専門基礎Ⅰ -3- A abcBbD		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

理学療法にとっての運動学（Kinesiology）は、「人間の運動の科学」であり、人間のからだの構造を学ぶ解剖学、人間のからだの機能を学ぶ生理学、そして、身体および身体各部を物体とみなした時の力学を基礎とした応用科学であることについて学ぶ。

■ 到達目標

運動学用語を理解し、使用できるようになる。

運動力学を理解する。

上肢の関節運動学を理解し、触診やデモンストレーションが出来るようになる。

■ 授 業 計 画

- 第1回 コース・ガイダンス
講義の進め方、評定方法の他、理学療法士にとっての運動学の重要性を学ぶ
- 第2回 運動学（Kinesiology）総説
解剖学・生理学ならびに運動療法学との関連、Kinematics と Kinetics について学ぶ
- 第3回 身体運動①基本
運動学を学ぶにあたって必要な身体における運動面と軸について学ぶ
- 第4回 身体運動②名称
運動学を学ぶにあたって必要な身体各部の運動方向の名称について学ぶ
- 第5回 身体運動③演習
①②で学んだ身体運動について、演習を行い理解を深める
- 第6回 運動を構成する要素と器官①
ヒトの運動を生む器官のうち、骨と関節について学ぶ
- 第7回 運動を構成する要素と器官②
ヒトの運動を生む器官のうち、筋について学ぶ
- 第8回 運動を構成する要素と器官③
①②で学んだ運動を構成する要素と器官について、演習を行い理解を深める
- 第9回 力学の基礎①
運動学を学ぶにあたって必要なニュートン力学について学ぶ
- 第10回 力学の基礎②
運動学を学ぶにあたって必要な身体とてこについて学ぶ
- 第11回 力学の基礎③
運動学を学ぶにあたって必要なモーメント（トルク）について学ぶ
- 第12回 力学の基礎④
運動学を学ぶにあたって必要な生体における力とモーメントについて学ぶ
- 第13回 構えと姿勢①
ヒトの運動にかかわる構えと姿勢の名称について学ぶ
- 第14回 構えと姿勢②
①で学んだ構えと姿勢について、演習を行い理解を深める
- 第15回 上肢の関節運動学①
肩甲帯に関する運動器官と関節運動学について学ぶ
- 第16回 上肢の関節運動学演習①
肩甲帯の関節運動学について、演習を行い理解を深める
- 第17回 上肢の関節運動学②
肩関節に関する運動器官と関節運動学について学ぶ

- 第18回 上肢の関節運動学演習②
肩関節の関節運動学について、演習を行い理解を深める
- 第19回 上肢の関節運動学③
肘関節に関する運動器官と関節運動学について学ぶ
- 第20回 上肢の関節運動学演習③
肘関節の関節運動学について、演習を行い理解を深める
- 第21回 上肢の関節運動学④
前腕に関する運動器官と関節運動学について学ぶ
- 第22回 上肢の関節運動学演習④
前腕の関節運動学について、演習を行い理解を深める
- 第23回 上肢の関節運動学⑤
手関節に関する運動器官と関節運動学について学ぶ
- 第24回 上肢の関節運動学演習⑤
手関節の関節運動学について、演習を行い理解を深める
- 第25回 上肢の関節運動学⑥
手指に関する運動器官と関節運動学について学ぶ
- 第26回 上肢の関節運動学演習⑥
手指の関節運動学について、演習を行い理解を深める
- 第27回 実技試験
学んだ関節運動学について実技試験を実施する
- 第28回 実技試験のフィードバック
実技試験の解説、講評を行う
- 第29回 総括①
本講義で学んだことについて、復習、再確認を行う
- 第30回 総括②
本講義で学んだことについて、復習、再確認を行う

■ 評価方法

筆記試験 80%

小テスト・実技テストで20%（学則で認められない理由での遅刻・欠席は減点）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

（予習）

運動学は、解剖学、生理学、物理学（力学）の知識が無ければ、理解が進まない。

毎回、授業内容に応じた解剖学、生理学、物理学（力学）の復習をしてくること。

例：肩関節の授業の前は、肩関節の解剖の復習をしてくる。

（復習）

授業の翌週に必ず小テストを行うので、授業での学習内容が身に付くよう復習すること。

■ 教科書

書 名：基礎運動学

著者名：中村隆一、斎藤宏

出版社：医歯薬出版

書 名：PT・OTのための運動学テキスト

著者名：小柳磨毅 他編

出版社：金原出版

■ 参考図書

書 名：身体運動学 関節の制御と筋機能
著者名：市橋則明
出版社：メジカルビュー

■ 留意事項

理学療法の基礎学問として重要な科目であり、2年生に進んで、運動学各論、運動学実習、臨床運動学と引き続く勉強なのでしっかり学んでほしい。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①③④⑥ DP：①②

授業科目	運動学総論				
担 当 者	長谷川 昌士	国家出題基準	専門基礎Ⅰ -3- A abcBbD		
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

関節の基本構造と機能を学習する。運動器である上肢の運動、下肢の運動、脊柱・体幹の運動について理解を深める。

■ 到達目標

1. 運動器の構造と機能を理解する。
2. 上肢の運動，下肢の運動，脊柱・体幹の運動を理解する。

■ 授 業 計 画

- 第1回 コースオリエンテーション
- 第2回 運動のとらえ方について学習する。
- 第3回 運動の面と軸について学習する。
- 第4回 関節の基本的構造と機能について学習する。
- 第5回 肩複合体の関節構造について学習する。
- 第6回 肩複合体の筋と関節の相互作用について学習する。
- 第7回 肘関節の関節構造と機能について学習する。
- 第8回 肘関節の靱帯構造について学習する。
- 第9回 前腕の関節構造と機能について学習する。
- 第10回 前腕の運動について学習する。
- 第11回 手関節の関節構造と機能について学習する。
- 第12回 手のアーチ構造について学習する。
- 第13回 手指の関節構造と機能について学習する。
- 第14回 手指の内在筋と外在筋の相互作用について学習する。
- 第15回 上肢確認試験と振り返り
- 第16回 股関節の関節構造について学習する。
- 第17回 股関節の筋と関節の相互作用について学習する。
- 第18回 膝関節の関節構造について学習する。
- 第19回 膝関節の筋と関節の相互作用について学習する。
- 第20回 足関節の関節構造と機能について学習する。
- 第21回 足関節の運動について学習する。
- 第22回 下肢確認試験と振り返り
- 第23回 頭頸部における関節構造について学習する。
- 第24回 胸腰部における関節構造について学習する。
- 第25回 肩関節の運動について演習形式で学習する。
- 第26回 肘関節・前腕の運動について演習形式で学習する。
- 第27回 手・手指関節の運動について演習形式で学習する。
- 第28回 股関節の運動について演習形式で学習する。
- 第29回 膝・足関節の運動について演習形式で学習する。
- 第30回 最終確認試験と振り返り

■ 評価方法

筆記試験 80% 小テスト 20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業内容は必ず教科書で見直し、学習したことを授業ノートに追記しておくこと。
毎回、振り返りテスト等を実施していきます。

■ 教科書

書 名：15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学
著者名：石川朗 種村留美 小島悟
出版社：中山書店

■ 参考図書

書 名：筋骨格系のキネシオロジー
著者名：嶋田智明ほか監訳
出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意してください。

■ ポリシー該当項目

OT 専攻 CP：①②③⑤ DP：①②

授業科目	運動学各論				
担 当 者	境 隆弘	国家出題基準	専門基礎Ⅰ -3 - ABCDE		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	2 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修
■ 内 容					
下肢、体幹・頭頸部の機能解剖に立脚した運動の分析を関節運動学と運動力学の視点から部位別に学ぶ。姿勢や歩行に関する運動学的、運動力学的分析と筋出力、運動学習について学ぶ。					

■ 到達目標					
下肢、体幹・頭頸部の関節運動学を理解し、触診やデモンストレーションが出来るようになる。 姿勢や歩行に関する運動学的、運動力学を理解し、観察や分析が出来るようになる。					

■ 授業計画					
第1回	コース・ガイダンス	講義の進め方、評定の他、前期に学んだ運動学総論、後期に学ぶ運動学実習との関連性を学ぶ			
第2回	下肢の関節運動学①	股関節に関する運動器官と関節運動学について学ぶ			
第3回	下肢の関節運動学演習①	股関節の関節運動学について、演習を行い理解を深める			
第4回	下肢の関節運動学②	膝関節に関する運動器官と関節運動学について学ぶ			
第5回	下肢の関節運動学演習②	膝関節の関節運動学について、演習を行い理解を深める			
第6回	下肢の関節運動学③	足関節に関する運動器官と関節運動学について学ぶ			
第7回	下肢の関節運動学演習③	足関節の関節運動学について、演習を行い理解を深める			
第8回	体幹の関節運動学	体幹に関する運動器官と関節運動学について学ぶ			
第9回	体幹の関節運動学演習	体幹の関節運動学について、演習を行い理解を深める			
第10回	頭頸部・顔面の関節運動学	頭頸部・顔面に関する運動器官と関節運動学について学ぶ			
第11回	頭頸部・顔面の関節運動学演習	頭頸部・顔面の関節運動学について、演習を行い理解を深める			
第12回	四肢と脊柱の運動連鎖	開放性運動連鎖（OKC）と閉鎖性運動連鎖（CKC）について学ぶ			
第13回	四肢と脊柱の運動連鎖演習	OKC と CKC に関する演習を行い、理解を深める			
第14回	筋トルク	様々な収縮形態により発揮される筋トルクについて学ぶ			
第15回	筋トルク演習	実際に筋トルクを計測し、理解を深める			
第16回	姿勢制御の神経機構	ヒトの姿勢反応について学ぶ			
第17回	姿勢制御の神経機構演習	ヒトの姿勢反応について、演習を行い理解を深める			

- 第18回 運動戦略
ヒトの運動戦略(ストラテジー)について学ぶ
- 第19回 運動戦略演習
ヒトの運動戦略(ストラテジー)について、演習を行い理解を深める
- 第20回 歩行の運動学①
歩行の運動学について、概論を学ぶ
- 第21回 歩行の運動学②
歩行の運動学的分析について学ぶ
- 第22回 歩行の運動学③
歩行の運動力学的分析について学ぶ
- 第23回 運動学習
ヒトの運動学習機能について学ぶ
- 第24回 運動学習演習
ヒトの運動学習について、演習を行い理解を深める
- 第25回 実技試験(口頭試問含む)①
学んだ関節運動学、動作について実技試験を実施する
- 第26回 実技試験(口頭試問含む)②
学んだ関節運動学、動作について実技試験を実施する
- 第27回 実技試験(口頭試問含む)のフィードバック①
実技試験の解説、講評を行う
- 第28回 実技試験(口頭試問含む)のフィードバック②
実技試験の解説、講評を行う
- 第29回 総括① 本講義で学んだ事について、復習、再確認を行う
- 第30回 総括② 本講義で学んだ事について、復習、再確認を行う

■ 評価方法

筆記試験 80%

小テスト・実技テストで20% (学則で認められない理由での遅刻・欠席は減点)

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

(予習)

運動学は、解剖学、生理学、物理学(力学)の知識が無ければ、理解が進まない。

毎回、授業内容に応じた解剖学、生理学、物理学(力学)の復習をしてくること。

例：肩関節の授業の前は、肩関節の解剖の復習をしてくる。

(復習)

授業の翌週に必ず小テストを行うので、授業での学習内容が身に付くよう復習すること。

■ 教科書

書 名：基礎運動学

著者名：中村隆一、斎藤宏

出版社：医歯薬出版

書 名：PT・OTのための運動学テキスト

著者名：小柳磨毅 他編

出版社：金原出版

■ 参考図書

書 名：身体運動学 関節の制御と筋機能

著者名：市橋則明

出版社：メジカルビュー

■ 留 意 事 項

理学療法の基礎学問として運動学総論から続く重要な科目であり、さらに運動学実習、臨床運動学と引き続く勉強なのでしっかり学んでほしい。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①③④⑥ DP：①②

授業科目	運動学各論				
担 当 者	長谷川 昌士			国家出題基準	専門基礎Ⅰ -3 -ABCDE
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	2 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

生体力学の基礎を学習する。運動学的分析手法である床反力、体重心、関節モーメントについて理解を深める。その応用として立ち上がりや歩行における運動学的分析について理解を深める。
運動学習における理論について学習し、グループにて課題に取り組む。呼吸や心臓における運動療法について学習し、その技術を演習形式にて理解を深める。筋力増強について学習し、その技術を演習形式にて理解を深める。

■ 到達目標

1. 運動学的分析手法（床反力、体重心、関節モーメント）を理解する。
2. 立ち上がりや歩行の運動学的分析を理解する。
3. 運動学習における理論について理解する。
4. 呼吸や心臓における運動療法について理解する。
5. 筋力増強、ストレッチングにおける理論および方法について理解する。

■ 授 業 計 画

- 第1回 座位姿勢について学習する。
- 第2回 立位姿勢について学習する。
- 第3回 運動学的分析手法に必要な床反力、体重心について学習する。
- 第4回 運動学的分析手法に必要な関節モーメントについて学習する。
- 第5回 運動学的分析（立ち上がり動作）について学習する。
- 第6回 運動学的分析（歩き始め）について学習する。
- 第7回 運動学的分析（歩行）の歩行周期、ケイデンス、歩幅について学習する。
- 第8回 運動学的分析（歩行）の重心移動、床反力、筋活動について学習する。
- 第9回 運動学的分析（リーチ動作）についてグループにて学習する。
- 第10回 運動学的分析（トイレ動作）についてグループにて学習する。
- 第11回 作業分析（日常活動）についてグループにて学習する。
- 第12回 運動学的分析確認試験と振り返り
- 第13回 運動学習理論について学習する。
- 第14回 運動学習理論に基づいた練習と訓練について学習する。
- 第15回 運動学習における課題にグループで取り組む。
- 第16回 呼吸における運動学について学習する。
- 第17回 換気中の筋活動について学習する。
- 第18回 呼吸リハビリテーション（呼吸法）について学習する。
- 第19回 呼吸リハビリテーション（ストレッチング）について学習する。
- 第20回 身体運動のエネルギー代謝について学習する。
- 第21回 運動処方について学習する。
- 第22回 心臓リハビリテーション（運動療法）について学習する。
- 第23回 心臓リハビリテーション（生活指導）について学習する。
- 第24回 呼吸・心臓リハビリテーション確認試験と振り返り
- 第25回 筋力増強訓練の効果について学習する。
- 第26回 筋力増強訓練の訓練方法について学習する。
- 第27回 活動を用いた筋力増強訓練の訓練方法についてグループで取り組む。
- 第28回 ストレッチングの効果について学習する。
- 第29回 ストレッチングの方法について学習する。

第30回 最終確認試験と振り返り

■ 評価方法

筆記試験 80% 小テスト 20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業内容は必ず教科書で見直し、学習したことを授業ノートに追記しておくこと。

■ 教科書

書 名：基礎から学ぶ運動学ノート
著者名：中島雅美 中島喜代彦
出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

書 名：基礎バイオメカニクス
著者名：江原義弘、山本澄子、石井慎一郎
出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意してください。

■ ポリシー該当項目

OT 専攻 CP：①②③
DP と CP の関係については、ポリシーを参照してください。

授業科目	運動学実習				
担 当 者	島 雅人			国家出題基準	専門基礎Ⅰ -3-CDE
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

運動学総論、運動学各論により修得した基礎知識・技術を踏まえ、実際に行われている動作を観察し分析するといった実習を行うことで、理学療法・作業療法の基礎となる人体の運動のしくみについて理解を深める。

■ 到達目標

基本動作・歩行を観察する視点を身につけること
 観察した動作を運動学的用語で説明することができるようになること
 観察した動作を運動学・運動力学的に分析することができるようになること

■ 授 業 計 画

- 第1回 ①コース・ガイダンス：講義の進め方、評定方法、その他
 ②これまでに学んできた運動学総論、運動学各論の知識の確認
 ③体位、構えの（姿勢）の表現、動作分析の手順と方法
- 第2回 基礎実習① 観察と運動学的表現
- 第3回 基礎実習② 重心の求め方 重心の移動と姿勢制御（重心動揺の計測と結果の解釈）
- 第4回 基礎実習② 重心の求め方 重心の移動と姿勢制御（重心動揺の計測と結果の解釈）
- 第5回 基礎実習③ 筋力・筋持久力の測定と結果の解釈（徒手筋力計、等速度運動測定器などを用いて）
- 第6回 基礎実習③ 筋力・筋持久力の測定と結果の解釈（徒手筋力計、等速度運動測定器などを用いて）
- 第7回 動作観察と分析① スクワット動作の分析（関節運動、筋活動、条件による違い）
- 第8回 動作観察と分析① スクワット動作の分析（関節運動、筋活動、条件による違い）
- 第9回 動作観察と分析② 立ち上がり動作の観察と分析
- 第10回 動作観察と分析② 立ち上がり動作の観察と分析
- 第11回 動作観察と分析② 立ち上がり動作の観察と分析
- 第12回 動作観察と分析③ 歩行動作の観察と分析
- 第13回 動作観察と分析③ 歩行動作の観察と分析
- 第14回 動作観察と分析③ 歩行動作の観察と分析
- 第15回 動作観察と分析④ 寝返り、起き上がりの観察と分析 、 総まとめ

■ 評価方法

筆記試験70% 、発表・提出課題・レポート30%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回で実施する内容に必要と思われる運動学の知識をしっかりと確認、補充し授業に臨んでください。
 各回に該当する内容について、授業前に教科書で確認し授業に臨んでください。
 実施した内容について理解が不十分であった場合は、次の授業までに質問に来て理解を深めてください。
 課題レポートは提出期限に間に合うよう、計画的にすすめてください。
 観察・分析内容を相手へ伝える機会を設定します。指定された時間内に、分析した内容を伝えられるよう、事前練習を行ってください。

■ 教科書

書 名：15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学実習
著者名：石川 朗、種村留美、小島 悟、小林麻衣
出版社：中山書店

■ 参考図書

書 名：PT・OTのための運動学テキスト：基礎・実習・臨床
著者名：小柳 磨毅 ほか
出版社：金原出版
.....
書 名：基礎運動学
著者名：中村隆一、斎藤宏
出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

各課題に対しては、各自がしっかりと理解し、説明できるように取り組んでください。
提出物は、提出期限を必ず守ること。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①②③④⑥ DP：①②

授業科目	運動学実習				
担当者	山田 隆人			国家出題基準	専門基礎Ⅰ -3-CDE
学科名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

運動学総論、運動学各論により習得した基礎知識・技術を踏まえ、実際に行われている動作を分析する実習を通して、作業療法の基礎となる人体の運動のしくみについて理解を深める。

■ 到達目標

基本動作を観察する視点を身につけること
 観察した動作を運動学的用語で説明することができるようになること
 観察した動作を運動学・運動力学的に分析することができるようになること

■ 授業計画

第1回 下肢の機能解剖
 第2回 下肢の関節運動
 第3回 下肢の関節の可動性に関する演習
 第4回 上肢の機能解剖
 第5回 上肢の関節運動
 第6回 上肢の関節の可動性に関する演習
 第7回 頭頸部体幹の運動
 第8回 筋力
 第9回 姿勢とアライメントの評価
 第10回 関節モーメントと筋活動
 第11回 関節モーメントと筋活動演習
 第12回 動画解析演習
 第13回 立ち座りの運動学の演習
 第14回 歩行
 第15回 歩行の動画解析演習

■ 評価方法

筆記試験50%、課題の提出・レポート・報告等50%、欠席、遅刻・早退は減点の対象（一回につき、事前届出なし：－10点、事前届出あり：－2点）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義・演習の最後に、次回の予習課題および範囲について確認を行う。次回の講義、演習までに基本的な内容に関しては予習しておくこと。

■ 教 科 書

書 名：PT・OTのための運動学テキスト
 著者名：小柳磨毅、西村敦、山下協子、大西秀明著
 出版社：金原出版株式会社

■ 参考図書

書 名：理学療法・作業療法テキスト 運動学実習

著者名：石川郎、種村留美、小島悟、小林麻衣著

出版社：中山書店

書 名：基礎バイオメカニクス

著者名：山本澄子、石井慎一郎、江原義弘著

出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

OT 専攻 CP：①②③④⑤ DP：①②

授業科目	生涯人間発達学				
担 当 者	藪中良彦			国家出題基準	専門基礎 I -4-A,B
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

理学療法士として必要な子どもの発達の知識を、運動発達を中心に学習する。

■ 到達目標

子どもの機能獲得の仕組みを知ること、子どもの治療だけでなく、成人の治療にも発達の知識を利用できるようにすることが、この科目の目標である。

■ 授 業 計 画

第1回 I. 発達概念
 第2回 II. 発達理論
 第3回 III. 発達検査
 第4回 IV. 姿勢反射 / 反応
 第5回 IV. 姿勢反射 / 反応
 第6回 V. 運動発達（0～3ヶ月）、VI. 運動発達（4～6ヶ月）
 第7回 VII. 運動発達（7～9ヶ月）、VIII. 運動発達（10～12ヶ月）
 第8回 IX. 運動発達（13～18ヶ月）、X. 姿勢反射 / 反応と6歳までの発達
 第9回 目と手の協調、上肢機能の発達
 第10回 食事の発達
 第11回 排泄の発達
 第12回 更衣の発達
 第13回 遊びの発達
 第14回 高齢期
 第15回 X. 姿勢反射 / 反応と6歳までの発達

■ 評価方法

出席（欠席－4点、遅刻／早退－2点、居眠り－1点）
 小テスト＋予習質問課題（50点）
 筆記試験（50点）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

次の授業の範囲を明示するので、その範囲を予習し、不明な2つの項目について調べてまとめを提出すると共に、2つ適切な質問を考え Moodle を通して事前に提出することで予習を促す。また、第1回目の授業を除き、毎回前回の授業内容に関する小テスト（20問程度の穴埋め問題）を行い、授業の復習を促す。予習質問課題と小テストを合わせて、50点の配点とする。

■ 教 科 書

書 名：イラストでわかる人間発達学
 著者名：上杉雅之 監修
 出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

書 名：コメディカルのための専門基礎分野テキスト 人間発達学

著者名：福田恵美子

出版社：中外医学社

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 人間発達学

著者名：岩崎清隆, 花熊暁, 吉松靖文

出版社：医学書院

書 名：乳児の発達 写真でみる0歳児

著者名：高橋孝文

出版社：医歯薬出版株式会社

書 名：機能的姿勢-運動スキルの発達

著者名：高橋智宏

出版社：協同医書出版社

書 名：写真でみる乳児の運動発達

著者名：木本孝子、中村勇

出版社：協同医書出版社

書 名：乳幼児の運動発達検査 AIMS アルバータ乳幼児運動発達検査法

著者名：上杉雅之、嶋田智明、武政誠一

出版社：医歯薬出版株式会社

書 名：PEDI リハビリテーションのための子どもの能力低下評価法

著者名：里宇明元、近藤和泉、間川博之

出版社：医歯薬出版株式会社

書 名：赤ちゃんの運動発達 絵でみる治療アプローチ

著者名：芝田利生、櫻庭修

出版社：協同医書出版社

書 名：遠城寺式・乳幼児分析的発達検査法—九州大学小児科改訂新装版

著者名：遠城寺宗徳

出版社：慶應義塾大学出版会

書 名：新版 K 式発達検査法2001年版—標準化資料と実施法

著者名：新版 K 式発達検査研究会

出版社：ナカニシヤ出版

書 名：KIDS 乳幼児発達スケール

著者名：三宅和夫

出版社：発達科学研究教育センター

書 名：1987年全訂版田中ビネー知能検査法

著者名：田中教育研究所

出版社：田研出版

書 名：WISC-IV の臨床的利用と解釈

著者名：上野 一彦

出版社：日本文化科学社

書 名：日本版デンバー式発達スクリーニング検査—JDDST と JPDQ

著者名：上田 礼子

出版社：医歯薬出版株式会社

書 名：DENVER II - デンバー発達判定法

著者名：Frankenburg WK 著, 日本小児保健協会編

出版社：日本小児医事出版社

書 名：・ABC アセスメントと指導―解釈の進め方と指導の実際

著者名：前川 久男

出版社：丸善メイツ

書 名：グッドイナフ人物画知能検査ハンドブック

著者名：小林重雄

出版社：三京房

書 名：日本版フロスティック視知覚発達検査

著者名：飯鉢和子、鈴木陽子、茂木茂八

出版社：日本文化科学社

書 名：日本版ミラー乳児発達スクリーニング検査と JMAP 簡易版

著者名：土田玲子、岩永竜一郎

出版社：パシフィックサプライ株式会社

書 名：乳幼児精神発達診断法―0才～3才まで

著者名：津守 真、稲毛 教子

出版社：大日本図書

書 名：乳幼児精神発達質問紙（1～3才まで）

著者名：津守 真、稲毛 教子

出版社：大日本図書

書 名：乳幼児精神発達診断法―3才～7才まで

著者名：津守 真、磯部景子

出版社：大日本図書

書 名：乳幼児精神発達質問紙（3～7才まで）

著者名：津守 真、稲毛 教子

出版社：大日本図書

書 名：視覚機能の発達障害

著者名：紀伊克昌

出版社：医歯薬出版株式会社

書 名：手の発達機能障害

著者名：紀伊克昌

出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留 意 事 項

毎回出席し、予習・復習をしっかりと行ってください。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①③④⑥ DP：①②

3年次で学習する「小児期理学療法治療学」で学ぶ身体障害のある子どもたちへの理学療法治療を理解するための基礎となる小児期の正常発達を、「生涯人間発達学」でしっかりと学習する。

授業科目	病理学概論				
担当者	奥野高裕・藤岡正喜（オムニバス）	国家出題基準	専門基礎Ⅱ -2 10 11 12 13-B		
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

疾病の分類と成り立ちを学ぶ。

■ 到達目標

病気が何故、どのようにして起こるか、身体にどのような異常を引き起こすかを理解し、説明が出来る。
病気に関わる専門用語の定義が理解できる。

■ 授業計画

- 第1回 病理学の目的と概要、病因論：内因、外因の概念、疾病の分類
- 第2回 傷害に対する細胞の反応：退行性病変及び進行性病変、再生と創傷の治癒
- 第3回 炎症・感染症：炎症の定義と原因、主に炎症の経時的変化について
- 第4回 免疫：免疫系の仕組みと働き、主に免疫応答の仕組みについて
- 第5回 炎症・感染症：感染による疾患、主に感染経路と病態、病原微生物の種類について
- 第6回 国試対策を含めた試験演習①
- 第7回 毒性病理入門
- 第8回 循環障害：循環系の構造と機能、主に局所循環障害について
- 第9回 老化：老化と寿命、主に老化に伴って増加する疾患について
- 第10回 代謝異常：代謝障害による疾患、主に脂質代謝異常症、糖質代謝異常、ビリルビン代謝について
- 第11回 放射線障害：放射線の副作用のため出現する病変
- 第12回 先天異常・奇形： 先天異常の概念と分類や代表的な先天異常、特に染色体異常について
- 第13回 腫瘍①：腫瘍の定義と分類、腫瘍の進展形式
- 第14回 腫瘍②：腫瘍発生の原因、国試対策のための臓器別の腫瘍
- 第15回 国試対策を含めた試験演習②

■ 評価方法

筆記試験 100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習は必要ありません。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。授業中に全ての範囲を網羅することは困難ですので、復習をかねて授業を行った範囲については教科書を読むようにして下さい。分からないことは自分で調べ、解決がつかない場合は遠慮なく質問して下さい。

■ 教 科 書

書 名：標準理学療法学・作業療法学・病理学
著者名：梶原博毅・横井豊治
出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

前半6回を奥野、後半9回を藤岡が担当します。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP : ①④⑥ DP : ①②

OT 専攻 CP : ①③⑤ DP : ①②

授業科目	一般臨床医学				
担 当 者	岡本文雄・神納光一郎・中井宏治・福山智子・福原雅之・竹原友貴・矢吹裕栄・藤岡重和（オムニバス）			国家出題基準	専門基礎 II-2-B, III-1-A-g
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

救急医学の概要と救急措置法について概説する。リハビリテーション医療に必要な救急病態を理解し、蘇生法、止血法、固定法、運搬法等の救急措置法を学習する。次に、外科、産婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻科領域の代表的疾患について、病態、症状、検査、評価、治療を学ぶ。

■ 到達目標

1. 救急疾患の病態を理解し、蘇生法、止血法、固定法、運搬法等の救急措置法を修得する。
2. 外科、産婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科の代表的疾患について、病態、特徴的に現れる症状、治療法を説明できる。
3. 外科、産婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科疾患におけるリハビリテーション留意事項を説明できる。

■ 授 業 計 画

第1回	救急医学総論（1）	（岡本）
第2回	救急医学総論（2）	（岡本）
第3回	救急医学各論（1） ショック、心肺停止	（神納）
第4回	救急医学各論（2） 意識障害、吐血、下血と腹痛	（神納）
第5回	救急医学各論（3） 外傷、環境障害	（神納）
第6回	外科学総論	（中井）
第7回	外科学各論	（中井）
第8回	産科学	（福山）
第9回	婦人科疾患	（福山）
第10回	皮膚科学総論	（池上）
第11回	皮膚科疾患	（池上）
第12回	眼科学総論	（福原）
第13回	眼科疾患	（福原）
第14回	耳鼻咽喉科疾患	（矢吹）
第15回	総復習（国家試験対策）	（藤岡）

■ 評価方法

筆記試験 50%、受講態度50%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業で、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。
次回授業までに、前回の授業内容を復習しておいてください。

■ 教 科 書

書 名：PT・OTのための一般臨床医学
著者名：明石 謙
出版社：医歯薬出版

■ 参 考 図 書

書 名：救急診療指針 改訂第4版
著者名：日本救急医学会監修
出版社：へるす出版

■ 留 意 事 項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①③⑥ DP：①②
OT 専攻 CP：①②⑤ DP：①②

授業科目	内科学 I				
担 当 者	藤岡 重和			国家出題基準	専門基礎 II-11-ABCDE
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

循環器疾患、呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患の生体内部の障害について、その病因、病態を詳解し、疫学、臨床像、検査と診断、治療、評価、予後などについて幅広く学習する。

■ 到達目標

1. 代表的な循環器疾患、呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患について、疫学、予後、病因、病態、臨床像、評価、検査（画像、生理機能検査、血液検査を含む）、診断、治療法を説明できる。
2. 循環器疾患、呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患患者のリハビリテーション留意事項を説明できる。

■ 授 業 計 画

- 第1回 内科学総論
- 第2回 循環器総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
- 第3回 循環器疾患（1） 高血圧、虚血性心疾患
- 第4回 循環器疾患（2） 弁膜症、先天性心疾患、心筋疾患
- 第5回 循環器疾患（3） 心不全、不整脈、その他
- 第6回 循環器疾患（4） 大動脈疾患、末梢動脈疾患、静脈、リンパ管疾患
- 第7回 呼吸器総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
- 第8回 呼吸器疾患（1） 感染性肺疾患、アレルギー性肺疾患
- 第9回 呼吸器疾患（2） 慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患
- 第10回 呼吸器疾患（3） 肺腫瘍、肺循環障害
- 第11回 呼吸器疾患（4） 呼吸不全、呼吸調節の異常、胸膜疾患、その他
- 第12回 腎、泌尿器総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
- 第13回 腎、泌尿器疾患（1） 糸球体疾患、全身性疾患と腎障害
- 第14回 腎、泌尿器疾患（2） 腎不全、電解質異常、泌尿器疾患、その他
- 第15回 総復習（国家試験対策）

■ 評価方法

筆記試験 80% 小テスト 10% 受講態度 10%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。
 次回授業までに、前回の授業内容を十分に復習しておいてください。
 国家試験出題基準のに基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。
 発展的内容を探究したい時、理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。

■ 教 科 書

書 名：ナースの内科学 第10版
 著者名：奈良信雄
 出版社：中外医学社

■ 参考図書

書 名：標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版
著者名：中外医学社
出版社：医学書院

■ 留意事項

内科学を学習するにあたって、内臓解剖学、生理学、病理学全般をよく理解しておく必要があります。授業の前に、十分復習をしておいてください。感染症については、三年生後期の感染症学において詳しく学習します。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①③⑥ DP：①②
OT 専攻 CP：①②⑤ DP：①②

授業科目	内科学Ⅱ				
担当者	藤岡 重和			国家出題基準	専門基礎Ⅱ-11-ABCDE
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

消化器疾患、代謝、内分泌疾患、血液疾患、免疫、アレルギー疾患の代表的内科疾患について、病因、病態、疫学、臨床像、検査、診断、治療法、予後を学習する。

■ 到達目標

1. 代表的な消化器疾患、代謝、内分泌内疾患、血液疾患、免疫、アレルギー疾患について、疫学、予後、病因、病態、臨床像、評価、検査（画像、生理機能検査、血液検査を含む）、診断、治療法を説明できる。
2. 消化器疾患、代謝、内分泌疾患、血液疾患、免疫、アレルギー疾患患者のリハビリテーション留意事項を説明できる。

■ 授 業 計 画

- 第1回 消化器総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
- 第2回 消化器疾患（1）食道疾患、胃の疾患
- 第3回 消化器疾患（2）小腸、大腸の疾患
- 第4回 消化器疾患（3）肝疾患
- 第5回 消化器疾患（4）胆道疾患、膵疾患、その他
- 第6回 代謝、内分泌総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
- 第7回 代謝、内分泌疾患（1）糖尿病、脂質代謝異常、栄養障害、その他
- 第8回 代謝、内分泌疾患（2）下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患
- 第9回 免疫、アレルギー総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
- 第10回 免疫、アレルギー疾患（1）アレルギー疾患
- 第11回 免疫、アレルギー疾患（2）自己免疫疾患
- 第12回 血液、造血器疾患（1）赤血球系疾患
- 第13回 血液、造血器疾患（2）白血球系疾患、出血性疾患
- 第14回 リハビリテーションと内科臨床について
- 第15回 総復習（国家試験対策）

■ 評価方法

筆記試験 80% 小テスト 10% 受講態度 10%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。
 次回授業までに、前回の授業内容を十分に復習しておいてください。
 国家試験出題基準のに基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。
 発展的内容を探究したい時、理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。

■ 教 科 書

書 名：ナースの内科学 第10版
 著者名：奈良信雄
 出版社：中外医学社

■ 参考図書

書 名：標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版
著者名：中外医学社
出版社：医学書院

■ 留意事項

内科学を学習するにあたって、内臓解剖学、生理学、病理学全般をよく理解しておく必要があります。授業の前に、十分復習をしておいてください。感染症については、三年生後期の感染症学において詳しく学習します。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①③⑥ DP：①②
OT 専攻 CP：①②⑤ DP：①②

授業科目	整形外科科学Ⅰ				
担当者	田中 稔・大山洋平（オムニバス）			国家出題基準	Ⅱ -7A, 7C, Ⅲ -6A, 6C
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

運動機能障害から日常生活動作を障害する原因となる，整形外科疾患について病因，病態生理，診断，治療，予後について学習する。

■ 到達目標

まず，運動器の障害に関する基礎的な理解を深めた上で，各分野ごと，それぞれの疾患について，病因，病態生理，治療法を理解する。

さらに，その知識を理学療法士としてどのように臨床につなげていくか理解する。

■ 授 業 計 画

- 第1回 整形外科とは
- 第2回 整形外科診断総論
- 第3回 整形外科治療総論
- 第4回 整形外科疾患総論
- 第5回 軟部組織・骨・関節の感染症
- 第6回 炎症性関節疾患（関節リウマチとその類縁疾患・慢性関節疾患等）
- 第7回 骨端症・骨壊死・骨・軟部腫瘍
- 第8回 先天性疾患・骨系統疾患
- 第9回 神経・筋疾患，代謝性疾患
- 第10回 変形性関節症
- 第11回 肩・肘・手関節と手
- 第12回 頸・胸・腰椎
- 第13回 股・膝・足関節と足
- 第14回 外傷（骨折，捻挫，脱臼）
- 第15回 外傷（脊椎・脊髄損傷，末梢神経損傷）

■ 評価方法

筆記試験：80%，小テスト：20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業開始時に知識の確認テストを実施する。そのため，事前に前回授業の復習をしておくこと。

■ 教 科 書

書 名：標準整形外科科学
 著者名：監修：内田淳正，編集：中村利孝ら
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科科学
 著者名：立野勝彦
 出版社：医学書院

■ 留 意 事 項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP : ④⑥ DP : ①②

授業科目	整形外科科学Ⅰ				
担当者	西田裕希・山田隆人・大山洋平（オムニバス）			国家出題基準	
学科名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

運動器の解剖・生理を立ち戻り、整形外科疾患の病態を理解することを目的に行う。整形外科Ⅰでは、整形外科の概要および身体部位別の疾患の理解を深める。

■ 到達目標

運動器の解剖・生理学が理解できる
身体部位別の整形外科疾患の病態が理解できる

■ 授業計画

第1回 オリエンテーション、整形外科概論
第2回 整形外科検査
第3回 整形外科治療
第4回 上肢の疾患1
第5回 上肢の疾患2
第6回 上肢の疾患3
第7回 上肢の疾患4
第8回 下肢の疾患2
第9回 下肢の疾患1
第10回 下肢の疾患2
第11回 下肢の疾患3
第12回 下肢の疾患4
第13回 体幹の疾患1
第14回 体幹の疾患2
第15回 体幹の疾患3

■ 評価方法

講義内の確認テスト（豆テスト等）50%、筆記試験50%で評定を行う。欠席の場合は、確認テストの評点が加算されない。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各単元で学んだ国家試験の問題を確認・復習すること。理解を深めた内容は、豆テスト等で確認を行う。

■ 教 科 書

書 名：病気がみえる 11 運動器・整形外科
著者名：医療情報科学研究所岡庭豊編集
出版社：株式会社 メディックメディア

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

OT 専攻 CP : ①②③⑤ DP : ①④

授業科目	整形外科学Ⅱ				
担 当 者	上里圭吾・山田隆人（オムニバス）			国家出題基準	専門基礎Ⅱ -6-ABCDE
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

運動器の解剖・生理を立ち戻り、整形外科疾患の病態を理解することを目的に行う。整形外科Ⅰでは、発生機序による整形外科疾患の理解を深める。

■ 到達目標

運動器の解剖・生理学が理解できる
発生機序別の整形外科疾患の病態が理解できる

■ 授 業 計 画

第1回 オリエンテーション、末梢神経損傷1
第2回 末梢神経損傷2
第3回 外傷1 総論
第4回 外傷2 区画症候群・複合性局所疼痛症候群
第5回 外傷3 上肢の骨折
第6回 外傷4 骨盤・下肢の骨折
第7回 外傷5 脱臼その他
第8回 骨南部腫瘍・脊髄腫瘍
第9回 リウマチ性疾患1
第10回 リウマチ性疾患2
第11回 慢性関節性疾患1
第12回 慢性関節性疾患2
第13回 代謝性骨疾患
第14回 その他疾患
第15回 整形外科リハビリテーション

■ 評価方法

講義内の確認テスト（豆テスト等）50%、筆記試験50%で評定を行う。欠席の場合は、確認テストの評点が加算されない。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各単元で学んだ国家試験の問題を確認・復習すること。理解を深めた内容は、豆テスト等で確認を行う。

■ 教 科 書

書 名：病気がみえる 11 運動器・整形外科
著者名：医療情報科学研究所岡庭豊編集
出版社：株式会社 メディックメディア

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

OT 専攻 CP : ①②③⑤ DP : ①④

授業科目	臨床神経学Ⅰ				
担当者	岩田 篤	国家出題基準		専門基礎分野Ⅱ -8,9-AB	
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

神経内科疾患は、診断名と臨床症状を対応させるような理解ではなく、脳の変性部位と臨床症状を対応させて理解することが鉄則です。つまり、疾患が違っていても脳の変性部位が同じなら、同じ臨床症状が生じるということです。神経内科疾患では、脳・神経各部の働きと神経路を理解し、そこが障害されたらどのような症候を呈するのかを理解することが重要です。この講義では神経機能解剖学を理解したのち、神経症候のメカニズムについて解説します。

■ 到達目標

運動や感覚に係る神経機能解剖学を理解し、どの神経系が障害されればどのような臨床像になるのか、そのメカニズムを理解できるようにする。

■ 授業計画

- 第1回 臨床神経学の基礎
- 第2回 神経機能解剖1：大脳皮質の機能局在
- 第3回 神経機能解剖2：皮質脊髓路
- 第4回 神経機能解剖3：皮質基底核ループ
- 第5回 神経機能解剖4：小脳回路網
- 第6回 神経機能解剖5：感覚路系
- 第7回 神経機能解剖6：視床
- 第8回 神経機能解剖7：末梢神経系
- 第9回 神経機能解剖8：脳神経
- 第10回 運動麻痺のメカニズムと臨床症状（筋紡錘の役割および腱反射のメカニズム）
- 第11回 錐体外路徴候のメカニズムと臨床症状
- 第12回 運動失調のメカニズムと臨床症状
- 第13回 意識障害／認知機能障害のメカニズムと臨床症状
- 第14回 自律神経障害／嚥下障害のメカニズムと臨床症状
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

筆記試験：80%、小テスト：20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

その日の講義内容は必ずその日のうちに復習してください。その日の講義で用いた図表を見て、その日の講義内容が想起できるようにしてください。少なくとも60分の復習時間は必要です。

■ 教科書

書 名：病気がみえる vol.7 脳・神経
 著者名：医療情報科学研究所 / 編集
 出版社：メディックメディア

■ 参考図書

書 名：神経解剖学講義ノート

著者名：寺島俊雄

出版社：金芳堂

書 名：脳の機能解剖と画像診断

著者名：真柳佳昭 / 訳

出版社：医学書院

書 名：脳卒中ビジュアルテキスト

著者名：高木康行・他

出版社：医学書院

書 名：メディカルスタッフのための神経内科学

著者名：河村満 / 編著

出版社：医歯薬出版

書 名：神経内科学テキスト

著者名：江藤文夫・他 / 編

出版社：南江堂

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：④⑥⑦⑧ DP：①②③④⑤

この科目を理解するためには、「神経系の解剖学」「生理学Ⅰ・Ⅱ」の科目の理解が重要である。

また、「臨床神経学Ⅱ」「神経障害理学療法治療学Ⅰ」「神経障害理学療法治療学Ⅱ」へとつながる内容である。

授業科目	臨床神経学Ⅰ				
担当者	林部 美紀			国家出題基準	専門基礎Ⅱ -8
学科名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

脳や神経の仕組みや働きを理解し、神経症候のメカニズムと症状について講義やグループワークで進めていく。

■ 到達目標

1. 脳や神経の仕組みを理解できる。
2. 脳や神経の働きを理解できる。
3. 脳や神経が障害されることによつての症状を理解する。

■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション・大脳の機能局在と高次脳機能障害
- 第2回 脳画像の見方
- 第3回 錐体路と運動麻痺
- 第4回 錐体路と運動麻痺
- 第5回 上位運動ニューロンと下位運動ニューロン
- 第6回 感覚器系と症状
- 第7回 錐体外路と症状
- 第8回 大脳基底核・小脳と症状
- 第9回 大脳辺縁系と症状
- 第10回 間脳と症状
- 第11回 脳幹と症状（意識障害）
- 第12回 脳神経と症状
- 第13回 脳神経と症状
- 第14回 脊髄・脊髄神経と症状
- 第15回 自律神経系と症状

■ 評価方法

単位認定資格者に対し、定期試験を60%、小テスト30%、レポート・発表点10%として評価する。合格は60%以上とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

1年生で習った解剖学や生理学を基本にやっていきます。授業前には必ず1年生の時に習ったその単元の復習をしておいてください。その日の講義内容は必ずその日のうちに復習してください。その日の講義で用いた図表を見て、その日の講義内容が想起できるようにしてください。少なくとも30分以上は復習してください。小テストでこまめに評価していきます。

■ 教 科 書

書 名：病気がみえる vol.7 脳・神経
 著者名：医療情報科学研究所／編集
 出版社：メディックメディア

■ 参考図書

書 名：メディカルスタッフのための神経内科学

著者名：河村満 / 編著

出版社：医歯薬出版

書 名：PT・OT のための脳画像のみかたと神経所見

著者名：森 惟明, 鶴見 隆正

出版社：医学書院

■ 留意事項

3年生で習う身体障害治療学や実習に結びつく、非常に大事な基礎科目です。

1年生の解剖学生理学から繋がっています。しっかり復習してください。無断欠席・遅刻はしないようにしてください。

■ ポリシー該当項目

OT 専攻 CP : ② DP : ①②

授業科目	臨床神経学Ⅱ				
担当者	岩田 篤	国家出題基準	専門基礎分野Ⅱ -8,9-ABC		
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

神経内科疾患は、診断名と臨床症状を対応させるような理解ではなく、脳の変性部位と臨床症状を対応させて理解することが鉄則です。つまり、疾患が違っていても脳の変性部位が同じなら、同じ臨床症状が生じるということです。神経内科疾患では、脳・神経各部の働きと神経路を理解し、そこが障害されたらどのような症候を呈するのかを理解することが重要です。この講義では、臨床神経学Ⅰの講義内容を踏まえた上で、神経内科疾患の臨床症状について解説します。

■ 到達目標

神経内科疾患の概要を理解し、特徴的な臨床症状がなぜ生じるのかを、神経機能解剖学的に説明できるようにする。さらに、理学療法と関連し、どのようなメカニズムで障害が改善するのもも考察できるようにする。

■ 授業計画

- 第1回 臨床神経学の基礎
- 第2回 脳梗塞の病理
- 第3回 脳梗塞の神経症候のとりえ方（脳血管走行と支配領域）
- 第4回 脳内出血の病理
- 第5回 脳内出血の神経症候のとりえ方（伝導路）
- 第6回 くも膜下出血の病理と神経症候のとりえ方
- 第7回 頭部外傷／てんかん／脳腫瘍の病理と神経症候のとりえ方
- 第8回 末梢神経障害の検査法
- 第9回 ギランバレー症候群の病理と神経症候のとりえ方
- 第10回 重症筋無力症の病理と神経症候のとりえ方
- 第11回 筋疾患およびその他ニューロパチーの病理と神経症候のとりえ方
- 第12回 多発性硬化症の病理と神経症候のとりえ方
- 第13回 筋萎縮性側索硬化症の病理と神経症候のとりえ方
- 第14回 パーキンソン病およびその他の錐体外路疾患の病理と神経症候のとりえ方
- 第15回 脊髄小脳変性症の病理と神経症候のとりえ方

■ 評価方法

筆記試験：80%、小テスト：20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

その日の講義内容は必ずその日のうちに復習してください。その日の講義で用いた図表を見て、その日の講義内容が想起できるようにしてください。少なくとも60分の復習時間は必要です。

■ 教科書

書 名：病気がみえる vol.7 脳・神経
 著者名：医療情報科学研究所 / 編集
 出版社：メディックメディア

■ 参考図書

書 名：神経解剖学講義ノート

著者名：寺島俊雄

出版社：金芳堂

書 名：脳の機能解剖と画像診断

著者名：真柳佳昭 / 訳

出版社：医学書院

書 名：脳卒中ビジュアルテキスト

著者名：高木康行・他

出版社：医学書院

書 名：メディカルスタッフのための神経内科学

著者名：河村満 / 編著

出版社：医歯薬出版

書 名：神経内科学テキスト

著者名：江藤文夫・他 / 編

出版社：南江堂

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：④⑥⑦⑧ DP：①②③④⑤

この科目を理解するためには、「神経系の解剖学」「生理学Ⅰ～Ⅳ」「臨床神経学Ⅰ」の科目の理解が重要である。また、「神経障害理学療法治療学Ⅰ」「神経障害理学療法治療学Ⅱ」へとつながる内容である。

授業科目	精神医学				
担当者	高橋 清武			国家出題基準	専門基礎Ⅱ -5
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

主な精神疾患の症状・診断・治療について学ぶ

■ 到達目標

精神医学に関心を持ち、基本的な知識を身につける。

■ 授業計画

- 第1回 精神医学総論 精神医学とは 精神疾患の分類
- 第2回 精神医学総論 診断・検査
- 第3回 精神医学総論
- 第4回 統合失調症
- 第5回 気分障害
- 第6回 神経症性障害・ストレス関連障害・身体表現性障害
- 第7回 パーソナリティ障害
- 第8回 アルコール、薬物関連障害
- 第9回 器質性精神障害
- 第10回 児童青年期精神障害：精神遅滞、発達障害
- 第11回 摂食障害
- 第12回 てんかん
- 第13回 睡眠障害
- 第14回 治療
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

筆記試験100%（ただし無断欠席や遅刻はマイナス評価）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

当日受講した該当項目については、テキストを読むなどして、より理解を深めておくこと

■ 教科書

書 名：精神医学マイテキスト
 著者名：西川隆・中尾和久・三上章良
 出版社：金芳堂

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①③④⑥ DP：①②

OT 専攻 CP：①②③⑤ DP：①②

授業科目	臨床運動学				
担当者	島 雅人	国家出題基準	専門基礎Ⅱ -3-BCabjDH		
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

運動学総論、運動学各論、運動学実習で修得した知識を踏まえ、疾病や外傷により生じる心身機能・身体構造の変化や活動の変化について学ぶ。実際の運動を教材等で観察し、模倣しながら、障害のある対象者の運動特性を学ぶ。

■ 到達目標

疾病や外傷により生じる心身機能・身体構造の変化、運動・活動を理解できる。
障がい者の姿勢や動作を観察し、その特徴や要因を検討することができる。
機能障害と能力障害の関連を理解できる

■ 授 業 計 画

第1回 コース・ガイダンス：講義の進め方、評定の他、これまでに学んだ基礎運動学との関連性を学ぶ
関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ
第2回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ
第3回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ
第4回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ
第5回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ
第6回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ
第7回 筋力低下（廃用性・末梢神経障害 等）による運動や活動の変化を学ぶ
第8回 筋力低下（廃用性・末梢神経障害 等）による運動や活動の変化を学ぶ
第9回 筋力低下（廃用性・末梢神経障害 等）による運動や活動の変化を学ぶ
第10回 筋力低下（廃用性・末梢神経障害 等）による運動や活動の変化を学ぶ
第11回 筋力低下（廃用性・末梢神経障害 等）による運動や活動の変化を学ぶ
第12回 筋力低下（廃用性・末梢神経障害 等）による運動や活動の変化を学ぶ
第13回 疾患（中枢神経障害、神経筋疾患 等）による運動や活動の変化を学ぶ
第14回 疾患（中枢神経障害、神経筋疾患 等）による運動や活動の変化を学ぶ
第15回 本講義で学んだことについて復習、再確認を行う

■ 評価方法

筆記試験：80％ 小テスト20％

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

第2回～第5回においては、各関節の構造、機能をあらかじめ学習しておくこと。
第6回～11回においては、各関節に作用する筋について、起始、停止、作用、支配神経をあらかじめ学習しておくこと。
第12回～14回においては、特に中枢神経系の障害について、その特徴を学習しておくこと。
小テストを実施し、定期的に理解状況を確認する。毎回の授業で学習したことを復習し、小テストに臨んでください。
実施した内容について理解が不十分であった場合は、次の授業までに質問に来て理解を深めてください。

■ 教 科 書

書 名：PT・OTのための運動学テキスト：基礎・実習・臨床
著者名：小柳 磨毅 ほか
出版社：金原出版

■ 参考図書

書 名：ブルンストローム臨床運動学 原著第6版
著者名：Peggy A.Houglum
出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①②③④⑥ DP：①②

授業科目	臨床運動学				
担 当 者	山岡真・渡部雄太・山田隆人（オムニバス）			国家出題基準	専門基礎Ⅱ -3-ABE
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

正常の運動学の理論を踏まえて、臨床における病態臨床学を演習等を体験しながら理解を深める

■ 到達目標

正常の運動学の理論の理解を深める
臨床における病態臨床学の理解を深める

■ 授 業 計 画

第1回 オリエンテーション、生体力学
第2回 肩甲帯・肩1
第3回 肩甲帯・肩2
第4回 肘・前腕1
第5回 手関節・手1
第6回 手関節・手2
第7回 骨盤体・股
第8回 膝・下腿1
第9回 足・足関節1
第10回 足・足関節2
第11回 脊柱
第12回 寝返り
第13回 立ち座り
第14回 歩行・杖歩行
第15回 車椅子移動

■ 評価方法

筆記試験50%、課題の提出・レポート・報告等50%、欠席、遅刻・早退は減点の対象（一回につき、事前届出なし：－10点、事前届出あり：－2点

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義・演習の最後に、次回の予習課題および範囲について確認を行う。次回の講義、演習までに基本的な内容に関しては予習しておくこと。

■ 教 科 書

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

OT 専攻 CP：①②③④⑤ DP：①④

授業科目	臨床薬理学				
担当者	藤岡 重和・池田 宗一郎・中嶋 秀人・下村 裕章・名徳 倫明（オムニバス）			国家出題基準	II-2-B-e, II-11-E
学科名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択

■ 内 容

リハビリテーション医療は、医師、療法士、看護師、薬剤師、栄養士など多職種によるチーム医療であり、脳神経疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、悪性腫瘍、精神疾患を有する対象者の理解、評価のために薬理学の基礎的知識が必要とされる。本講義では、薬剤の体内動態、頻用薬剤の薬理作用、副作用、器官毒性とその発現メカニズムを学習する。特に、理学療法士、作業療法士の実地臨床上、重要である神経、筋に作用する薬剤、循環器治療薬、呼吸器治療薬等については、症例提示により実践的知識の修得を目指す。

■ 到達目標

1. 薬剤の体内動態、頻用薬剤の薬理作用、副作用を説明できる。
2. 代表的な神経、筋作用薬、循環器治療薬、呼吸器治療薬について説明できる。

■ 授業計画

第1回	臨床薬理学総論 (1)	薬剤の体内動態	名徳
第2回	臨床薬理学総論 (2)	頻用薬剤の薬理作用、副作用	名徳
第3回	臨床薬理学各論 (1)	脳卒中と治療薬	中嶋
第4回	臨床薬理学各論 (2)	神経疾患と治療薬	中嶋
第5回	臨床薬理学各論 (3)	呼吸器疾患と治療薬	池田
第6回	臨床薬理学各論 (4)	各種感染症と治療薬	池田
第7回	臨床薬理学各論 (5)	循環器疾患と治療薬、国試対策	下村 / 藤岡
第8回	臨床薬理学各論 (6)	代謝性疾患と治療薬、漢方薬、国試対策	下村 / 藤岡

■ 評価方法

筆記試験 90%
 受講態度 10%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。
 次回授業までに、前回の授業内容を十分に復習しておいてください。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：臨床薬理学（NURSING GRAPHICUS 疾患の成り立ち 2）

著者名：古川裕之

出版社：MC メディカ出版

書 名：3分間 神経診察法 - 最も簡単で効率のよい考え方・進め方

著者名：中嶋秀人

出版社：総合医学社，2011年

書 名：続・3分間神経診察法 - 症状から一発診断

著者名：中嶋秀人

出版社：総合医学社，2015年

書 名：超実践！脳血管障害パーフェクトガイド：ビジュアルで理解し、事例で確認できる

著者名：中嶋秀人

出版社：総合医学社，2017年

■ 留意事項

臨床薬理学を学習するにあたって、生理学全般をよく理解しておく必要があります。授業の前に、十分復習をしておいてください。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①③⑥ DP：①②

OT 専攻 CP：①②⑤ DP：①②

授業科目	小児科学				
担 当 者	早島 禎幸 藪中 良彦（オムニバス）			国家出題基準	専門基礎Ⅱ -10
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

理学療法士・作業療法士として必要な子どもの病気の知識を学習する。

■ 到達目標

子どもの疾患に合わせて適切な理学療法及び作業療法を提供するために必要な子どもの病気の原因や病態を知ることが、この科目の目標である。

■ 授業計画

- 第1回 I. 乳幼児健診・予防接種について（早島禎幸）
 第2回 II. 新生児・未熟児疾患について（藪中良彦）
 第3回 III. 発達障害について（早島禎幸）
 第4回 IV. 先天性異常と遺伝子病について（藪中良彦）
 第5回 V. 神経疾患（特にてんかん）／内分泌・代謝疾患について（早島禎幸）
 第6回 VI. 脊髄性疾患／末梢神経疾患／筋疾患／骨・関節疾患について（藪中良彦）
 第7回 VII. 感染症／免疫・アレルギー疾患、膠原病について（早島禎幸）
 第8回 VIII. 循環器疾患について（藪中良彦）

■ 評価方法

予習課題（20点）、筆記試験（80点）
 授業態度、出席状況（欠席－4点、遅刻／早退－2点、居眠り－1点）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

次の授業の範囲を明示するので、その範囲を予習し、不明な2つの項目について調べてまとめを提出すると共に、2つ適切な質問を考え Moodle を通して事前に提出することで予習を促す。また、随時小テストを行い、復習を促す。

■ 教 科 書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 小児科学
 著者名：富田豊
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：最新育児小児病学
 著者名：黒田泰弘
 出版社：南江堂

■ 留意事項

毎回出席し、予習・復習をしっかりと行ってください。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①③④⑥ DP：①②

OT 専攻 CP：①②③⑤ DP：①②

3年次で学習する「小児期理学療法治療学」及び「発達障害治療学Ⅰ，Ⅱ」で学ぶ障害のある子どもたちへの理学療法治療及び作業療法治療を理解するための基礎となる小児期の疾患を、「小児科学」でしっかりと学習する。

授業科目	老年医学				
担 当 者	藤岡重和・大中玄彦・森田婦美子・藤本宜正（オムニバス）			国家出題基準	専門基礎 II-13-ABCDE
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

老年期にみられる障害の特性を理解するため、老化のメカニズムや高齢者の生理的特性を学習する。老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化、高齢者を取りまく地域の問題についても幅広く解説する。また、加齢に伴い特徴的に現れる疾患・障害について、その疫学、予後、病態、臨床像、評価、検査（画像、生理機能検査、血液検査を含む）、診断、治療の基礎的な学習する。

■ 到達目標

1. 加齢に伴う生理機能の変化、老年症候群、老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化を説明できる。
2. 加齢に伴い特徴的に現れる疾患・障害について、その疫学、予後、症候、評価、検査（画像、生理機能検査を含む）、診断、治療を説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 老年医学総論（1）老化と老年病の考え方 藤岡
 第2回 老年医学総論（2）加齢に伴う生理機能変化 藤岡
 第3回 老年医学総論（3）高齢者に多い症候とそのアセスメントについて 森田
 第4回 老年医学総論（4）老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化と高齢者へのアプローチ 森田
 第5回 老年医学総論（5）高齢者の医療、介護、福祉、ターミナルケア 森田
 第6回 老年医学各論（1）精神機能の老化と精神疾患（うつ状態、せん妄、認知症、その他） 森田
 第7回 老年医学各論（2）心、血管機能の老化と循環器疾患（心不全、末梢循環障害、その他） 大中
 第8回 老年医学各論（3）呼吸機能の老化と呼吸器疾患（誤嚥性肺炎、閉塞性肺疾患、その他） 大中
 第9回 老年医学各論（4）消化機能の老化と消化器疾患（摂食、嚥下障害、消化器癌、その他） 大中
 第10回 老年医学各論（5）腎機能、内分泌、代謝機能の老化と疾患（腎不全、糖尿病、その他） 大中
 第11回 老年医学各論（6）加齢による免疫機能の変化、高齢者の感染症 大中
 第12回 老年医学各論（7）骨、運動機能の老化と疾患（骨粗鬆症、骨折他）、感覚機能の老化と疾患 藤岡
 第13回 泌尿器科総論（解剖と生理、診断と検査法）、代表的な泌尿器疾患（尿路感染症、尿路結石症） 藤本
 第14回 代表的な泌尿器疾患（尿路・生殖器の腫瘍、神経因性膀胱） 藤本
 第15回 総復習（国家試験対策） 藤岡

■ 評価方法

筆記試験 80% 小テスト 10% 受講態度 10%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。
 次回授業までに、前回の授業内容を十分に復習しておいてください。
 国家試験出題基準のに基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。

■ 教 科 書

書 名：標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 老年学 第4版
 著者名：大内尉義
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：新老年学 第3版

著者名：大内 尉義、秋山 弘子、折茂 肇

出版社：東京大学出版社

■ 留意事項

老年学を学習するにあたって、解剖学、生理学、病理学全般をよく理解しておく必要があります。授業の前に、十分復習をしておいてください。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①③⑥ DP：①②

OT 専攻 CP：①②⑤ DP：①②

授業科目	高次脳機能障害学Ⅰ				
担当者	林部 美紀	国家出題基準		専門基礎Ⅱ-8	
学科名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

大脳機能との関連から高次脳機能障害の基本的知識を講義やグループワーク、レポートなどにより理解する。

■ 到達目標

1. 大脳機能を理解することができる。
2. 各々の高次脳機能障害について、病巣や症状を理解することができる。
3. 各々の高次脳機能障害について、検査方法や特徴的な治療方法が分かる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・高次脳機能障害の概要
- 第2回 注意障害
- 第3回 半側空間無視
- 第4回 その他の失認
- 第5回 記憶障害
- 第6回 失行
- 第7回 失語
- 第8回 前頭葉障害・遂行機能障害

■ 評価方法

単位認定資格者に対し、筆記試験60%、小テスト20%、レポート・報告20%として評価する。合格は60%以上とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業の復習をすること。20分以上は必要である。毎回小テストを実施する。

■ 教科書

書 名：高次脳機能障害学 第2版
 著者名：石合 純夫
 出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

書 名：高次脳機能障害マエストロシリーズ ①基礎知識のエッセンス
 著者名：山鳥 重, 早川裕子ら
 出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

遅刻・欠席に気をつけること

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：② DP：①②

授業科目	高次脳機能障害学Ⅰ				
担当者	掛川 泰朗			国家出題基準	専門基礎Ⅱ-8
学科名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

大脳機能との関連から高次脳機能障害の基本的知識を講義やグループワーク、レポートなどにより理解する。

■ 到達目標

1. 大脳機能を理解することができる。
2. 各々の高次脳機能障害について、病巣や症状を理解することができる。
3. 各々の高次脳機能障害について、検査方法や特徴的な治療方法が分かる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・高次脳機能障害の概要
 第2回 注意障害
 第3回 半側空間無視
 第4回 その他の失認
 第5回 記憶障害
 第6回 失行
 第7回 失語
 第8回 前頭葉障害・遂行機能障害

■ 評価方法

単位認定資格者に対し、筆記試験60%、小テスト20%、レポート・報告20%として評価する。合格は60%以上とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業の復習をすること。20分以上は必要である。毎回小テストを実施する。

■ 教科書

書 名：高次脳機能障害学 第2版
 著者名：石合 純夫
 出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

書 名：高次脳機能障害マエストロシリーズ ①基礎知識のエッセンス
 著者名：山鳥 重, 早川裕子ら
 出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

遅刻・欠席に気をつけること

■ ポリシー該当項目

OT 専攻 CP：②③ DP：①②

授業科目	高次脳機能障害学Ⅱ				
担当者	林部 美紀	国家出題基準		専門基礎Ⅱ -8	
学科名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	選択

■ 内 容

高次脳機能障害学Ⅰを基に理学療法士が知っておく必要がある高次脳機能障害のスクリーニング検査や理学療法中の注意事項やアプローチ方法などを講義やグループワークで学ぶ。

■ 到達目標

1. 各高次脳機能障害の検査方法を理解できる。
2. 各高次脳機能障害の検査を抽出できる。
3. 各高機能機能障害の特徴を理解できる。
4. 高次脳機能障害について、理学療法中の注意事項が分かる。

■ 授業計画

- 第1回 知能検査 HDS-R・MMSE
- 第2回 機能検査の解釈・認知機能障害における理学療法中の注意事項
- 第3回 注意機能の評価
- 第4回 注意機能の評価の解釈・注意障害における理学療法中の注意事項
- 第5回 記憶の評価
- 第6回 記憶の評価の解釈・記憶障害における理学療法中の注意事項
- 第7回 行為の評価
- 第8回 行為の評価の解釈・失行症における理学療法中の注意事項

■ 評価方法

単位認定資格者に対し、レポート60%、発表20%、参加態度点20%として評価する。合格は60%以上とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

高次脳機能障害学Ⅰの復習をしておくように。1回につき20分以上かかる。レポートに表せるように文献を読むこと。

■ 教科書

書 名：高次脳機能障害学 第2版
 著者名：石合 純夫
 出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

書 名：高次脳機能障害マエストロシリーズ ③リハビリテーション評価
 著者名：鈴木孝治，早川裕子ら
 出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

遅刻・欠席に気をつけること

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：② DP：①②

授業科目	高次脳機能障害学Ⅱ				
担当者	掛川 泰朗	国家出題基準	専門基Ⅱ -2347		
学科名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

高次脳機能障害学Ⅰを基に作業療法士が知っておく必要がある高次脳機能障害の検査方法を講義やグループワークで学ぶ。

■ 到達目標

1. 各高次脳機能障害の検査方法を理解できる。
2. 各高次脳機能障害の検査を抽出できる。
3. 各高機能機能障害の特徴を理解できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・高次脳機能障害の概要・認知機能の検査（HDS-R・MMSE）
 第2回 注意の評価（TMT・かなひろいテスト）
 第3回 注意の評価（CAT）
 第4回 半側空間無視の検査（BIT）
 第5回 失行の検査（高次動作性検査）
 第6回 構成障害の検査（コース立方体検査）
 第7回 記憶の検査（リバーミード行動記憶検査）
 第8回 遂行機能の検査（WCST と BADS）

■ 評価方法

単位認定資格者に対し、レポート60%、発表20%、参加態度点20%として評価する。合格は60%以上とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

高次脳機能障害学Ⅰの復習をしておくように。1回につき20分以上かかる。レポートに表せるように文献を読むこと。

■ 教 科 書

書 名：高次脳機能障害学 第2版
 著者名：石合 純夫
 出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

書 名：高次脳機能障害マエストロシリーズ ③リハビリテーション評価
 著者名：鈴木孝治，早川裕子ら
 出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

遅刻・欠席に気をつけること。意欲的に授業に参加すること。

■ ポリシー該当項目

OT 専攻 CP：②③ DP：①②

授業科目	高次脳機能障害学Ⅲ				
担 当 者	掛川泰朗・他（オムニバス）	国家出題基準	専門基礎Ⅲ -236		
学 科 名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

高次脳機能障害の各総合検査について、目的を理解し、演習を通して実施技術を習得し、結果より症状をまとめ、障害機序に沿った治療プログラムの立案を学ぶ。

■ 到達目標

1. 高次脳機能の検査について解釈ができる。
2. 総合検査結果から症状を分析し、障害機序について考察できるようになる。
3. 障害機序に対応したリハビリテーションプログラムを立案できるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 高次脳機能評価～治療の説明（レポート）
- 第2回 レポート発表と解説
- 第3回 症例検討1
- 第4回 症例検討発表と解説
- 第5回 症例検討2
- 第6回 症例検討発表と解説
- 第7回 まとめ
- 第8回 臨床での高次脳機能障害

■ 評価方法

単位認定資格者に対し、発表点40%、レポート・報告40%、参加態度20%として評価する。合格は60%以上とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

高次脳機能障害学ⅠとⅡで学んだ各高次脳機能障害の症状・評価方法・アプローチ方法を復習しておくこと。

■ 教 科 書

書 名：高次脳機能障害学 第2版
 著者名：石合 純夫
 出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

書 名：高次脳機能障害のリハビリテーション【DVD 付き】実践的アプローチ
 著者名：本田哲三
 出版社：医学書院

■ 留意事項

欠席・遅刻に注意すること。意欲的に授業に参加すること。

■ ポリシー該当項目

OT 専攻 CP：②③ DP：①②

授業科目	地域医療実践学				
担 当 者	辻 郁・金森佳津・山口忍・今井公一 他（オムニバス）	国家出題基準	P T : Ⅱ -8 A, Ⅲ -5 B, -7 A O T : Ⅱ -8 A, Ⅲ -7 A, Ⅳ -1 F		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	4 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

講義により，地域の医療や保健福祉領域での実践例を知る
臨床実習で担当した事例（症例）の居住地の社会資源等の概況を確認し，ニーズを充足するサービスや施策等を企画する
以上を通して，地域で理学療法・作業療法を実践するために必要な知識や方法を学ぶ

■ 到達目標

1. 実践例を聞くことでその現状を把握し，課題が推測できる
2. 実習で担当した事例が暮らす地域の現状がわかる
3. 実習で担当した事例が豊かに暮らすためのニーズが抽出できる
4. 3. のニーズを充足できる実際的なサービスを企画できる

■ 授業計画

- 第1回 実践例を知る 1
第2回 実践例を知る 2
第3回 実践例を知る 3
第4回 実践例を知る 4
第5回 実践例を知る 5 （非常勤講師）
第6回 実践例を知る 6 （非常勤講師）
第7回 実践例を知る 7 （非常勤講師）
第8回 実践例を知る 8 （非常勤講師）
第9回 臨床実習で担当した事例が暮らす地域の概況を明らかにする
第10回 担当事例のニーズを明らかにする
第11回 ニーズを充足するためのサービス企画
第12回 ニーズを充足するためのサービス企画案プレゼン準備
第13回 ニーズを充足するためのサービス企画案プレゼン準備
第14回 企画書のプレゼンテーション 1
第15回 企画書のプレゼンテーション 2

■ 評価方法

課題レポート：50％ 報告内容の相互評価点：50％

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義終了後は，その内容を振り返り，自己学習内容を含めてレポートを作成する
演習終了後は，実施内容を振り返りリアクションペーパーを作成する。
予習課題は定めないが，期間内に課題を終了させる

■ 教 科 書

不要

■ 参考図書

■ 留 意 事 項

両専攻の臨床実習終了後に集中で開講する

■ ポリシー該当項目

PT 専攻：CP ⑦⑧ DP：③④⑤

OT 専攻：CP ④⑥⑦ DP：②④⑤

授業科目	スタディースキルⅠ				
担 当 者	1年チューター（オムニバス）			国家出題基準	該当なし
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	通年	選択・必修	必修

■ 内 容

各科目での学習が円滑に進められるように、学習計画や方法について実践を通じて学ぶ

■ 到達目標

学習習慣の確立と各科目の理解度向上

■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス，大学での学びとは
- 第2回 基礎学力確認
- 第3回 よいノートとは？
- 第4回 連休中の課題提示，学習計画の立案
- 第5回 グループ学習（生理学）
- 第6回 グループ学習（生理学）
- 第7回 グループ学習（生理学）
- 第8回 運動器系の解剖学に触れてみよう
- 第9回 運動器系の解剖学に触れてみよう
- 第10回 運動器系の解剖学に触れてみよう
- 第11回 運動器系の解剖学に触れてみよう
- 第12回 グループ学習
- 第13回 グループ学習
- 第14回 レポートの書き方
- 第15回 レポートの書き方
- 第16回 グループ学習（理学療法概論実習の振り返り）
- 第17回 振り返り学習（運動学）
- 第18回 振り返り学習（運動学）
- 第19回 振り返り学習（運動学）
- 第20回 振り返り学習（運動学）
- 第21回 グループ学習（神経系の解剖学）
- 第22回 グループ学習（神経系の解剖学）
- 第23回 グループ学習（神経系の解剖学）
- 第24回 振り返り学習・実技練習（理学療法評価学）
- 第25回 振り返り学習・実技練習（理学療法評価学）
- 第26回 振り返り学習・実技練習（理学療法評価学）
- 第27回 振り返り学習・実技練習（理学療法評価学）
- 第28回 冬期休暇・後期試験に向けての自己学習計画立案
- 第29回 グループ学習
- 第30回 グループ学習

■ 評価方法

講義内課題, レポート, 講義内テスト 100%

欠席届未提出は減点対象とする。

課題に未提出がある場合は、本科目の単位取得意思がないものとみなします。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義内容について復習をすること。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

準備物等の連絡事項は Moodle を通じて行うので、各自確認を怠らないこと。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP : ①②③④⑦⑧

DP:CP との関連はポリシーを参照

授業科目	理学療法概論実習				
担当者	榎 千磨・相原 一貴（オムニバス）	国家出題基準	専門分野 V-1, V -2-A		
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

専任教員と共に国内医療施設で見学実習を行う。事前にオリエンテーションと演習を行う。また、見学後も、演習を実施する。

■ 到達目標

現在の国内医療施設における理学療法の概観を理解する。また、障害について実際の対象者様の生活像を理解する。特に理学療法士の仕事を理解することと、対象者様や病院スタッフの方とスムーズにコミュニケーションを取れるようになることが具体的な目標である。

■ 授業計画

実習期間 学内演習・学外実習合わせて5日

学内演習：安全管理、個人情報保護、事故・過誤の対応、対人関係技法、医療面接、基本的臨床技能について取り上げる。

学外実習：

実習施設 協力医療機関

実習形態 協力医療機関において、専任教員と臨床実習指導者の指導／監督の下、患者と直接に対応する。専任教員は学生の臨床現場を観察し、学生の臨床実習に臨む態度などを適切に把握し、臨床実習指導者と綿密に連絡を取りながら必要なフォローを実施する。

実習の進め方 理学療法概論で学んだ問診、情報収集、評価、運動療法、物理療法などを実際の臨床現場で体験し、理解を深める。実習の進め方は、臨床現場の見学と専任教員のフォローを織り交ぜて実施する。

■ 評価方法

実習態度、実習評価、デイリーノート、学内発表の内容を基に判定する。尚、学内演習・学外実習とも欠席は減点とし、特に無断欠席の場合は大幅減点とする。また、提出物の提出遅れ・内容不備も減点とする。身だしなみなど学外実習において当然求められる事項に関し、教員の指示従わない場合、学外実習を履修することはできず不合格となる。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

学内演習で学んだコミュニケーションに関する知識を整理し、問診の練習を積んで臨むこと。本実習終了後は、自身の課題を整理し、次の実習に繋げることができるよう心がけておくこと。

■ 教 科 書

■ 参考図書

■ 留意事項

臨床現場での学習であるため、事前準備を充分に行い、現場の規則を厳守し、事故がないように努めること。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：⑤

DP：CP との関連はポリシ - 参照

授業科目	理学療法障害学				
担当者	伊禮 まり子	国家出題基準	専門分野 I -1-D, II -3-BCE		
学科名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

理学療法と障害について学ぶ。国際障害分類（ICIDH）と国際生活機能分類（ICF）について学び、ICFに基づく障害の捉え方を理解する。理学療法において対象となる障害について、障害像・原因・評価・アプローチの概要を学ぶ。

■ 到達目標

理学療法と障害について理解する。国際障害分類（ICIDH）と国際生活機能分類（ICF）の違いを理解し、ICFに基づいた障害の捉え方を経験する。理学療法において対象となる障害について、障害像・原因・評価・アプローチの概要を理解する。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・理学療法と障害
- 第2回 国際生活機能分類（ICF）
- 第3回 障害各論（関節可動域制限、筋力低下）
- 第4回 障害各論（運動麻痺、筋緊張異常）
- 第5回 障害各論（協調運動障害）
- 第6回 障害各論（感覚障害）
- 第7回 障害各論（バランス障害）
- 第8回 まとめ

■ 評価方法

筆記試験（80%）、課題（20%）、欠席・遅刻・早退は減点の対象（欠席：－4点、遅刻・早退：－2点）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回で提示する課題または小テストを復習すること。

■ 教科書

不要

■ 参考図書

書 名：リハビリテーションビジュアルブック

著者名：落合慈之監修 稲川利光編集

出版社：学研

書 名：ビジュアルレクチャー 基礎理学療法学

著者名：大橋ゆかり 編集

出版社：医歯薬出版株式会社

書 名：機能障害学入門

著者名：沖田実，松原貴子，森岡周 編集

出版社：神陵文庫

書 名：ICF の理解と活用

著者名：上田敏

出版社：きょうされん

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①②④⑥

DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

授業科目	総合理学療法学Ⅰ				
担 当 者	藪中良彦・田坂厚志・岩田篤 (オムニバス)	国家出題基準	専門基礎Ⅰ-Ⅲ，専門分野Ⅰ-Ⅳ		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	2 単位
		開講時期	通年	選択・必修	必修

■ 内 容

総合臨床実習Ⅰ（評価実習）の準備として，知識及び実技の総復習を行う。

■ 到達目標

総合臨床実習Ⅰ（評価実習）に必要な知識と技能を修得する。

■ 授 業 計 画

- 第1回 解剖学・生理学・運動学の復習Ⅰ
- 第2回 解剖学・生理学・運動学の復習Ⅱ
- 第3回 解剖学・生理学・運動学の復習Ⅲ
- 第4回 解剖学・生理学・運動学の復習Ⅳ
- 第5回 解剖学・生理学・運動学の復習Ⅴ
- 第6回 解剖学・生理学・運動学の復習Ⅵ
- 第7回 解剖学・生理学・運動学の復習Ⅶ
- 第8回 解剖学・生理学・運動学の復習Ⅷ
- 第9回 脳・神経の復習Ⅰ
- 第10回 脳・神経の復習Ⅱ
- 第11回 脳・神経の復習Ⅲ
- 第12回 脳・神経の復習Ⅳ
- 第13回 脳・神経の復習Ⅴ
- 第14回 脳・神経の復習Ⅵ
- 第15回 脳・神経の復習Ⅶ
- 第16回 脳・神経の復習Ⅷ
- 第17回 運動器・整形外科の復習Ⅰ
- 第18回 運動器・整形外科の復習Ⅱ
- 第19回 運動器・整形外科の復習Ⅲ
- 第20回 運動器・整形外科の復習Ⅳ
- 第21回 運動器・整形外科の復習Ⅴ
- 第22回 運動器・整形外科の復習Ⅵ
- 第23回 運動器・整形外科の復習Ⅶ
- 第24回 運動器・整形外科の復習Ⅷ
- 第25回 国家試験模試の準備Ⅰ
- 第26回 国家試験模試の準備Ⅱ
- 第27回 国家試験模試の準備Ⅲ
- 第28回 国家試験模試の準備Ⅳ
- 第29回 国家試験模試の準備Ⅴ
- 第30回 国家試験模試の準備Ⅵ

■ 評価方法

知識を問う試験（50％）：3教科（解剖学，生理学，運動学）模試，国家試験模試（2回），小テスト
 実技試験（50％）：臨床実習Ⅱ前実技テスト，OSCE（2回）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎回小テストを行うことで、予習・復習を促す。また、実技の自主練習を促す。

■ 教科書

書名：病気がみえる vol.11 運動器・整形外科

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

■ 参考図書

なし

■ 留意事項

1年間授業時間以外の自主勉強をしっかりと行い、評価実習に出る準備を行ってください。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①②③④⑥⑧

DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

授業科目	理学療法研究法				
担 当 者	伊禮 まり子	国家出題基準	専門分野 I -1-FH		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

理学療法学における研究の意義、目的および研究を遂行する際の具体的な方法論について学ぶ。また、本専攻教員のこれまでの研究活動および現在の研究テーマやゼミでの活動に触れ、今までの学習内容などに基づく興味と合わせて、特別演習において希望する分野について整理する。

■ 到達目標

- ・ 理学療法学における研究の意義、目的および研究を遂行する際の具体的な方法論について理解することができる。
- ・ 今までの学習内容および教員の研究活動などに基づいて、自分の興味のある分野について考え、希望する研究テーマについて整理することができる。

■ 授 業 計 画

- 第1回 理学療法研究の必要性（EBM・EBPT、診療ガイドライン）
- 第2回 研究デザイン
- 第3回 研究計画・研究倫理
- 第4回 データの尺度
- 第5回 データ特性の表現（代表値）
- 第6回 データ特性の表現（ばらつき）
- 第7回 データ特性の表現（Excel 演習）
- 第8回 文献検索
- 第9回 推測統計①
- 第10回 推測統計②
- 第11回 卒業研究ゼミ（特別演習）、教員研究活動紹介
- 第12回 卒業研究ゼミ（特別演習）、教員研究活動紹介
- 第13回 卒業研究ゼミ（特別演習）、教員研究活動紹介
- 第14回 感度・特異度
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

レポート（50%）、提出課題（50%）
欠席・遅刻・早退は減点の対象とする（欠席：－4点、遅刻・早退：－2点）。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回で提示する課題を行うこと。

■ 教 科 書

不要

■ 参考図書

書 名：はじめての研究法 コメディカルの研究法入門

著者名：千住秀明・玉利光太郎

出版社：神陵文庫

書 名：標準理学療法学専門分野 理学療法研究法

著者名：内山 靖 編集

出版社：医学書院

書 名：PT・OT のための臨床研究はじめの一步

著者名：山田 実 編集

出版社：羊土社

書 名：15レクチャーシリーズ リハビリテーション統計学

著者名：対馬栄輝・木村雅彦 編集

出版社：中山書店

書 名：医療系研究論文の読み方・まとめ方

著者名：対馬栄輝

出版社：東京図書

書 名：保健・医療のための研究法入門

著者名：Diana M. Bailey 著 朝倉隆司監訳

出版社：協同医書出版社

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①②④⑥

DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

授業科目	理学療法評価学Ⅰ				
担当者	今井 公一	国家出題基準	専門分野Ⅱ -1～4		
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

理学療法の対象者をどのような視点で理解すればよいのか、また対象者の生活像の理解と問題分析のためにどのような具体的な方法があるのか、代表的な内容を学習する。

■ 到達目標

1. 生活機能について説明できる
2. 理学療法評価の過程について説明できる
3. ADL とその評価について説明できる
4. 形態測定、関節可動域測定、筋力検査法、神経系の検査の概要について説明できる

■ 授業計画

- 第1回 生活機能と理学療法評価
- 第2回 理学療法プロセス
- 第3回 情報収集
- 第4回 日常生活活動と評価
- 第5回 筋骨格系の評価 形態測定
- 第6回 筋骨格系の評価 形態測定
- 第7回 筋骨格系の評価 ROM 測定 (1)
- 第8回 筋骨格系の評価 ROM 測定 (2)
- 第9回 筋骨格系の評価 ROM 測定 (3)
- 第10回 筋骨格系の評価 筋力検査法 (1)
- 第11回 筋骨格系の評価 筋力検査法 (2)
- 第12回 筋骨格系の評価 筋力検査法 (3)
- 第13回 神経系障害の評価 神経系の検査 (1)
- 第14回 神経系障害の評価 神経系の検査 (2)
- 第15回 総括

■ 評価方法

提出物10% 単元毎筆記試験30% 到達度筆記試験60%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

配布資料は時系列に整理しファイルしておいて下さい。必ず授業当日に一度は配布資料やテキストを見直し復習して下さい。単元毎の試験及び到達度試験を行います。

■ 教科書

書 名：理学療法評価学Ⅰ

著者名：石川 朗 他

出版社：中山書店

書 名：リハビリテーション評価マニュアル

著者名：正門由久

出版社：医歯薬出版

書 名：新・徒手筋力検査法

著者名：津山直一他訳

出版社：協同医書出版

■ 参考図書

書 名：運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢／下肢・体幹

著者名：林 典雄

出版社：メジカルビュー社

書 名：ROM ナビ（DVD）

著者名：青木主税 他

出版社：Round Flat

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①②④⑥ DP：①②

授業科目	理学療法評価学Ⅱ				
担当者	今井公一・相原一貴（オムニバス）	国家出題基準	専門分野Ⅱ -3～4		
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

理学療法の対象者をどのような視点で理解すればよいのか、また対象者の生活像の理解と問題分析のためにどのような具体的な方法があるのか、総論的な内容を学習した後、評価法の各論を学びます。各論の個々の内容は目標を参照。

■ 到達目標

1. 形態測定、関節可動域測定、筋力検査法について説明できる 2. 神経機能に関する代表的な検査方法について説明できる 3. 内部障害の評価の概要について説明できる

■ 授業計画

- 第1回 日常生活活動と評価
- 第2回 呼吸・循環・代謝障害の評価（1）
- 第3回 呼吸・循環・代謝障害の評価（2）
- 第4回 神経系障害の評価 神経系の検査（1）
- 第5回 神経系障害の評価 神経系の検査（2）
- 第6回 筋骨格系の評価 形態測定
- 第7回 筋骨格系の評価 ROM 測定（1）
- 第8回 筋骨格系の評価 ROM 測定（2）
- 第9回 筋骨格系の評価 筋力検査法（1）
- 第10回 筋骨格系の評価 筋力検査法（2）
- 第11回 筋骨格系の評価 筋力検査法（3）
- 第12回 筋骨格系の評価 筋力検査法（4）
- 第13回 運動器疾患の評価の実際（1）
- 第14回 運動器疾患の評価の実際（2）
- 第15回 総括

■ 評価方法

単元毎筆記試験50% 到達度筆記試験50%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

配布資料は時系列に整理しファイルしておいて下さい。必ず授業当日に一度は配布資料やテキストを見直し復習して下さい。単元毎の試験及び到達度試験を行います。

■ 教科書

書 名：理学療法評価学

著者名：松澤 正

出版社：金原書店

書 名：リハビリテーション評価マニュアル

著者名：正門由久

出版社：医歯薬出版

書 名：新・徒手筋力検査法

著者名：津山直一他訳

出版社：協同医書出版

書 名：整形外科テストポケットマニュアル

著者名：高橋仁美 金子奈央 著

出版社：医歯薬出版

■ 参考図書

書 名：運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢／下肢・体幹

著者名：林 典雄

出版社：メジカルビュー社

書 名：ROM ナビ (DVD)

著者名：青木主税 他

出版社：Round Flat

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①②④⑥ DP：①②

授業科目	理学療法評価学Ⅲ				
担 当 者	藪中良彦・田坂厚志・岩田篤 (オムニバス)	国家出題基準	専門分野Ⅱ（3-G, 7-B～G,）		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

理学療法の対象者をどのような視点で理解すればよいのか、呼吸循環代謝疾患、小児疾患、中枢神経疾患に関する病態と障害に対する評価法について学びます。

■ 到達目標

1. 代表的な呼吸循環代謝疾患の病態とその評価法について説明することができる。
2. 臨床像と年齢を基に適切な小児期の理学療法評価法を選択できるようになる。
3. 各種神経症状における評価の実施方法を理解し説明することができる。

■ 授 業 計 画

- 第1回 呼吸器理学療法評価Ⅰ
- 第2回 呼吸器理学療法評価Ⅱ
- 第3回 循環器理学療法評価Ⅰ
- 第4回 循環器理学療法評価Ⅱ
- 第5回 循環器理学療法評価Ⅲ
- 第6回 代謝疾患に対する理学療法評価
- 第7回 呼吸循環代謝疾患に対する理学療法評価のまとめ
- 第8回 小児期理学療法評価Ⅰ
- 第9回 小児期理学療法評価Ⅱ
- 第10回 片麻痺患者の評価Ⅰ
- 第11回 片麻痺患者の評価Ⅱ
- 第12回 錐体外路障害／運動失調症の評価Ⅰ
- 第13回 錐体外路障害／運動失調症の評価Ⅱ
- 第14回 脳神経の評価Ⅰ
- 第15回 脳神経の評価Ⅱ

■ 評価方法

筆記試験80%、小テスト20%で評価する。

学生の心得に記載の無い欠席（4点）、遅刻（-2点）は減点対象とする。事前連絡及び大学への出席後速やかに届けを提出すれば減点を緩和する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

適宜提示する課題を確実に学習すること。

提出を求められた場合は確実に提出すること。

■ 教 科 書

書 名：理学療法学テキスト 理学療法評価学Ⅱ
 著者名：石川 朗 総編集，森山英樹 責任編集
 出版社：中山書店

■ 参考図書

書 名：GMFM－粗大運動能力尺度

著者名：近藤 和泉、福田 道隆、青山 香

出版社：医学書院

書 名：Clinics in Developmental Medicine Gross Motor Function Measure (GMFM-66 & GMFM-88)
User's Manual 2nd Edition

著者名：Dianne J. Russell、Peter L. Rosenbaum、Lisa M. Avery、Marilyn Wright

出版社：Mac Keith Press

書 名：Gross Motor Function Measure (GMFM) Self-Instructional Training CD-ROM

著者名：Mary Lane、Dianne Russell

出版社：Mac Keith Press

書 名：PEDI リハビリテーションのための子どもの能力低下評価表

著者名：里宇明元、近藤和泉、間川博之

出版社：医歯薬出版株式会社

書 名：脳性まひ児の24時間姿勢ケア－ The Chailey Approach to Postural Management

著者名：今川忠男

出版社：三輪書店

書 名：EBOT 時代の評価法 作業療法ジャーナル増刊号 Vol.38. No. 7. 2004

出版社：三輪書店

書 名：ベッドサイドの神経の診かた

著者名：田崎 義昭、斎藤 佳雄、坂井 文彦

出版社：南山堂

■ 留意事項

毎回出席し、予習・復習をしっかりと行ってください。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：②④⑥

DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

授業科目	理学療法評価学演習				
担 当 者	牧之瀬一博・田坂厚志・相原一貴 (オムニバス)	国家出題基準	専門分野：Ⅱ -1-A, 2-A/C ～ G, 3-A/C ～ F/H, 4-A/B, 5-B		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

3年後期で行う理学療法評価学演習は、臨床場面で求められる理学療法評価の思考過程、評価技能の理解を目指す。

特に、代表的な疾患に対する病態の理解から評価の選択などの臨床思考過程を学び、症例像に合わせた実技までを体系的に学ぶ。

また、実際の症例の動画を用いて、動作観察・分析の思考過程をトレーニングする。

これらの実施を通して、総合臨床実習に向けた臨床思考能力及び評価方法をトレーニングする場とする。

■ 到達目標

- ・代表的な疾患に対して、障害像を理解し説明できる。
- ・代表的な疾患に対して、障害像を踏まえた理学療法評価を選択できる。
- ・代表的な疾患に対して、障害像を踏まえた評価方法を理解し説明できる。
- ・代表的な疾患に対して、評価結果から問題点を抽出できる。
- ・動作の観察から逸脱動作を複数抽出できる。
- ・逸脱動作から複数の機能障害を推測する事ができる。
- ・総合臨床実習に向けた基本的な評価内容を理解し説明できる。
- ・グループでの学修を通して、協同的な活動に参加し、クラス全体の能力向上に寄与することが出来る。

■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション
理学療法評価学演習の目指すところ（症候障害学ならびにクリニカル・リーズニング）
- 第2回 理学療法評価の思考過程（Top down 評価と Bottom up 評価）
脳血管障害症例に対する臨床思考過程、評価方法、統合解釈①
- 第3回 脳血管障害症例に対する臨床思考過程、評価方法、統合解釈②
- 第4回 神経変性疾患（パーキンソン病など）症例に対する臨床思考過程、評価方法、統合解釈①
- 第5回 神経変性疾患（パーキンソン病など）症例に対する臨床思考過程、評価方法、統合解釈②
- 第6回 運動器疾患（腰椎ヘルニアなど）症例に対する臨床思考過程、評価方法、統合解釈①
- 第7回 運動器疾患（腰椎ヘルニアなど）症例に対する臨床思考過程、評価方法、統合解釈②
- 第8回 運動器疾患（大腿骨頸部骨折など）症例に対する臨床思考過程、評価方法、統合解釈①
- 第9回 運動器疾患（大腿骨頸部骨折など）症例に対する臨床思考過程、評価方法、統合解釈②
- 第10回 循環器疾患症例に対する臨床思考過程、評価方法、統合解釈①
- 第11回 循環器疾患症例に対する臨床思考過程、評価方法、統合解釈②
- 第12回 動作観察・分析①（逸脱動作を抽出する）
- 第13回 動作観察・分析②（逸脱動作から機能障害を推論する）
- 第14回 総合臨床実習に向けたオリエンテーション
実習に向けた演習（レポートなどの記載方法）
- 第15回 総合臨床実習に向けたオリエンテーション
実習に向けた演習（レポートなどの記載方法）

■ 評価方法

提出課題（30%）、筆記試験（70%）

出席：学生の心得で認められていない欠席や遅刻については減点する（欠席：-4点、遅刻：-2点）

ただし、大学への出席後速やかに届けが提出されればこの限りではない。

また、不良な学習態度（提出物の不備、必要な資料・教科書の忘れなど）は減点対象（1回につき-5点）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

理学療法評価学実習は理学療法評価の総まとめである。この科目を履修し終える頃には、評価過程を独力で実施出来る状態となることが求められる。その為、授業時間外の学修にも真摯に臨むこと。

予習に関しては都度必要な内容について提示する。

第2～9回の講義においては、それぞれの疾患の病態や臨床症状についての理解が求められる。臨床神経学や整形外科学、内科学での講義内容について復習して講義に臨むこと。また、講義後の復習課題などについても真摯に取り組むこと。

第12～13回の講義については、教科書『観察による歩行分析』を用いた学習を行った上で受講して下さい。歩行時の関節運動がイメージ出来、また筋活動が説明できるようになる事が大切です。また、異常歩行についてもその成り立ちを含めて説明できるようになって下さい。特に、こういった運動分析が苦手な学生は、まず基本的な解剖（筋の走行）・運動学（筋の作用）について理解度を確認する必要がある。これらの基本が押さえられていれば、繰り返しの思考のトレーニングが必要である。

■ 教科書

書名：標準理学療法学 専門分野 理学療法 臨床実習とケーススタディ

著者名：鶴見隆正，辻下守弘（編集）

出版社：医学書院

書名：3日間で行う理学療法臨床評価プランニング

著者名：中山恭秀（編集）

出版社：南江堂

書名：観察による歩行分析

著者名：月城 慶一，他（訳）

出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：理学療法評価学

著者名：松澤正，江口勝彦

出版社：金原出版

書 名：標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学

著者名：内山靖（編集）

出版社：医学書院

書 名：新・徒手筋力検査法

著者名：津山直一，他（訳）

出版社：共同医書出版

書 名：神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ

著者名：鈴木則宏（編集）

出版社：メジカルレビュー社

書 名：基礎運動学

著者名：中村隆一，斎藤宏，長崎浩

出版社：医歯薬出版

書 名：症候障害学序説 理学療法の臨床思考過程モデル

著者名：内山 靖

出版社：文光堂

書 名：理学療法臨床実習サポートブック

著者名：岡田 慎一郎／上村 忠正／永井 絢也／長谷川 真人／村上 京子／守澤 幸晃

出版社：医学書院

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①②③④⑥⑧

DP と CP の関係は，ポリシーを参照してください。

理学療法評価学Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ，理学療法評価学実習との関連が特に深い科目である。

授業科目	理学療法評価学実習				
担 当 者	牧之瀬一博	国家出題基準	専門分野: II -1-A, 2-C/E ~ G, 3-A/C/E/F, 5-B		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

「理学療法評価学Ⅰ / Ⅱ」で学んだ基本的な検査測定手技(バイタル測定 / ROM 測定 / MMT / 痛みの評価 / 形態測定 / 感覚検査 / 各種神経学的検査 / 片麻痺運動機能テスト)に関する講義・演習・実技を行う。各種検査を注意点を理解し、学生同士で正確に実施する。また、それぞれの検査測定結果の臨床的な意義について解説する。

その他、臨床場面を意識して、ペーパーペイシェントを用いた演習で障害構造について講義・演習を行う。必要に応じてグループ学習を行い、他者との関わりの中で思考を深める。

■ 到達目標

- ・各種検査法の測定法・注意点について説明できる。
- ・各種検査法を学生同士で正確に実施することができる。
- ・各種検査法の臨床的意義を説明できる。
- ・理学療法評価に関連する身体運動を解剖学・運動学・生理学に基づいて理解する。
- ・ペーパーペイシェントの障害像から評価すべき項目を挙げることができる。
- ・ペーパーペイシェントの障害構造について説明することが出来る。
- ・グループでの学修を通して、協同的な活動に参加し、クラス全体の能力向上に寄与することが出来る。

■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション、理学療法評価学実習の目指すところ
関節可動域検査(下肢) 関節可動域測定に関する演習・実技
- 第2回 関節可動域検査(下肢) 関節可動域測定に関する演習・実技
- 第3回 徒手筋力検査 筋力測定の注意点(肢位や代償動作など)に関する講義と演習、実習
- 第4回 徒手筋力検査 筋力測定の注意点(肢位や代償動作など)に関する演習と実習①
- 第5回 徒手筋力検査 筋力測定の注意点(肢位や代償動作など)に関する演習と実習②
- 第6回 徒手筋力検査 筋力測定の注意点(肢位や代償動作など)に関する演習と実習③
- 第7回 神経学的検査(腱反射・筋緊張検査・病的反射・片麻痺運動機能テスト)
中枢性麻痺と末梢性麻痺の理解
- 第8回 徒手筋力検査 筋力測定の実技(下肢)
まとめと実技試験
- 第9回 神経学的検査(腱反射・筋緊張検査・病的反射・片麻痺運動機能テスト)
神経学的検査の実技
- 第10回 感覚の評価
感覚検査の意義と病態との兼ね合い / 感覚検査の実技
- 第11回 痛みの基本的評価、形態測定
- 第12回 カルテ情報の診方: 情報収集とコミュニケーション演習
バイタルサインの診方(測定実技)
- 第13回 ペーパーペイシェントを用いた脳血管障害の障害像の理解
- 第14回 ペーパーペイシェントを用いた運動器疾患の障害像の理解
- 第15回 バイタルサインの測定、関節可動域測定、徒手筋力検査、各種基本的検査法
まとめと実技

■ 評価方法

提出課題（30％）、実技試験（30％）、筆記試験（40％）

出席：学生の心得で認められていない欠席や遅刻については減点する（欠席：-4点、遅刻：-2点）

ただし、大学への出席後速やかに届けが提出されればこの限りではない。

また、不良な学習態度（提出物の不備、必要な資料・教科書の忘れなど）は減点対象（1回につき-5点）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習・復習に関しては都度必要な内容について提示する。大まかには以下の通りである。

第1/2回講義には、ROM 測定における基本軸・移動軸を理解し説明できる状態、下肢筋の走行と作用、二関節筋による可動性の制限を理解した上で、参加する事。

第3/4回講義では、MMT について概略が説明できる状態で講義に臨むこと。また、個別に課題を課すため、それを行って参加すること。第4-6回講義には、グループ内で学生同士での教え合いを行うため、それぞれの担当課題について説明できる状態で講義に臨むこと。第8回講義では、前回のグループ内での教え合いの内容を全員が理解した状態で参加する事。

第9回講義には、中枢神経・末梢神経、錐体路・伸張反射の経路について説明できる状態で講義に臨むこと。

第10回講義には、体制感覚の種類と伝導路（温痛覚の脊髓視床路、深部感覚の後索路）について説明できる状態で講義に臨むこと。

第12回講義には、上腕動脈と橈骨動脈の走行と触知部位について復習し、自身の身体で触知できる状態で講義に臨むこと。

第13・14回講義では、それぞれの症例の臨床像を理解するための課題を個別に課すため、それらについて説明できる状態で講義に臨むこと。

第15回講義には、全ての学習内容について復習した状態で講義に臨むこと。

■ 教科書

書 名：理学療法評価学

著者名：松澤正，江口勝彦

出版社：金原出版

書 名：臨床 ROM-測定からエクササイズまで Web 動画付き（実践リハ評価マニュアルシリーズ）

著者名：隈元庸夫

出版社：ヒューマン・プレス

書 名：新・徒手筋力検査法

著者名：津山直一，他（訳）

出版社：共同医書出版

書 名：神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ

著者名：鈴木則宏（編集）

出版社：メジカルレビュー社

書 名：ベッドサイドの神経の診かた

著者名：田崎 義昭

出版社：南山堂

■ 参考図書

書 名： 標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学

著者名：内山靖（編集）

出版社：医学書院

書 名：基礎運動学

著者名：中村隆一，斎藤宏，長崎浩

出版社：医歯薬出版

書 名：カラー版 筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版

著者名：嶋田智明・有馬慶美（監訳）

出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP: ①②③④⑥⑧

DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

理学療法評価学Ⅰ／Ⅱと関連が深い科目である。また、この科目の履修後には臨床実習Ⅰがあり、実際の対象者に検査測定を実施することになります。

授業科目	運動療法学Ⅰ				
担当者	棚 千磨	国家出題基準	専門分野 III-2-A		
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

理学療法における運動療法の位置づけと基本的概念を学ぶ。
解剖学・運動学・生理学などの基礎科目に立脚した学びを通して、運動療法を理解する。

■ 到達目標

疾患・症状に対応する各種運動療法の理論・目的・方法・適応について理解出来る。
各種運動療法を解剖・生理・運動学に基づいて理解し、論理的に解説できる。
関節拘縮の様々な因子について理解し、それらに対する関節可動域運動を説明することができる。
筋力調節・増強に関わる因子について理解し、整理して論理的に解説する事が出来る。
筋力増強運動の原則について理解し、適切な筋力増強運動について思考することが出来る。

■ 授業計画

- 第1回 関節可動域障害に対する運動療法：関節の構造と運動・関節拘縮
- 第2回 関節可動域障害に対する運動療法：関節可動域運動・ストレッチング・モビライゼーション
- 第3回 筋力低下に対する運動療法：筋の構造・収縮様式・筋張力の規定因子
- 第4回 筋力低下に対する運動療法：筋力増強の原則・筋力増強運動
- 第5回 持久力増強運動（筋持久力，全身持久力）
- 第6回 協調性障害に対する運動療法（運動の協調性，バランス障害）
- 第7回 運動学習を目的とした運動療法
- 第8回 痛みに対する運動療法

■ 評価方法

小テスト：30% 筆記試験：70% ※遅刻欠席、受講態度により減点あり。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各学生は授業後十分に復習を行い、2回目授業以降、小テストで理解度の確認を行ってまいります。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：標準理学療法学 専門分野 運動療法学総論 第4版
著者名：シリーズ監修：奈良 勲 編集：吉尾 雅春
出版社：医学書院

■ 留意事項

基本的に講義形式の授業となりますが、随時実技も織り交ぜていきます。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：②⑥⑧
DP：CP との関連はポリシ - 参照

授業科目	呼吸器障害理学療法治療学				
担当者	野村 卓生	国家出題基準	専門分野 I-3-D, II-3-B, III-3-B, III-6-E		
学科名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

「呼吸と運動」に関する解剖学・生理学的な基本知識を整理し、呼吸器疾患の病態およびその基本治療を学ぶ。酸素化能障害や換気能力障害などの呼吸器の障害に対する評価と理学療法について、その禁忌やリスク管理をふまえて講義し、実技実習を行う。

■ 到達目標

- 1) 運動器障害や神経障害と同様に理学療法士が対処する主要な障害として関心をもつ。
- 2) 内部障害領域における理学療法士の存在意義と役割を考える。
- 3) 呼吸器系の障害を有する患者の運動耐容能を評価できる。
- 4) 呼吸器系の障害を有する患者に理学療法を行う上でリスク管理ができる。
- 5) 運動時の呼吸器系の適応について説明できる。
- 6) 呼吸器系の障害が運動を制限するメカニズムを説明できる。
- 7) 呼吸器系の障害を有する患者の急性期・回復期・生活期理学療法について説明できる。

■ 授 業 計 画

第1回 「運動と呼吸」

内部障害の範囲と特徴を理解する。呼吸器系の役割と運動時の適応、呼吸器系の障害が運動を制限するメカニズムを学習する。

第2回 「酸素化能、換気能力」

酸素化能障害、換気能力障害の基本的概念をふまえ理解する。酸素化能、換気能力の基本的な評価法について学習する。

第3回 「呼吸理学療法における評価1」

基本となる胸部の観察、呼吸困難の評価方法、打診、聴診の実際を学習する。

第4回 「呼吸理学療法における評価2」

呼吸機能、運動耐容能の評価方法について、その実際を学習する。

第5回 「慢性閉塞性肺疾患（COPD）の理学療法」

COPDにおける障害、呼吸器疾患患者のADLおよびQOL低下の特徴を理解し、特有の評価方法について学習する。他部門からの情報、理学療法評価結果に基づいた理学療法を学習する。

第6回 「拘束性肺疾患、外科手術後、その他呼吸器疾患の理学療法」

疾患、病態の特徴を理解し、特有の評価方法、理学療法について学習する。外科手術が生体に与える影響を理解し、術前後および急性増悪例への理学療法を学習する。

第7回 「排痰法」

呼吸リハビリテーションにおける排痰法の目的とその適応、徒手のおよび体位肺痰法の実践を学習する。

第8回 「理学療法士による吸引行為」

吸引プロトコル第2版（日本理学療法士協会）に沿って吸引のための基礎知識、実際の概要を学習する。

■ 評価方法

期末評価：70%

国家試験出題形式に準じた筆記試験（マークシート）

平常評価：30%

肺解剖 T シャツの作成（胸部の触診技術の向上） 3%

肺呼吸モデルの作成（肺呼吸の仕組みの理解向上） 3%

国家試験ドリル 1・2・3・4 各 3%（計12%）

運動負荷試験（フィールドテスト）体験レポート 6%

仮想症例を用いた臨床推論レポート 6%

減点評価：1 コマの欠席につきマイナス 5 点。授業中の私語、携帯電話の使用、居眠りに関して 1 回の注意につきマイナス 3 点

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

以下のキーワードを参考に、事前・事後の学習に取り組むこと。指定教科書にそった内容で、また、参考図書の内容を取り込んだ授業資料を毎回準備する。とくに復習が重要であり、授業1コマに対して同じ1コマ分の復習を必ず行うこと。国家試験の過去問題を調べることも有用である。

学習キーワード：呼吸運動の調節中枢、肺・気道の解剖学、酸素化能、閉塞性換気障害を呈す疾患、拘束性換気障害を呈す疾患、呼吸機能検査（スパイロメトリー）、肺気量分画、フローボリューム曲線、健常人の呼吸量、健常人の呼吸パターンと呼吸数、肺気腫患者の呼吸機能、肺気腫患者の臨床症状、動脈血液ガス、胸部 X 線像の特徴、PaO₂ と SPO₂ の関連、換気能力の評価、肺・胸郭コンプライアンス、肺呼吸モデル（ペットボトルと風船を使用して作成し実習した内容）、酸素搬送系とその障害、呼吸器疾患患者の運動障害の要因、呼吸器疾患患者の運動耐容能、呼吸器疾患患者の栄養障害、標準体重、% 標準体重、低体重・低栄養の判定、理学療法の専門的内容、呼吸理学療法における他部門からの情報収集、F-H-J 分類、MRC 息切れスケール、カルボーネン式、Borg scale、修正 Borg scale、フィールドテスト、6 分間歩行テスト（実施手順を含む）、シャトルウォーキングテスト、運動負荷試験、運動負荷試験の絶対的禁忌、中止基準、評価指標、体位排痰法の排痰姿勢と痰貯留部位、体位排痰法の禁忌、COPD の呼吸機能検査の特徴、呼吸器疾患患者の ADL の特徴、呼吸器疾患患者への理学療法（運動療法）、生活指導、開胸腹前後の呼吸理学療法、人工呼吸器からの離脱（ウィーニング）、人工呼吸器の換気モード、人工呼吸器装着患者の理学療法、標準予防策（standard precaution）、吸引

■ 教科書

書 名：内部障害理学療法学テキスト 改訂第 3 版

著者名：細田多穂 監、山崎裕司・川俣幹雄・丸岡 弘 編集

出版社：南江堂

書 名：動画でわかる呼吸リハビリテーション 第 4 版

著者名：高橋仁美・塩谷隆信・宮川哲夫

出版社：中山書店

■ 参考図書

書 名：ビジュアルレクチャー 内部障害理学療法学 第 2 版

著者名：高橋哲也 編集

出版社：医歯薬出版

書 名：ゴールド・マスター・テキスト 内部障害系理学療法学

著者名：柳澤 健 編集

出版社：メジカルビュー社

書 名：ここで差がつく 背景疾患別 理学療法 Q&A

著者名：高橋哲也 編集

出版社：医学書院

書 名：呼吸・心臓リハビリテーション ビジュアル実践リハ

著者名：高橋哲也・間瀬教史

出版社：羊土社

書 名：理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸

著者名：石川朗・玉木 彰

出版社：中山書店

書 名：DVD で学ぶ呼吸理学療法テクニック 呼吸と手技のタイミングがわかる動画91

著者名：玉木 彰

出版社：南江堂

書 名：呼吸リハビリテーションの理論と技術 改訂第2版

著者名：本間生夫 監修、田中一正、柿崎藤泰 編集

出版社：メディカルビュー社

書 名：心肺運動負荷テストと運動療法

著者名：谷口興一、伊東春樹 編集

出版社：南江堂

書 名：内部障害リハのための胸部・腹部画像 読影のすすめ

著者名：美津島 隆、山内克哉 編集

出版社：医歯薬出版

書 名：身につける理学療法 内部障害の症例検討

著者名：玉木 彰 編集

出版社：羊土社

書 名：標準理学療法学 専門分野 理学療法 臨床実習とケーススタディ 第2版

著者名：奈良 勲 シリーズ監修、鶴見隆正・辻下守弘 編集

出版社：医学書院

書 名：呼吸リハビリテーションマニュアル 運動療法 第2版

著者名：日本呼吸管理学会、日本呼吸器学会、日本理学療法士協会 編

出版社：日本呼吸管理学会、日本呼吸器学会、日本理学療法士協会

書 名：呼吸機能検査ガイドライン、呼吸機能検査ガイドラインⅡ

著者名：日本呼吸器学会

出版社：メディカルレビュー社

書 名：酸素療法ガイドライン

著者名：日本呼吸器学会、日本呼吸管理学会 編

出版社：メディカルレビュー社

■ 留意事項

授業では、個人情報に関わる資料を提示する場合がある。取り扱いには十分に留意しなければならないことを認識して望むこと。授業には出席することが必須の前提であり、無断欠席、遅刻には十分に注意し、実習にも積極的に参加すること。実習を行う際には大学指定のジャージや白衣（KC）など実技を行いやすい衣服を着用し、爪は短く切っておくこと。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①②③④⑤

DP：CP との関連はポリシ - 参照

授業科目	代謝障害理学療法治療学				
担当者	野村 卓生	国家出題基準	専門分野 II-3-B, II-7-G, III-3-B, III-6-G		
学科名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

「代謝と運動」に関する生理学・生化学的な基本知識を整理し、代表的な代謝障害である糖尿病の病態およびその基本治療を学ぶ。長期にわたる糖代謝障害によって発症する糖尿病特有の合併症や足病変への理学療法、理学療法士の関わりについて講義し、実技実習を行う。

■ 到達目標

- 1) 運動器障害や神経障害と同様に理学療法士が対処する主要な障害として関心をもつ。
- 2) 内部障害領域（ここでは「がん」を含める）における理学療法士の存在意義と役割を考える。
- 3) 代謝疾患（とくに糖尿病）の運動耐容能を評価できる。
- 4) 代謝疾患（とくに糖尿病）に理学療法を行う上でリスク管理ができる。
- 5) 運動時の代謝系の適応について説明できる。
- 6) 代謝疾患（とくに糖尿病）の運動を制限するメカニズムを説明できる。
- 7) 代謝疾患（とくに糖尿病）の急性期・回復期・生活期理学療法について説明できる。

■ 授業計画

第1回 「代謝と運動」「科目オリエンテーション」

代謝障害に対する理学療法において何を学ばなければならないかを示したうえで、運動時における代謝系の適応、代謝系の障害が運動を制限するメカニズムを学習する。

第2回 「代謝疾患総論」

糖尿病、肥満症、メタボリックシンドローム、脂質異常症等について、日本における患者数、疾患の概要と診断基準等の概略について学習する。

第3回 「糖尿病合併症」

低血糖に代表される急性合併症、糖尿病特有の慢性合併症（網膜症・腎症・神経障害）について学習する。

第4回 「糖尿病管理」

糖尿病の基本的治療法、とくに運動療法についてその概要を学習する。また、自己管理を支援するための患者教育の重要性を理解する。

第5回 「糖尿病理学療法1（導入編）」

一般的な糖尿病患者、および糖尿病合併症を有する患者への理学療法、理学療法士の関わりについて、その具体を演習形式で学習する。

第6回 「糖尿病理学療法2（実践編）」

実際に自己血糖測定を行い、理学療法を効果的かつ安全に進める上で必要な血液生化学的データの理解を深める。

第7回 「糖尿病理学療法3（応用編）」

振動覚検査、アキレス腱反射など糖尿病神経障害の簡易診断基準の一つともなる身体評価について演習形式で学習する。また、その結果を如何に患者教育に活用するかについて学習する。

第8回 「糖尿病理学療法4（総合演習）」

仮想症例を提示し、問題点の抽出、プログラムの作成から効果判定をどのように行うかまでの一連の理学療法介入の思考プロセスを経験する。

■ 評価方法

期末評価：70%

国家試験出題形式に準じた筆記試験（マークシート）

平常評価：30%

自己血糖測定等の実施（効果判定・リスク管理能力の向上） 6%

国家試験ドリル1・2・3・4 各3%（計12%）

血糖値自己測定体験レポート 6%

仮想症例を用いた臨床推論レポート 6%

減点評価：1コマの欠席につきマイナス5点。授業中の私語、携帯電話の使用、居眠りに関して1回の注意につきマイナス3点

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

以下のキーワードを参考に、事前・事後の学習に取り組むこと。指定教科書にそった内容で、また、参考図書の内容を取り込んだ授業資料を毎回準備する。とくに復習が重要であり、授業1コマに対して同じ1コマ分の復習を必ず行うこと。国家試験の過去問題を調べることも有用である。

学習キーワード：生活習慣病の定義、脂質異常症診断基準、メタボリックシンドローム診断基準、BMI(Body Mass Index)判定基準（日本肥満学会）、肥満症診断基準、肥満症の概要、糖尿病診断基準とコントロール指標 * HbA1c のJDS 値および NGSP 値に注意、糖尿病の概要 * 全ての糖尿病患者が持つ糖尿、病連携手帳に記載されている内容は必須、糖尿病の急性合併症、糖尿病の慢性合併症、低血糖の症状（交感神経症状、中枢神経症状）、糖尿病神経障害の分類、糖尿病自律神経障害の症状、糖尿病多発神経障害の簡易診断基準 * 臨床上も重要なのでしっかりと覚えておくこと、糖尿病足病変の定義、糖尿病足病変の予防と管理方法の概要、糖尿病網膜症の概要と管理、糖尿病腎症の概要と概要、糖尿病合併症（動脈硬化性疾患）、糖尿病合併症（手の病変・歯周病）、ヒトの代謝（運動時を含む）の概要、筋繊維別での代謝特性、脂肪と消費カロリー、糖尿病の運動療法、運動の種類と METs、エクササイズガイド2006、アクティブガイド、Non-exercise activity thermogenesis (NEAT)

その他（日本理学療法士協会 コアカリキュラム関連）

学習キーワード：がん、がんのリハビリテーション

■ 教科書

書 名：糖尿病治療における理学療法 戦略と実践

著者名：野村卓生

出版社：文光堂

書 名：身体機能・歩行動作からみたフットケア

著者名：野村卓生、河辺信秀 編集

出版社：文光堂

■ 参考図書

書 名：糖尿病の理学療法

著者名：清野 裕・門脇 孝・南條輝志男 監修、大平雅美・石黒元康・野村卓生 編集

出版社：メジカルビュー社

書 名：よくわかる内部障害の運動療法

著者名：上月正博 編著

出版社：医歯薬出版

書 名：考える理学療法 内部障害編 評価から治療手技の選択

著者名：丸山仁司・竹井 仁・黒澤和生 常任編集、石黒友康・高橋哲也 ゲスト編集

出版社：文光堂

書 名：標準理学療法学 専門分野 内部障害理学療法学

著者名：奈良 勲 シリーズ監修、吉尾雅春・高橋哲也 編集

出版社：医学書院

書 名：標準理学療法学 専門分野 病態運動学

著者名：奈良勲 シリーズ監修、星文彦・新小田幸一・臼田滋 編集

出版社：医学書院

書 名：運動療法学 第2版

著者名：市橋則明 編集

出版社：文光堂

書 名：歩行を診る 観察から始める理学療法実践

著者名：奈良 勲 監修、松尾善美 編集

出版社：文光堂

書 名：糖尿病療養指導ガイドブック2017

著者名：日本糖尿病療養指導士認定機構 編集

出版社：メディカルレビュー社

書 名：糖尿病療養指導の手引き 改訂第4版

著者名：日本糖尿病学会 編集

出版社：メディカルレビュー社

書 名：糖尿病治療ガイド2016-2017

著者名：日本糖尿病学会 編集

出版社：文光堂

書 名：糖尿病診療ガイドライン2016

著者名：日本糖尿病学会 編集

出版社：南江堂

書 名：エビデンスに基づく CKD 診療ガイドライン2013

著者名：日本腎臓学会 編集

出版社：東京医学社

書 名：腎臓リハビリテーション

著者名：上月正博 編集

出版社：医歯薬出版

書 名：がんのリハビリテーションガイドライン

著者名：日本リハビリテーション医学会 / がんのリハビリテーションガイドライン策定委員会 編集

出版社：金原出版

書 名：がんのリハビリテーションベストプラクティス

著者名：日本がんリハビリテーション研究会 編集

出版社：金原出版

■ 留意事項

授業では、個人情報に関わる資料を提示する場合があります。取り扱いには十分に留意しなければならないことを認識して望むこと。授業には出席することが必須の前提であり、無断欠席、遅刻には十分に注意し、実習にも積極的に参加すること。実習を行う際には大学指定のジャージや白衣（KC）など実技を行いやすい衣服を着用し、爪は短く切っておくこと。血糖測定の実習では、穿刺器具を使用するため取扱いに留意し、感染に関しては特に注意すること。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①②③④⑤

DP：CP との関連はポリシ - 参照

授業科目	循環器障害理学療法治療学				
担 当 者	田坂 厚志	国家出題基準	専門基礎分野 II -11-A ～ E 専門分野 II -7-F, III -6-F		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

代表的な循環器疾患の病態、症状、運動機能評価、理学療法プログラムについて学習します。不整脈の種類や心電図を用いた不整脈の判読手順を解説し、リスク管理について学習します。また、理学療法をすすめる際に必要となる心臓リハビリテーションについて解説します。

■ 到達目標

1. 循環器疾患の病態について説明できる。
2. 循環器疾患患者に対する評価や不整脈、リスク管理について説明できる。
3. 心臓リハビリテーション（特に運動療法）について説明できる。

■ 授 業 計 画

- 第1回 心臓リハビリテーションの概念
- 第2回 心臓の解剖・生理
- 第3回 運動と循環応答
- 第4回 心電図の診かた
- 第5回 運動負荷試験による運動処方
- 第6回 循環器疾患の病態・検査と治療
- 第7回 循環器疾患に対する理学療法評価
- 第8回 循環器疾患に対する理学療法

■ 評価方法

筆記試験80%、提出物もしくは小テスト20%

学生の心得に記載の無い欠席（4点）、遅刻（-2点）は減点対象とする。事前連絡及び大学への出席後速やかに届けを提出すれば減点を緩和する

不真面目な受講態度についても減点対象とする

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

適宜提示する課題を確実に学習して下さい。

提出を求められた場合は確実に提出して下さい。

■ 教 科 書

書 名：理学療法学テキスト 内部障害理学療法学 循環・代謝 第2版

著者名：石川 朗 総編集，木村雅彦 責任編集

出版社：中山書店

書 名：病気がみえる vol.2 循環器 第4版

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：③④⑥

DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

授業科目	神経障害理学療法治療学Ⅰ				
担当者	岩田 篤	国家出題基準	専門分野Ⅱ -7-B/K, Ⅲ -6-B/K		
学科名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

脳血管障害の理学療法における神経科学の重要性を説き、根拠ある理学療法を展開するための基礎知識の習得とその方法論を学習する。

■ 到達目標

- 1) 神経機能解剖学および神経生理学等の基本的内容が理解できる。
- 2) 各種神経疾患に対する理学療法の方向性を理解すべく、脳損傷の病態および症状が理解できる。

■ 授業計画

- 第1回 神経障害理学療法を科学的に行うために～目標設定の重要性～
- 第2回 神経系の基礎知識①
- 第3回 神経系の基礎知識②
- 第4回 神経系の基礎知識③
- 第5回 神経系の基礎知識④（国家試験対策含む）
- 第6回 神経系の基礎知識⑤（国家試験対策含む）
- 第7回 脳損傷の病態と症状
- 第8回 脳損傷の病態と症状（国家試験対策含む）
- 第9回 脳血管障害後の機能回復
- 第10回 脳血管障害後の機能回復（国家試験対策含む）
- 第11回 片麻痺患者の運動障害
- 第12回 片麻痺患者の運動障害（国家試験対策含む）
- 第13回 片麻痺患者の評価
- 第14回 片麻痺患者の評価（国家試験対策含む）
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

筆記試験：80%、小テスト：20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義は、基本的には教科書の章立てに合わせた形で行います。理解度を促進するために、次の講義で小テストを行いますので、翌週までに該当する箇所を教科書および配布資料をもとに必ず復習しておいてください。

■ 教 科 書

書 名：15レクチャーシリーズ 神経障害理学療法学Ⅰ
 著者名：石川 朗（総編集）
 出版社：中山書店

書 名：15レクチャーシリーズ 神経障害理学療法学Ⅱ
 著者名：石川 朗（総編集）
 出版社：中山書店

■ 参考図書

書 名：標準理学療法学 神經理学療法学

著者名：吉尾雅春・他（編集）

出版社：医学書院

書 名：病気がみえる vol.7 脳・神経

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

書 名：脳卒中ビジュアルテキスト 第2版

著者名：高木康行

出版社：医学書院

書 名：脳の機能解剖と画像診断

著者名：真柳佳昭

出版社：医学書院

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：④⑥⑦⑧

DP：DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

この科目を理解するためには、「神経系の解剖学」「生理学Ⅰ～Ⅳ」「臨床神経学Ⅰ・Ⅱ」の科目の理解が重要である。

また、「神経障害理学療法治療学Ⅱ」へとつながる内容である。

授業科目	神経障害理学療法治療学Ⅱ				
担当者	岩田 篤	国家出題基準	専門分野Ⅱ -7-B/C/K, Ⅲ -6-B/C/K		
学科名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

各種神経疾患の理学療法における神経科学の重要性を説き、根拠ある理学療法を展開するための基礎知識の習得とその方法論を学習する。

■ 到達目標

- 1) 神経機能解剖学および神経生理学等の基本的内容が理解できる。
- 2) 各種神経疾患の病態および症状が理解できる。
- 3) 各種神経疾患およびその病期ごとに注意すべきリスクを想起できる。
- 4) 各種神経疾患およびその病期ごとに実施すべき理学療法について、科学的根拠に基づいた臨床推論が行える。

■ 授 業 計 画

- 第1回 脳血管障害後 急性期の病態と理学療法
- 第2回 脳血管障害後 急性期の病態と理学療法（国家試験対策含む）
- 第3回 脳血管障害後 回復期／維持期の病態と理学療法
- 第4回 脳血管障害後 回復期／維持期の病態と理学療法（国家試験対策含む）
- 第5回 片麻痺患者の歩行障害と理学療法
- 第6回 片麻痺患者の歩行障害と理学療法（国家試験対策含む）
- 第7回 姿勢定位障害（Pusher 現象）と半側空間無視の病態と理学療法
- 第8回 姿勢定位障害（Pusher 現象）と半側空間無視の病態と理学療法（国家試験対策含む）
- 第9回 パーキンソン病の病態と理学療法
- 第10回 パーキンソン病の病態と理学療法（国家試験対策含む）
- 第11回 脊髄小脳変性症の病態と理学療法
- 第12回 脊髄小脳変性症の病態と理学療法（国家試験対策含む）
- 第13回 多発性硬化症／筋萎縮性側索硬化症／その他神経疾患の病態と理学療法
- 第14回 多発性硬化症／筋萎縮性側索硬化症／その他神経疾患の病態と理学療法（国家試験対策含む）
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

筆記試験：80%、小テスト：20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義は、基本的には教科書の章立てに合わせた形で行います。理解度を促進するために、次の講義で小テストを行いますので、翌週までに該当する箇所を教科書および配布資料をもとに必ず復習しておいてください。

■ 教 科 書

書 名：15レクチャーシリーズ 神経障害理学療法学Ⅰ

著者名：石川 朗（総編集）

出版社：中山書店

書 名：15レクチャーシリーズ 神経障害理学療法学Ⅱ

著者名：石川 朗（総編集）

出版社：中山書店

■ 参考図書

書 名：標準理学療法学 神経理学療法学

著者名：吉尾雅春・他（編集）

出版社：医学書院

書 名：病気がみえる vol.7 脳・神経

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

書 名：脳卒中理学療法の理論と技術

著者名：原寛美・吉尾雅春

出版社：メジカルビュー社

書 名：脳卒中片麻痺者に対する歩行リハビリテーション

著者名：阿部浩明・大畑光司

出版社：メジカルビュー社

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：④⑥⑦⑧

DP：DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

この科目を理解するためには、「神経系の解剖学」「生理学Ⅰ～Ⅳ」「臨床神経学Ⅰ・Ⅱ」「神経障害理学療法治療学Ⅰ」の科目の理解が重要である。

また、「総合臨床実習Ⅰ～Ⅲ」へとつながる内容である。

授業科目	運動器障害理学療法治療学Ⅰ				
担当者	佐藤 睦美・高木 啓至（オムニバス）	国家出題基準	専門分野 II-7-A, J, M III-6-A, J, M		
学科名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

運動器障害の疾患の概念および理学療法評価・治療について学ぶ

■ 到達目標

運動器障害に対する理学療法評価計画，治療プログラムが立案できる

■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス，肩関節障害の理学療法①
- 第2回 肩関節障害の理学療法②
- 第3回 肘関節障害の理学療法①
- 第4回 肘関節障害の理学療法②
- 第5回 手関節障害の理学療法①
- 第6回 手関節障害の理学療法②
- 第7回 股関節障害の理学療法①
- 第8回 股関節障害の理学療法②
- 第9回 膝関節障害の理学療法①
- 第10回 膝関節障害の理学療法②
- 第11回 足関節障害の理学療法①
- 第12回 足関節障害の理学療法②
- 第13回 脊椎障害の理学療法①
- 第14回 脊椎障害の理学療法②
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

筆記試験 80%， 小テスト・講義内課題 20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各講義で扱う疾患について、整形外科学Ⅱで学んだ内容を復習しておくこと。

■ 教科書

書 名：15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学Ⅰ

著者名：河村廣幸（責任編集）

出版社：中山書店

書 名：15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学Ⅱ

著者名：河村廣幸（責任編集）

出版社：中山書店

書 名：実践 PT ノート 第2版

著者名：小柳磨穀（編）

出版社：三輪書店

書 名：PT・OTのための画像診断マニュアル（2年時購入済み）

著者名：百島祐貴（著）

出版社：医学教育出版社

■ 参考図書

書 名：標準整形外科学 第13版

著者名：中村利孝・松野丈夫 (監修)

出版社：医学書院

書 名：Visual NAVI 整形外科学

著者名：岡田恭司 (著)

出版社：メジカルビュー社

書 名：運動器疾患の治療後リハビリテーション 手術・保存療法とリハプログラム

著者名：島田洋一・高橋仁美 (編)

出版社：メジカルビュー社

書 名：筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版

著者名：Donald A Newmann(著), 嶋田智明・有馬慶美 (監訳)

出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

②の時間は実技を実施するので、動きやすい服装で出席すること。

連絡事項は Moodle の科目ページを通じて行うので、適宜確認をすること (自己責任です)。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①②③④⑤

DP：CP との関連はポリシー - 参照

授業科目	運動器障害理学療法治療学Ⅱ				
担当者	佐藤 睦美・境 隆弘（オムニバス）	国家出題基準	専門分野 II-7-A III-6-A		
学科名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

スポーツ傷害の疾患の概念および理学療法評価・治療について学ぶ

■ 到達目標

スポーツ傷害に対する理学療法評価計画，治療プログラムが立案できる

■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス，アスレチックリハビリテーション総論①
- 第2回 アスレチックリハビリテーション総論②
- 第3回 下肢のスポーツ外傷に対する理学療法①
- 第4回 下肢のスポーツ外傷に対する理学療法②
- 第5回 下肢のスポーツ外傷に対する理学療法③
- 第6回 下肢のスポーツ外傷に対する理学療法④
- 第7回 下肢のスポーツ障害に対する理学療法①
- 第8回 下肢のスポーツ障害に対する理学療法②
- 第9回 上肢のスポーツ外傷に対する理学療法①
- 第10回 上肢のスポーツ外傷に対する理学療法②
- 第11回 上肢のスポーツ外傷に対する理学療法③
- 第12回 上肢のスポーツ外傷に対する理学療法④
- 第13回 上肢のスポーツ障害に対する理学療法①
- 第14回 上肢のスポーツ障害に対する理学療法②
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

筆記試験 80%， 小テスト・講義内課題 20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各講義で扱う疾患について、整形外科学Ⅱで学んだ内容を復習しておくこと。

■ 教科書

書 名：15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学Ⅱ

著者名：河村廣幸（責任編集）

出版社：中山書店

書 名：実践 PT ノート 第2版

著者名：小柳磨毅（編）

出版社：三輪書店

書 名：PT・OTのための画像診断マニュアル（2年時入済み）

著者名：百島祐貴（著）

出版社：医学教育出版社

■ 参考図書

書 名：標準整形外科学 第13版

著者名：中村利孝・松野丈夫 (監修)

出版社：医学書院

書 名：スポーツ膝の臨床 (第 2 版)

著者名：史野根生

出版社：金原出版

書 名：理学療法 MOOK 9 スポーツ傷害の理学療法 第 2 版

著者名：福井勉・小柳磨毅 (編)

出版社：三輪書店

書 名：復帰を目指す スポーツ整形外科

著者名：宗田大 (編)

出版社：メジカルビュー社

■ 留意事項

連絡事項は Moodle の科目ページを通じて行うので、適宜確認をすること (自己責任です)。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①②③④⑤

DP：CP との関連はポリシー参照

授業科目	運動器障害理学療法治療学Ⅲ				
担 当 者	井上 悟・加藤 直樹（オムニバス）	国家出題基準	Ⅲ -3-F, Ⅲ -6-A		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

有痛性障害・関節リウマチの PT 治療の現在の臨床について解説する。

■ 到達目標

有痛性障害・関節リウマチの PT 治療の実際を知る。

■ 授業計画

- 第1回 疼痛性疾患1（阪大：加藤）
- 第2回 疼痛性疾患2（阪大：加藤）
- 第3回 疼痛性疾患3：腰痛
- 第4回 疼痛性疾患4：肩痛
- 第5回 関節リウマチ1
- 第6回 関節リウマチ2
- 第7回 関節リウマチ3
- 第8回 関節リウマチ4

■ 評価方法

筆記試験またはレポート 70%、授業態度 30%で総合評価します。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと

■ 教 科 書

書 名：骨関節理学療法学
 著者名：吉尾雅春・小柳磨毅
 出版社：医学書院，2013年，4800円

■ 参考図書

書 名：運動器疾患の理学療法テクニック
 著者名：林 義孝
 出版社：南江堂

■ 留意事項

各回の講義テーマ、内容については関連する講義の進捗状況により変更することがあります。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①②③④⑤ DP：①②

授業科目	物理療法学				
担 当 者	柳 千磨	国家出題基準	専門分野 III-2-B		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

まずは、物理療法機器によってもたらされる身体への生理学的作用を理解してもらいます。その上で、それに伴うリスク・適応・禁忌などを考えてもらいます。実際の機器の操作は、物理療法学実習で行います。

■ 到達目標

1. 理学療法における物理療法の位置づけと意義を理解する。
2. 各物理療法の生理学的作用を理解する。
3. 各物理療法のリスクを想起できるようになる。
4. 生理学的作用、リスクを勘案して、適切な物理療法機器の選択ができるようになる。
5. 各物理療法機器の設定値の意味を理解する。

■ 授 業 計 画

- 第1回 物理療法の意義・位置づけ
- 第2回 生理学的作用
- 第3回 炎症・痛みに対する理学療法
- 第4回 温熱療法
- 第5回 寒冷療法
- 第6回 光線療法
- 第7回 光線療法・電磁波療法
- 第8回 超音波療法
- 第9回 電気刺激療法①
- 第10回 電気刺激療法②
- 第11回 その他の電気療法
- 第12回 牽引療法
- 第13回 マッサージ
- 第14回 水治療法
- 第15回 リスク管理その他

■ 評価方法

小テスト：50% 筆記試験：50% ※遅刻欠席、受講態度により減点あり。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各学生は授業後十分に復習を行い、2回目授業以降、小テストで理解度の確認を行ってもらいます。

■ 教 科 書

■ 参考図書

書 名：物理療法学 第4版（標準理学療法学 専門分野）
 著者名：奈良 勲
 出版社：医学書院

■ 留意事項

受動的に暗記するのではなく、自ら能動的に考える姿勢で臨んでください。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：②⑥⑧

DP：CP との関連はポリシ - 参照

授業科目	物理療法学実習				
担 当 者	棚 千磨	国家出題基準	専門分野 III-2-B		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

物理療法学実習では、実際に物理療法機器を操作し、生体の反応を体感してもらいます。それに際しては、出力や温度などの物理療法機器の設定、適応・禁忌などのリスク管理などを重点的に学習してもらいます。また、機器を操作するにあたっては、それを扱うに足る知識があることを確認してから、機器操作の許可を出します。

グループに分かれ、各物理療法機器をローテーションで実習してもらいます。

■ 到達目標

1. 物理療法機器操作に際し、リスク管理を行えるようになる。
2. 適切に物理療法機器を選択できるようになる。
3. 適切に物理療法機器を操作できるようになる。
4. 物理療法施行後の生体反応を見極めることができるようになる。
5. 物理療法と生体反応の関係性に考察が及ぶようになる。

■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション (①ホットパック、②パラフィン、③寒冷療法、④極超短波)
- 第2回 オリエンテーション (⑤超音波、⑥低周波、⑦干渉波、⑧ S-D 曲線、⑨間欠的空気圧迫療法)
- 第3回 オリエンテーション (⑩牽引 [頸椎・腰椎]、⑪水治療法 [渦流浴]、⑫マッサージ)
- 第4回 実習 第1回目 指定された各班が、ローテーションで物理療法治療介入の実習を行う。その結果・考察などをレポートにまとめ翌週の授業開始時に提出する。2回目以後も同様とする。
- 第5回 実習 第2回目
- 第6回 実習 第3回目
- 第7回 実習 第4回目
- 第8回 実習 第5回目
- 第9回 実習 第6回目
- 第10回 実習 第7回目
- 第11回 実習 第8回目
- 第12回 実習 第9回目
- 第13回 実習 第10回目
- 第14回 実技テスト
- 第15回 症例提示

■ 評 価 方 法

筆記試験30% 実技テスト10% レポート60% ※遅刻欠席、受講態度により減点あり。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

1. 「実習の手引き」をあらかじめ十分に熟読・予習し、実習開始後速やかに行動ができるようにする。
2. 実習第1回目から第10回目までのグループ実習では、10回の実習項目について全員がレポートを提出する。

■ 教 科 書

■ 参考図書

書 名：物理療法学 第4版 (標準理学療法学 専門分野)

著者名：奈良 勲

出版社：医学書院

■ 留意事項

1. 必ず、学生全員が験者・被験者を体験すること。

2. リスク管理事項を絶対に遵守すること。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：②⑥⑧

DP：CP との関連はポリシ - 参照

授業科目	義肢装具学				
担当者	井上 悟	国家出題基準	PT 評価学Ⅱ -6,PT 治療学Ⅲ -2-C		
学科名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

義肢装具に関する基本的事項を学習し、各種義肢装具の特性と構造を紹介する。

■ 到達目標

臨床で用いる義肢装具の基本的知識を増やす。

臨床で使用される義肢装具の種類、特徴、機能が説明できる。

■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション（授業計画の概要と成績判定方法の説明）
義肢学1 切断総論1
第2回 義肢学2 切断総論2
第3回 義肢学3 義足総論1
第4回 義肢学4 義足総論2
第5回 義肢学5 下腿切断と下腿義足1（ソケット）
第6回 義肢学6 下腿義足2（足部、足継手）
第7回 義肢学7 下腿義足3（適合とアライメント）
第8回 義肢学8 大腿切断と大腿義足1（ソケット）
第9回 義肢学9 大腿義足2（ソケットと懸垂）
第10回 義肢学10 大腿義足3（膝継手）
第11回 義肢学11 大腿義足4（適合とアライメント）
第12回 装具学1 装具総論（下肢装具を中心に）
第13回 装具学2 下肢装具の基本構造
第14回 装具学3 下肢装具のアライメント
第15回 装具学4 靴と靴型装具（FO）

■ 評価方法

筆記試験またはレポート 70%、授業態度 30%で総合評価します。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと

■ 教 科 書

書 名：義肢装具学（第4版）

著者名：川村次郎・他編

出版社：医学書院、定価：7350円、2009年（注：最新版で）

■ 参考図書

書 名：切断と義肢

著者名：澤村

出版社：（最新版で）

■ 留意事項

義肢学と装具学の配分は変更することがあります。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP : ② DP : ①②

授業科目	義肢装具学実習				
担 当 者	井上悟・高木 啓至・西野誠一 (オムニバス)	国家出題基準	PT 評価学Ⅱ -6,PT 治療学Ⅲ -2-C		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

義肢装具に関する基本的事項を学習し、各種義肢装具の特性と構造を紹介する。臨床で用いる義肢装具の基本的知識を増やす。

■ 到達目標

対象者の障害レベルに応じた義肢装具の類別ができる。
各種障害に対する義肢装具の選択と適合判定ができる。

■ 授 業 計 画

- | | | |
|------|--------|----------------------------------|
| 第1回 | 義肢学実習1 | 股関節離断と股義足 |
| 第2回 | 義肢学実習2 | 膝離断と膝義足 |
| 第3回 | 義肢学実習3 | サイム切断とサイム義足 |
| 第4回 | 義肢学実習4 | 足部切断と足部義足 |
| 第5回 | 義肢学実習5 | 切断者の理学療法1 |
| 第6回 | 義肢学実習6 | 切断者の理学療法2 |
| 第7回 | 義肢学実習7 | 切断者の理学療法3 |
| 第8回 | 義肢学実習8 | 切断者の理学療法4 (高木 PT)：実技指導含 |
| 第9回 | 義肢学実習9 | 切断者の理学療法5 (異常歩行とその対策) |
| 第10回 | 装具学実習1 | 疾患・障害別装具1 CVA 片麻痺、頸随損傷の装具 |
| 第11回 | 装具学実習2 | 疾患・障害別装具2 対麻痺、二分脊椎の装具 (足装具含) |
| 第12回 | 装具学実習3 | 疾患・障害別装具3 体幹・頸椎装具、側弯症装具 |
| 第13回 | 装具学実習4 | 疾患・障害別装具4 小児疾患用装具、整形外科的治療用装具、その他 |
| 第14回 | 装具学実習5 | がんりハビリテーションと義肢装具 (高木 PT) |
| 第15回 | 装具学実習6 | 義肢・装具の最新情報 (最新の支給制度含む) (西野 PO) |

■ 評価方法

筆記試験またはレポート 70%、授業態度 30%で総合評価します。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと

■ 教 科 書

書 名：義肢装具学（第4版）
著者名：川村次郎・他編
出版社：医学書院、定価：7350円、2009年（注：最新版で）

■ 参考図書

書 名：切断と義肢
著者名：澤村
出版社：（最新版で）

■ 留意事項

義肢学と装具学の配分は変更することがあります。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP : ② DP : ①②

授業科目	地域理学療法学				
担当者	岩田 篤			国家出題基準	専門分野Ⅳ
学科名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

地域医療の成り立ち（歴史）を概観しつつ、そこでの理学療法士の役割や種々（職種間，施設間）の連携の重要性を整理し、地域での暮らしを支えるに必要な基礎知識について学修する。

■ 到達目標

地域医療を支えるシステム（制度と社会資源）と、そこで活躍する理学療法士の役割を理解することができる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 地域リハビリテーションとノーマライゼーション
- 第3回 日本の社会保障制度
- 第4回 地域理学療法の誕生とその後の広がり
- 第5回 訪問リハビリテーションと通所リハビリテーションにおける理学療法士の役割
- 第6回 国際生活機能分類（ICF）
- 第7回 介護予防と理学療法
- 第8回 地域包括ケアシステムと様々な社会資源

■ 評価方法

筆記試験：80%、小テスト：20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

理解度を促進するために小テストを行います。
配布資料をもとに必ず復習しておいてください。

■ 教 科 書

書 名：標準理学療法学 地域理学療法学 第3版
著者名：牧田光代、金谷さとみ（編集）
出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

制度は時代の変遷とともに見直され常に変化するものである。特に社会保障関連はここ数年来のトピックスであり、ニュースで取り上げられることも少なくない。今後直面する現実問題として強く関心を持つとともに、積極的な情報へのアクセスを行い、地域を考える一助としていただきたい。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：④⑥⑦⑧
DP：DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

授業科目	生活環境論				
担 当 者	田中 仁	国家出題基準	専門分野 IV-1-G/H		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

リハビリテーションに関わる生活環境を、患者(利用者)を取り巻く生活地域に視点をおいて考える。

■ 到達目標

現在日本における患者(利用者)の在宅環境(家屋、福祉用具等)を、医療保険、介護保険の現行制度を通して、リハビリテーションの視点で理解する。

■ 授 業 計 画

- 第1回 生活環境論について、日本の社会保障について
- 第2回 医療保険制度と介護保険制度について
- 第3回 日本のリハビリテーションと地域包括ケアシステム
- 第4回 居住環境(福祉・リハビリテーション関連機器・一般知識、移乗移動関係)
- 第5回 居住環境(福祉・リハビリテーション関連機器・ベッド関係、褥瘡関係)
- 第6回 居住環境(福祉・リハビリテーション関連機器・排泄、入浴関係)
- 第7回 居住環境(住宅改修)
- 第8回 その他、生活環境の視点からのリハビリテーション(認知症予防、身体活動量、栄養改善等)について

■ 評価方法

筆記試験100%

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

前回の資料を必ず見直すこと。
配布資料を忘れないこと。

■ 教 科 書

書 名：福祉用具専門相談員研修用テキスト第8訂(2018発行予定)
著者名：一般社団法人シルバーサービス振興会(編集)
出版社：中央法規

■ 参考図書

書 名：生活環境論 第6版 生活支援の視点と方法
著者名： 木村 哲彦 監修
出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留 意 事 項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①⑥
DP：CP との関連はポリシ - 参照

授業科目	理学療法研究特別演習（卒業研究）				
担 当 者	伊禮 まり子・PT 専任教員 (オムニバス)	国家出題基準	専門基礎Ⅰ -1-D～I, 2-C～I, 3-AB 専門基礎Ⅱ -2-AB, 3-B～H, 8-A～E, 11-A～E		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	3年～4年	総単位数	4単位
		開講時期	通年	選択・必修	選択

■ 内 容

理学療法研究特別演習（卒業研究）／理学療法分野別特別演習は、『基礎教育分野の共通部分』と『各卒業研究・分野別特別演習』から構成されている。

【共通部分】

- ・理学療法教育の中で基礎となり、国家試験においても多く出題されている解剖・生理学及び、これらと関連の深い臨床医学の知識定着を図る。
- ・単純な知識の羅列に終始せず、それぞれの知識の関連性を持たせた学習を意識する。
- ・履修により、卒業研究や分野別特別演習の円滑な理解を促すとともに、国家試験合格に必要な基礎知識を身に付ける。
- ・適宜グループ活動を行い、学習内容、進捗状況、学習成果などの確認や向上に取り組む。

【卒業研究】

- ・理学療法に関する研究を通じて、研究手法や現象に対する考察の手順を学ぶ。

■ 到達目標

【共通部分】

- ・国家試験頻出の解剖・生理学、及び臨床医学領域の問題について、頻出項目を把握できる。
- ・単純に覚えるといった浅い理解でなく、解剖・生理学の知識を用いて臨床医学や理学療法治療学を理解することができる。（深い理解）
- ・頻出の分野における国家試験過去問に関しては、最低でも8割以上の正答率となる。（知識の定着）
- ・結果として、他者へ説明できるレベルでの理解を目標とする。
- ・理学療法士を目指すコミュニティの一員としての責任を果たす。（主体的で協同的な学習）

【卒業研究】

- ・研究手法の基礎を理解し、自ら考察する力を養う。

■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション
国家試験の傾向と学習方法（学習の意図、進め方）
- 第2回 呼吸器領域の解剖・生理学に関する学習1
- 第3回 呼吸器領域の解剖・生理学に関する学習2
- 第4回 呼吸器領域の解剖・生理学に関する学習3
- 第5回 呼吸器領域の解剖・生理学に関する学習4
- 第6回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習1
- 第7回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習2
- 第8回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習3
- 第9回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習4
- 第10回 呼吸器領域に関する復習・まとめ
- 第11回 循環器領域の解剖・生理学に関する学習1
- 第12回 循環器領域の解剖・生理学に関する学習2
- 第13回 循環器領域の解剖・生理学に関する学習3
- 第14回 循環器領域の解剖・生理学に関する学習4
- 第15回 循環器基礎領域に関する復習・まとめ
- 第16回 循環器領域の臨床医学に関する学習1
- 第17回 循環器領域の臨床医学に関する学習2
- 第18回 循環器領域の臨床医学に関する学習3

- 第19回 循環器領域の臨床医学に関する学習 4
- 第20回 循環器領域に関する復習・まとめ
- 第21回 神経系領域の解剖・生理学に関する学習 1
- 第22回 神経系領域の解剖・生理学に関する学習 2
- 第23回 神経系領域の解剖・生理学に関する学習 3
- 第24回 神経系領域の解剖・生理学に関する学習 4
- 第25回 神経系領域の臨床医学に関する学習 1
- 第26回 神経系領域の臨床医学に関する学習 2
- 第27回 神経系領域の臨床医学に関する学習 3
- 第28回 神経系領域の臨床医学に関する学習 4
- 第29回 神経系領域に関する復習・まとめ
- 第30回 呼吸器・循環器・神経系の学習内容の復習・まとめ
- 第31回 卒業研究オリエンテーション
- 第32回 文献検索の方法： インターネットを利用した論文の検索方法について学ぶ
- 第33回 先行研究論文の抄読： 各グループで発表を行い、研究テーマや手法について考える 1
- 第34回 先行研究論文の抄読： 各グループで発表を行い、研究テーマや手法について考える 2
- 第35回 先行研究論文の抄読： 各グループで発表を行い、研究テーマや手法について考える 3
- 第36回 研究計画書の作成： 規定の書式に従い計画書を作成し、担当教員の指導を受ける 1
- 第37回 研究計画書の作成： 規定の書式に従い計画書を作成し、担当教員の指導を受ける 2
- 第38回 研究計画書の作成： 規定の書式に従い計画書を作成し、担当教員の指導を受ける 3
- 第39回 研究データを収集する（文献、資料、実験・測定） 1
- 第40回 研究データを収集する（文献、資料、実験・測定） 2
- 第41回 研究データを収集する（文献、資料、実験・測定） 3
- 第42回 研究データを収集する（文献、資料、実験・測定） 4
- 第43回 研究データを収集する（文献、資料、実験・測定） 5
- 第44回 収集した研究データを整理・解析する： 結果をまとめグループ内で発表する 1
- 第45回 収集した研究データを整理・解析する： 結果をまとめグループ内で発表する 2
- 第46回 収集した研究データを整理・解析する： 結果をまとめグループ内で発表する 3
- 第47回 収集した研究データを整理・解析する： 結果をまとめグループ内で発表する 4
- 第48回 収集した研究データを整理・解析する： 結果をまとめグループ内で発表する 5
- 第49回 得られた結果について考察する： 得られた結果に対する考察をまとめグループ内で発表する 1
- 第50回 得られた結果について考察する： 得られた結果に対する考察をまとめグループ内で発表する 2
- 第51回 得られた結果について考察する： 得られた結果に対する考察をまとめグループ内で発表する 3
- 第52回 得られた結果について考察する： 得られた結果に対する考察をまとめグループ内で発表する 4
- 第53回 論文を作成する： 規定の書式に従い論文を作成し、担当教員の指導を受ける 1
- 第54回 論文を作成する： 規定の書式に従い論文を作成し、担当教員の指導を受ける 2
- 第55回 論文を作成する： 規定の書式に従い論文を作成し、担当教員の指導を受ける 3
- 第56回 研究報告会用のプレゼンテーション資料、配付資料を作成する 1
- 第57回 研究報告会用のプレゼンテーション資料、配付資料を作成する 2
- 第58回 研究報告会： 全体で報告会を実施し、他者の発表に対して積極的に質問をする 1
- 第59回 研究報告会： 全体で報告会を実施し、他者の発表に対して積極的に質問をする 2
- 第60回 卒業研究論文を完成させる： 研究報告会での質疑応答や指摘をふまえて論文を修正する

■ 評価方法

【共通部分】

複数回実施する確認テスト合計で100点（卒業研究／分野別特別演習科目全体の30％に相当）

学生の心得に記載の無い欠席（-2点）、遅刻（-1点）は減点対象とする。

ただし、大学への出席後速やかに届けが提出されない場合は、更に減点処置とする。

また、不良な学習態度（提出物の不備、必要な資料・教科書の準備不足など）は減点（1回につき-4点）とする。

【卒業研究】

ゼミへの参加態度（20%）、研究報告会での発表状況（30%）、卒業研究論文（50%）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

【共通部分】

授業内で取り扱う内容は基本的に2年生までに学習している内容である。

国家試験合格に必要な知識を自らまとめていく作業を行うため、授業時間内での学習のみならず、時間外での取り組みが必須である。

学習内容はノートなどにまとめていくことを基本とし、それを毎週提出することが必要である。

学習のペースは授業内で説明する。

【卒業研究】

それぞれの研究分野に対する知識が必要となります。ゼミ以外の時間も積極的に活用し、研究を進めるようにしてください。

■ 教科書

書 名：病気がみえる vol.2 循環器

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

書 名：病気がみえる vol.4呼吸器

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

書 名：病気がみえる vol.7脳・神経

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

■ 参考図書

書 名：入門はじめての統計解析

著者名：石村貞夫

出版社：東京図書

書 名：すぐわかる統計解析

著者名：石村貞夫

出版社：東京図書

書 名：すぐわかる統計処理の選び方

著者名：石村貞夫・石村光資郎

出版社：東京出版

書 名：学生・研究者のための 使える!PowerPoint スライドデザイン 伝わるプレゼン1つの原理と3つの技術

著者名：宮野公樹

出版社：化学同人

書 名：これから学会発表する若者のために - ポスターと口頭のプレゼン技術 -

著者名：酒井聡樹

出版社：共立出版

書 名：これから論文を書く若者のために

著者名：酒井聡樹

出版社：共立出版

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①③④⑥⑧

DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

【共通部分】

この科目内容を理解・定着するためには、「基礎解剖学」「神経系の解剖学」「内臓系の解剖学」「生理学Ⅰ～Ⅳ」「生理学実習」「内科学Ⅰ／Ⅱ」「臨床神経学Ⅰ／Ⅱ」などの科目の理解が重要である。

また、「呼吸器障害理学療法治療学」「神経障害理学療法治療学Ⅰ／Ⅱ」「循環器障害理学療法治療学」へとつながる内容である。

【卒業研究】

卒業研究を行うためには、「理学療法研究法」の理解が重要である。

授業科目	内部障害理学療法特別演習				
担 当 者	田坂厚志・島雅人・牧之瀬一博 (オムニバス)	国家出題基準	専門基礎分野Ⅰ(1-D～I, 2-C～I, 3-AB), Ⅱ(2-AB, 3-B～H, 8-A～E, 11-A～E) 専門分野Ⅱ-7-E・F, Ⅲ(3-B, 6-E・F)		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	3年～4年	総単位数	4単位
		開講時期	通年	選択・必修	選択

■ 内 容

理学療法研究特別演習(卒業研究)/理学療法分野別特別演習は、『基礎教育分野の共通部分』と『各卒業研究・分野別特別演習』から構成されている。

【共通部分】

- ・理学療法教育の中で基礎となり、国家試験においても多く出題されている解剖・生理学及び、これらと関連の深い臨床医学の知識定着を図る。
- ・単純な知識の羅列に終始せず、それぞれの知識の関連性を持たせた学習を意識する。
- ・履修により、卒業研究や分野別特別演習の円滑な理解を促すとともに、国家試験合格に必要な基礎知識を身に付ける。
- ・適宜グループ活動を行い、学習内容、進捗状況、学習成果などの確認や向上に取り組む。

【領域毎の復習】

内部障害に対する理学療法を考える上で必要となる病態などの知識を臨床的な視点を踏まえて学ぶ。

■ 到達目標

【共通部分】

- ・国家試験頻出の解剖・生理学、及び臨床医学領域の問題について、頻出項目を把握できる。
- ・単純に覚えるといった浅い理解でなく、解剖・生理学の知識を用いて臨床医学や理学療法治療学を理解することができる。(深い理解)
- ・頻出の分野における国家試験過去問に関しては、最低でも8割以上の正答率となる。(知識の定着)
- ・結果として、他者へ説明できるレベルでの理解を目標とする。
- ・理学療法士を目指すコミュニティの一員としての責任を果たす。(主体的で協同的な学習)

【領域毎の演習】

内部障害に対するリスク管理・評価・治療等を学び、考える能力を身に付けることを目標とする。

■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション
国家試験の傾向と学習方法(学習の意図、進め方)
- 第2回 呼吸器領域の解剖・生理学に関する学習1
- 第3回 呼吸器領域の解剖・生理学に関する学習2
- 第4回 呼吸器領域の解剖・生理学に関する学習3
- 第5回 呼吸器領域の解剖・生理学に関する学習4
- 第6回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習1
- 第7回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習2
- 第8回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習3
- 第9回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習4
- 第10回 呼吸器領域に関する復習・まとめ
- 第11回 循環器領域の解剖・生理学に関する学習1
- 第12回 循環器領域の解剖・生理学に関する学習2
- 第13回 循環器領域の解剖・生理学に関する学習3
- 第14回 循環器領域の解剖・生理学に関する学習4
- 第15回 循環器基礎領域に関する復習・まとめ
- 第16回 循環器領域の臨床医学に関する学習1
- 第17回 循環器領域の臨床医学に関する学習2

- 第18回 循環器領域の臨床医学に関する学習 3
- 第19回 循環器領域の臨床医学に関する学習 4
- 第20回 循環器領域に関する復習・まとめ
- 第21回 神経系領域の解剖・生理学に関する学習 1
- 第22回 神経系領域の解剖・生理学に関する学習 2
- 第23回 神経系領域の解剖・生理学に関する学習 3
- 第24回 神経系領域の解剖・生理学に関する学習 4
- 第25回 神経系領域の臨床医学に関する学習 1
- 第26回 神経系領域の臨床医学に関する学習 2
- 第27回 神経系領域の臨床医学に関する学習 3
- 第28回 神経系領域の臨床医学に関する学習 4
- 第29回 神経系領域に関する復習・まとめ
- 第30回 呼吸器・循環器・神経系の学習内容の復習・まとめ
- 第31回 オリエンテーション（領域毎の復習）
- 第32回 心大血管の解剖学（心臓と大血管の構造）（領域毎の演習）
- 第33回 心大血管の解剖学（骨格筋と末梢血管の構造）（領域毎の演習）
- 第34回 心大血管の生理学（心臓と大血管の役割）（領域毎の演習）
- 第35回 心大血管の生理学（骨格筋と末梢血管の役割）（領域毎の演習）
- 第36回 呼吸器の解剖学（肺と周辺血管の構造）（領域毎の演習）
- 第37回 呼吸器の生理学（呼吸のメカニズム）（領域毎の演習）
- 第38回 呼吸循環器疾患の病態生理 1（領域毎の演習）
- 第39回 呼吸循環器疾患の病態生理 2（領域毎の演習）
- 第40回 呼吸循環器疾患の病態生理 3（領域毎の演習）
- 第41回 呼吸循環器疾患の病態生理 4（領域毎の演習）
- 第42回 呼吸循環器疾患の病態生理 5（領域毎の演習）
- 第43回 文献検索の方法：インターネットを利用した論文の検索方法について学ぶ（領域毎の演習）
- 第44回 研究論文等の抄読 1
- 第45回 研究論文等の抄読 2
- 第46回 問題解決能力の育成（国家試験症例問題を中心に）1（領域毎の演習）
- 第47回 問題解決能力の育成（国家試験症例問題を中心に）2（領域毎の演習）
- 第48回 問題解決能力の育成（国家試験症例問題を中心に）3（領域毎の演習）
- 第49回 問題解決能力の育成（国家試験症例問題を中心に）4（領域毎の演習）
- 第50回 各評価法の演習 1（領域毎の演習）
- 第51回 各評価法の演習 2（領域毎の演習）
- 第52回 各評価法の演習 3（領域毎の演習）
- 第53回 各評価法の演習 4（領域毎の演習）
- 第54回 内部障害の統合と解釈：演習 1（領域毎の演習）
- 第55回 内部障害の統合と解釈：演習 2（領域毎の演習）
- 第56回 内部障害の統合と解釈：演習 3（領域毎の演習）
- 第57回 まとめ 1（領域毎の演習）
- 第58回 まとめ 2（領域毎の演習）
- 第59回 まとめ 3（領域毎の演習）
- 第60回 まとめ 4（領域毎の演習）

■ 評価方法

【共通部分】

複数回実施する確認テスト合計で100点（卒業研究／分野別特別演習科目全体の30％に相当）

学生の心得に記載の無い欠席（-2点）、遅刻（-1点）は減点対象とする。

ただし、大学への出席後速やかに届けが提出されない場合は、更に減点処置とする。

また、不良な学習態度（提出物の不備、必要な資料・教科書の準備不足など）は減点（1回につき-4点）とする。

【領域毎の演習】

課題40％，グループディスカッションへの参加60％

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

【共通部分】

授業内で取り扱う内容は基本的に2年生までに学習している内容である。

国家試験合格に必要な知識を自らまとめていく作業を行うため、授業時間内での学習のみならず、時間外での取り組みが必須である。

学習内容はノートなどにまとめていくことを基本とし、それを毎週提出することが必要である。

学習のペースは授業内で説明する。

【領域毎の演習】

講義終了時に、予習すべき内容を指示する。

呼吸循環器に関する解剖・生理は復習しておくこと。

■ 教科書

書名：理学療法学テキスト 内部障害理学療法学 循環・代謝 第2版

著者名：石川 朗 総編集，木村雅彦 責任編集

出版社：中山書店

書名：病気がみえる vol.2 循環器

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

書名：病気がみえる vol.4呼吸器

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

書名：病気がみえる vol.7脳・神経

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①③④⑥⑧

DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

この科目内容を理解・定着するためには、「基礎解剖学」「神経系の解剖学」「内臓系の解剖学」「生理学Ⅰ～Ⅳ」「生理学実習」「内科学Ⅰ／Ⅱ」「臨床神経学Ⅰ／Ⅱ」などの科目の理解が重要である。

また、「呼吸器障害理学療法治療学」「神経障害理学療法治療学Ⅰ／Ⅱ」「循環器障害理学療法治療学」へとつながる内容である。

授業科目	運動器理学療法特別演習				
担 当 者	佐藤 睦美・島 雅人・牧之瀬一博 (オムニバス)	国家出題基準	専門基礎Ⅰ -1 - D～I, 2 - C～I, 3 - AB 専門基礎Ⅱ -2 - AB, 3 - B～H, 8 - A～E, 11 - A～E		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	3年～4年	総単位数	4単位
		開講時期	通年	選択・必修	選択

■ 内 容

理学療法研究特別演習（卒業研究）／理学療法分野別特別演習は、『基礎教育分野の共通部分』と『各卒業研究・分野別特別演習』から構成されている。

【共通部分】

- ・理学療法教育の中で基礎となり、国家試験においても多く出題されている解剖・生理学及び、これらと関連の深い臨床医学の知識定着を図る。
- ・単純な知識の羅列に終始せず、それぞれの知識の関連性を持たせた学習を意識する。
- ・履修により、卒業研究や分野別特別演習の円滑な理解を促すとともに、国家試験合格に必要な基礎知識を身に付ける。
- ・適宜グループ活動を行い、学習内容、進捗状況、学習成果などの確認や向上に取り組む。

【演習部分】第16回45回

運動器疾患について疾患の理解を深め、評価や治療プログラムの立案と治療実施を症例を通じて学ぶ。

■ 到達目標

【共通部分】

- ・国家試験頻出の解剖・生理学、及び臨床医学領域の問題について、頻出項目を把握できる。
- ・単純に覚えるといった浅い理解でなく、解剖・生理学の知識を用いて臨床医学や理学療法治療学を理解することができる。（深い理解）
- ・頻出の分野における国家試験過去問に関しては、最低でも8割以上の正答率となる。（知識の定着）
- ・結果として、他者へ説明できるレベルでの理解を目標とする。
- ・理学療法士を目指すコミュニティの一員としての責任を果たす。（主体的で協同的な学習）

【演習部分】

運動器障害の理解を深め、各疾患に応じたリスク管理・評価・治療が実施できるようになる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
国家試験の傾向と学習方法（学習の意図、進め方）
- 第2回 呼吸器領域の解剖・生理学に関する学習1
- 第3回 呼吸器領域の解剖・生理学に関する学習2
- 第4回 呼吸器領域の解剖・生理学に関する学習3
- 第5回 呼吸器領域の解剖・生理学に関する学習4
- 第6回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習1
- 第7回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習2
- 第8回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習3
- 第9回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習4
- 第10回 呼吸器領域に関する復習・まとめ
- 第11回 循環器領域の解剖・生理学に関する学習1
- 第12回 循環器領域の解剖・生理学に関する学習2
- 第13回 循環器領域の解剖・生理学に関する学習3
- 第14回 循環器領域の解剖・生理学に関する学習4
- 第15回 循環器基礎領域に関する復習・まとめ
- 第16回 循環器領域の臨床医学に関する学習1

- 第17回 循環器領域の臨床医学に関する学習 2
- 第18回 循環器領域の臨床医学に関する学習 3
- 第19回 循環器領域の臨床医学に関する学習 4
- 第20回 循環器領域に関する復習・まとめ
- 第21回 神経系領域の解剖・生理学に関する学習 1
- 第22回 神経系領域の解剖・生理学に関する学習 2
- 第23回 神経系領域の解剖・生理学に関する学習 3
- 第24回 神経系領域の解剖・生理学に関する学習 4
- 第25回 神経系領域の臨床医学に関する学習 1
- 第26回 神経系領域の臨床医学に関する学習 2
- 第27回 神経系領域の臨床医学に関する学習 3
- 第28回 神経系領域の臨床医学に関する学習 4
- 第29回 神経系領域に関する復習・まとめ
- 第30回 呼吸器・循環器・神経系の学習内容の復習・まとめ
- 第31回 演習部分ガイダンス
- 第32回 骨折の理学療法 1
- 第33回 骨折の理学療法 2
- 第34回 骨折の理学療法 3
- 第35回 骨折の理学療法 4
- 第36回 変形性関節症に対する理学療法 1
- 第37回 変形性関節症に対する理学療法 2
- 第38回 変形性関節症に対する理学療法 3
- 第39回 変形性関節症に対する理学療法 4
- 第40回 変形性関節症に対する理学療法 5
- 第41回 変形性関節症に対する理学療法 6
- 第42回 症例検討 1
- 第43回 症例検討 2
- 第44回 症例検討 3
- 第45回 スポーツ傷害に対する理学療法 1
- 第46回 スポーツ傷害に対する理学療法 2
- 第47回 スポーツ傷害に対する理学療法 3
- 第48回 スポーツ傷害に対する理学療法 4
- 第49回 スポーツ傷害に対する理学療法 5
- 第50回 スポーツ傷害に対する理学療法 6
- 第51回 脊椎疾患に対する理学療法 1
- 第52回 脊椎疾患に対する理学療法 1
- 第53回 脊椎疾患に対する理学療法 3
- 第54回 脊椎疾患に対する理学療法 4
- 第55回 脊椎疾患に対する理学療法 5
- 第56回 脊椎疾患に対する理学療法 6
- 第57回 症例検討 4
- 第58回 症例検討 5
- 第59回 まとめ
- 第60回 まとめ

■ 評価方法

【共通部分】

複数回実施する確認テスト合計で100点（卒業研究／分野別特別演習科目全体の30％に相当）

学生の心得に記載の無い欠席（-2点）、遅刻（-1点）は減点対象とする。

ただし、大学への出席後速やかに届けが提出されない場合は、更に減点処置とする。

また、不良な学習態度（提出物の不備、必要な資料・教科書の準備不足など）は減点（1回につき-4点）とする。

【演習部分】

課題40％、小テスト20％、プレゼンテーション40％

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

【共通部分】

授業内で取り扱う内容は基本的に2年生までに学習している内容である。

国家試験合格に必要な知識を自らまとめていく作業を行うため、授業時間内での学習のみならず、時間外での取り組みが必須である。

学習内容はノートなどにまとめていくことを基本とし、それを毎週提出することが必要である。

学習のペースは授業内で説明する。

【演習部分】

適宜指示を行います

■ 教科書

書 名：病気がみえる vol.2 循環器

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

書 名：病気がみえる vol.4呼吸器

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

書 名：病気がみえる vol.7脳・神経

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

■ 参考図書

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①③④⑥⑧

DP と CP の関連はポリシ - 参照

【共通部分】

この科目内容を理解・定着するためには、「基礎解剖学」「神経系の解剖学」「内臓系の解剖学」「生理学Ⅰ～Ⅳ」「生理学実習」「内科学Ⅰ／Ⅱ」「臨床神経学Ⅰ／Ⅱ」などの科目の理解が重要である。

また、「呼吸器障害理学療法治療学」「神経障害理学療法治療学Ⅰ／Ⅱ」「循環器障害理学療法治療学」へとつながる内容である。

授業科目	理学療法分野別特別演習 (脳血管)				
担 当 者	岩田 篤・島 雅人・牧之瀬一博 (オムニバス)	国家出題基準	専門基礎Ⅰ-1 - D～I, 2 - C～I, 3 - AB 専門基礎Ⅱ-2 - AB, 3 - B～H, 8 - A～E, 11 - A～E準 専門分野Ⅱ-7-B,Ⅲ-6-B		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	3年～4年	総単位数	4単位
		開講時期	通年	選択・必修	選択

■ 内 容

理学療法研究特別演習（卒業研究）／理学療法分野別特別演習は、『基礎教育分野の共通部分』と『各卒業研究・分野別特別演習』から構成されている。

【共通部分】

- ・理学療法教育の中で基礎となり、国家試験においても多く出題されている解剖・生理学及び、これらと関連の深い臨床医学の知識定着を図る。
- ・単純な知識の羅列に終始せず、それぞれの知識の関連性を持たせた学習を意識する。
- ・履修により、卒業研究や分野別特別演習の円滑な理解を促すとともに、国家試験合格に必要な基礎知識を身に付ける。
- ・適宜グループ活動を行い、学習内容、進捗状況、学習成果などの確認や向上に取り組む。

【演習部分】

- ・脳血管障害における理学療法を考える上で必要な基礎知識を臨床の視点から網羅する。

■ 到達目標

【共通部分】

- ・国家試験頻出の解剖・生理学、及び臨床医学領域の問題について、頻出項目を把握できる。
- ・単純に覚えるといった浅い理解でなく、解剖・生理学の知識を用いて臨床医学や理学療法治療学を理解することができる。（深い理解）
- ・頻出の分野における国家試験過去問に関しては、最低でも8割以上の正答率となる。（知識の定着）
- ・結果として、他者へ説明できるレベルでの理解を目標とする。
- ・理学療法士を目指すコミュニティの一員としての責任を果たす。（主体的で協同的な学習）

【演習部分】

- 1) 神経機能解剖学および神経生理学等の基本的内容が理解できる。
- 2) 各種神経疾患の病態および症状が理解できる。
- 3) 各種神経疾患およびその病期ごとに注意すべきリスクを想起できる。
- 4) 各種神経疾患およびその病期ごとに実施すべき理学療法について、科学的根拠に基づいた臨床推論が行える。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
国家試験の傾向と学習方法（学習の意図、進め方）
- 第2回 呼吸器領域の解剖・生理学に関する学習1
- 第3回 呼吸器領域の解剖・生理学に関する学習2
- 第4回 呼吸器領域の解剖・生理学に関する学習3
- 第5回 呼吸器領域の解剖・生理学に関する学習4
- 第6回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習1
- 第7回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習2
- 第8回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習3
- 第9回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習4
- 第10回 呼吸器領域に関する復習・まとめ
- 第11回 循環器領域の解剖・生理学に関する学習1
- 第12回 循環器領域の解剖・生理学に関する学習2
- 第13回 循環器領域の解剖・生理学に関する学習3

- 第14回 循環器領域の解剖・生理学に関する学習 4
- 第15回 循環器基礎領域に関する復習・まとめ
- 第16回 循環器領域の臨床医学に関する学習 1
- 第17回 循環器領域の臨床医学に関する学習 2
- 第18回 循環器領域の臨床医学に関する学習 3
- 第19回 循環器領域の臨床医学に関する学習 4
- 第20回 循環器領域に関する復習・まとめ
- 第21回 神経系領域の解剖・生理学に関する学習 1
- 第22回 神経系領域の解剖・生理学に関する学習 2
- 第23回 神経系領域の解剖・生理学に関する学習 3
- 第24回 神経系領域の解剖・生理学に関する学習 4
- 第25回 神経系領域の臨床医学に関する学習 1
- 第26回 神経系領域の臨床医学に関する学習 2
- 第27回 神経系領域の臨床医学に関する学習 3
- 第28回 神経系領域の臨床医学に関する学習 4
- 第29回 神経系領域に関する復習・まとめ
- 第30回 呼吸器・循環器・神経系の学習内容の復習・まとめ
- 第31回 オリエンテーション
- 第32回 脳血管障害で生じ得る症状の列挙
- 第33回 神経症状の発症機序①
- 第34回 神経症状の発症機序②
- 第35回 神経症状の発症機序③
- 第36回 神経症状の発症機序④
- 第37回 神経症状の発症機序⑤
- 第38回 神経症状の発症機序⑥
- 第39回 神経症状の発症機序⑦
- 第40回 神経症状の発症機序⑧
- 第41回 神経症状の発症機序⑨
- 第42回 神経症状の発症機序⑩
- 第43回 神経症状の発症機序⑪
- 第44回 神経症状の発症機序⑫
- 第45回 まとめ
- 第46回 前期の復習
- 第47回 脳室と脳脊髄液
- 第48回 正常脳画像（側脳室／大脳縦裂／シルビウス裂の同定）
- 第49回 正常脳画像（中心溝および中心前・中心後回／脳梁／前頭回の同定）
- 第50回 正常脳画像（海馬／大脳基底核／視床の同定）
- 第51回 脳血管の走行（内頸動脈系）
- 第52回 脳血管の走行（椎骨脳底動脈系）
- 第53回 CT／MRI の原理
- 第54回 CT／MRI で抽出される病態（脳出血／脳梗塞）
- 第55回 CT／MRI の臨床活用（演習）
- 第56回 CT／MRI の臨床活用（演習）
- 第57回 神経障害患者に対する評価と治療（演習）
- 第58回 神経障害患者に対する評価と治療（演習）
- 第59回 神経障害患者に対する評価と治療（演習）
- 第60回 まとめ

■ 評価方法

【共通部分】

複数回実施する確認テスト合計で100点（卒業研究／分野別特別演習科目全体の30％に相当）

学生の心得に記載の無い欠席（-2点）、遅刻（-1点）は減点対象とする。

ただし、大学への出席後速やかに届けが提出されない場合は、更に減点処置とする。

また、不良な学習態度（提出物の不備、必要な資料・教科書の準備不足など）は減点（1回につき-4点）とする。

【演習部分】

事前準備10%、小テスト20%、ディスカッションへの参加貢献度およびレポート課題70%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

【共通部分】

授業内で取り扱う内容は基本的に2年生までに学習している内容である。

国家試験合格に必要な知識を自らまとめていく作業を行うため、授業時間内での学習のみならず、時間外での取り組みが必須である。

学習内容はノートなどにまとめていくことを基本とし、それを毎週提出することが必要である。

学習のペースは授業内で説明する。

【演習部分】

中枢神経障害により生じ得る症状について網羅します。授業で活用した資料をもとに必ず復習しておいてください。理解度を促進するために小テストを行うこともあります。

また、各自でも当該授業で参考になりそうな図書や文献を集め、ディスカッションに参加してください。

■ 教科書

書 名：病気がみえる vol.2 循環器

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

書 名：病気がみえる vol.4呼吸器

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

書 名：病気がみえる vol.7脳・神経

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

■ 参考図書

書 名：随時紹介します。

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①③④⑥⑧

DP：DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

この科目内容を理解・定着するためには、「基礎解剖学」「神経系の解剖学」「内臓系の解剖学」「生理学Ⅰ～Ⅳ」「生理学実習」「内科学Ⅰ／Ⅱ」「臨床神経学Ⅰ／Ⅱ」などの科目の理解が重要である。

また、「呼吸器障害理学療法治療学」「神経障害理学療法治療学Ⅰ／Ⅱ」「循環器障害理学療法治療学」へとつながる内容である。

授業科目	小児理学療法特別演習				
担 当 者	藪中良彦・田坂厚志・岩田篤 (オムニバス)	国家出題基準	専門基礎Ⅰ -1-D～I, 2-C～I, 3-AB 専門基礎Ⅱ -2-AB, 3-B～H, 8-A～E, 11-A～E		
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	3年～4年	総単位数	4単位
		開講時期	通年	選択・必修	選択

■ 内 容

理学療法研究特別演習（卒業研究）／理学療法分野別特別演習は、『基礎教育分野の共通部分』と『各卒業研究・分野別特別演習』から構成されている。

【共通部分】第1回～15回

- ・理学療法教育の中で基礎となり、国家試験においても多く出題されている解剖・生理学及び、これらと関連の深い臨床医学の知識定着を図る。
- ・単純な知識の羅列に終始せず、それぞれの知識の関連性を持たせた学習を意識する。
- ・履修により、卒業研究や分野別特別演習の円滑な理解を促すとともに、国家試験合格に必要な基礎知識を身に付ける。
- ・適宜グループ活動を行い、学習内容、進捗状況、学習成果などの確認や向上に取り組む。

【領域毎の演習】第16回～45回

- ・「イラストでわかる小児理学療法」を使用して、脳性麻痺児の臨床像を理解する。
- ・「脳性まひ児の家庭療育 原著第4版」の各章を分担してまとめ、発表する。
- ・「脳性まひ児の家庭療育 原著第4版」を使用して、ハンドリングの練習を行う。

■ 到達目標

【共通部分】

- ・国家試験頻出の解剖・生理学、及び臨床医学領域の問題について、頻出項目を把握できる。
- ・単純に覚えるといった浅い理解でなく、解剖・生理学の知識を用いて臨床医学や理学療法治療学を理解することができる。（深い理解）
- ・頻出の分野における国家試験過去問に関しては、最低でも8割以上の正答率となる。（知識の定着）
- ・結果として、他者へ説明できるレベルでの理解を目標とする。
- ・理学療法士を目指すコミュニティの一員としての責任を果たす。（主体的で協同的な学習）

【領域毎の演習】

①脳性まひ児の両親とスムーズにコミュニケーションが取れ、脳性まひ児のADLを援助するための基礎知識を獲得できる。②脳性まひ児を的確にハンドリングする準備として、健常者においてハンドリングによつて的確な反応を促せるようになる。

■ 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション
国家試験の傾向と学習方法（学習の意図、進め方）
- 第2回 呼吸器領域の解剖・生理学に関する学習1
- 第3回 呼吸器領域の解剖・生理学に関する学習2
- 第4回 呼吸器領域の解剖・生理学に関する学習3
- 第5回 呼吸器領域の解剖・生理学に関する学習4
- 第6回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習1
- 第7回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習2
- 第8回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習3
- 第9回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習4
- 第10回 呼吸器領域に関する復習・まとめ
- 第11回 循環器領域の解剖・生理学に関する学習1
- 第12回 循環器領域の解剖・生理学に関する学習2
- 第13回 循環器領域の解剖・生理学に関する学習3
- 第14回 循環器領域の解剖・生理学に関する学習4

第15回	循環器基礎領域に関する復習・まとめ
第16回	循環器領域の臨床医学に関する学習 1
第17回	循環器領域の臨床医学に関する学習 2
第18回	循環器領域の臨床医学に関する学習 3
第19回	循環器領域の臨床医学に関する学習 4
第20回	循環器領域に関する復習・まとめ
第21回	神経系領域の解剖・生理学に関する学習 1
第22回	神経系領域の解剖・生理学に関する学習 2
第23回	神経系領域の解剖・生理学に関する学習 3
第24回	神経系領域の解剖・生理学に関する学習 4
第25回	神経系領域の臨床医学に関する学習 1
第26回	神経系領域の臨床医学に関する学習 2
第27回	神経系領域の臨床医学に関する学習 3
第28回	神経系領域の臨床医学に関する学習 4
第29回	神経系領域に関する復習・まとめ
第30回	呼吸器・循環器・神経系の学習内容の復習・まとめ
第31回	【領域毎の演習】小児理学療法特別演習オリエンテーション 「イラストでわかる人間発達学」 第10章：姿勢反射／反応と6歳までの発達
第32回	「イラストでわかる小児理学療法」 第3章：脳性麻痺・脳性麻痺の概略
第33回	「イラストでわかる小児理学療法」 第3章：脳性麻痺・脳性麻痺の概略
第34回	「イラストでわかる小児理学療法」 第3章：脳性麻痺・脳性麻痺の概略
第35回	「イラストでわかる小児理学療法」 第4章：痙直型脳性麻痺－両麻痺
第36回	「イラストでわかる小児理学療法」 第4章：痙直型脳性麻痺－両麻痺
第37回	「イラストでわかる小児理学療法」 第5章：痙直型脳性麻痺－四肢麻痺
第38回	「イラストでわかる小児理学療法」 第5章：痙直型脳性麻痺－四肢麻痺
第39回	「イラストでわかる小児理学療法」 第6章：痙直型脳性麻痺－片麻痺
第40回	「イラストでわかる小児理学療法」 第6章：痙直型脳性麻痺－片麻痺
第41回	「イラストでわかる小児理学療法」 第7章：脳性麻痺－アテトーゼ型脳性麻痺
第42回	「イラストでわかる小児理学療法」 第7章：脳性麻痺－アテトーゼ型脳性麻痺
第43回	「脳性まひ児の家庭療育 原著第4版」 第9章：早期学習における両親の貢献－触って、見て、聞いてやり取りをして、対話をはぐくむ
第44回	「脳性まひ児の家庭療育 原著第4版」 第10章：健常児と脳性まひ児の運動の理解
第45回	「脳性まひ児の家庭療育 原著第4版」 第10章：健常児と脳性まひ児の運動の理解
第46回	「脳性まひ児の家庭療育 原著第4版」 第10章：健常児と脳性まひ児の運動の理解
第47回	「脳性まひ児の家庭療育 原著第4版」 第11章：ハンドリング
第48回	「脳性まひ児の家庭療育 原著第4版」 第11章：ハンドリング
第49回	「脳性まひ児の家庭療育 原著第4版」 第11章：ハンドリング
第50回	「脳性まひ児の家庭療育 原著第4版」 第11章：ハンドリング
第51回	「脳性まひ児の家庭療育 原著第4版」 第11章：ハンドリング
第52回	「脳性まひ児の家庭療育 原著第4版」 第13章：摂食
第53回	「脳性まひ児の家庭療育 原著第4版」 第14章：抱っこと移動
第54回	「脳性まひ児の家庭療育 原著第4版」 第15章：トイレトレーニング
第55回	「脳性まひ児の家庭療育 原著第4版」 第16章：入浴
第56回	「脳性まひ児の家庭療育 原著第4版」 第17章：更衣動作
第57回	「脳性まひ児の家庭療育 原著第4版」 第18章：コミュニケーション
第58回	「脳性まひ児の家庭療育 原著第4版」 第19章：手の機能と巧緻運動・活動
第59回	発達性協調運動障がい児への理学療法
第60回	発達性協調運動障がい児への理学療法

■ 評価方法

【共通部分】

複数回実施する確認テスト合計で100点（卒業研究／分野別特別演習科目全体の30％に相当）

学生の心得に記載の無い欠席（-2点）、遅刻（-1点）は減点対象とする。

ただし、大学への出席後速やかに届けが提出されない場合は、更に減点処置とする。

また、不良な学習態度（提出物の不備、必要な資料・教科書の準備不足など）は減点（1回につき-4点）とする。

【領域毎の演習】

出席（欠席 -2点、遅刻・早退 -1点）、予習質問課題（25％）、担当章のレジメ課題（25％）、実技まとめ課題（25％）、実技テスト（25％）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

【共通部分】

授業内で取り扱う内容は基本的に2年生までに学習している内容である。

国家試験合格に必要な知識を自らまとめていく作業を行うため、授業時間内での学習のみならず、時間外での取り組みが必須である。

学習内容はノートなどにまとめていくことを基本とし、それを毎週提出することが必要である。

学習のペースは授業内で説明する。

【領域毎の演習】

次の授業の範囲を明示するので、その範囲を予習し、5つ適切な質問を考え、Moodleを通して事前に提出することで予習を促す。また、担当の学生が、「脳性まひ児の家庭療育 原著第4版」の担当章のレジメを作成し、演習開始時に参加学生に配布する。加えて、演習時間中に練習したハンドリングについて担当学生が資料にまとめ、次の演習の開始時に参加学生に配布する。

■ 教科書

書 名：病気がみえる vol.2 循環器

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

書 名：病気がみえる vol.4呼吸器

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

書 名：病気がみえる vol.7脳・神経

著者名：医療情報科学研究所（編集）

出版社：メディックメディア

書 名：脳性まひ児の家庭療育 原著第4版

著者名：上杉雅之 監訳

出版社：医歯薬出版株式会社

書 名：イラストでわかる小児理学療法（3年次「小児期理学療法治療学」教科書）

著者名：上杉雅之 監修

出版社：医歯薬出版株式会社

書 名：イラストでわかる人間発達学（2年時「生涯人間発達学」教科書）

著者名：上杉雅之 監修

出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

書 名：発達障害の運動療法 ASD・ADHD・LD の障害構造とアプローチ
著者名：新田 収
出版社：三輪書店

■ 留意事項

しっかりと予習を行い、実技を伴った演習科目ですので欠席しないようにしてください。

■ ポリシー該当項目

【共通部分】

PT 専攻 CP：①③④⑥⑧

DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

この科目内容を理解・定着するためには、「基礎解剖学」「神経系の解剖学」「内臓系の解剖学」「生理学Ⅰ～Ⅳ」「生理学実習」「内科学Ⅰ／Ⅱ」「臨床神経学Ⅰ／Ⅱ」などの科目の理解が重要である。

また、「呼吸器障害理学療法治療学」「神経障害理学療法治療学Ⅰ／Ⅱ」「循環器障害理学療法治療学」へとつながる内容である。

【領域毎の演習】

PT 専攻：CP ①②③④⑥⑧

DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

「生涯人間発達学」や「小児期理学療法治療学」で学んだ知識を中心に３年次までに学ぶ知識を総動員し、「小児理学療法特別演習」で脳性麻痺児に対する治療学をマスターし、「総合臨床実習」において脳性麻痺児に対する的確な評価と治療が可能となる。

授業科目	総合理学療法学				
担 当 者	P T専任教員・稲岡秀陽・安倍浩之・大野博司（オムニバス）			国家出題基準	専門分野Ⅰ～Ⅴ
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	4 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

臨床実習も終了しほぼすべての履修内容を習得した段階で、理学療法士に必要な知識と能力の総括を行います。

■ 到達目標

理学療法を行うにあたって必要な能力を系統的に整理し、不足があれば自ら補うように行動することができる

■ 授業計画

- 第1回 代表的な症例の検討（1）運動器（佐藤）
- 第2回 代表的な症例の検討（2）脳血管障害（岩田）
- 第3回 代表的な症例の検討（3）脊髄と神経（島）
- 第4回 代表的な症例の検討（4）難病（岩田）
- 第5回 代表的な症例の検討（5）内部障害（田坂）
- 第6回 代表的な症例の検討（6）発達障害（藪中）
- 第7回 代表的な症例の検討（7）切断と義肢 その他（井上）
- 第8回 日常生活活動学（牧之瀬）
- 第9回 理学療法治療学（物理療法、運動療法の基礎）（榎、田中）
- 第10回 運動学（境）
- 第11回 セラピストに求められる基礎知識（今井、島、榎、伊禮、田中、相原）
- 第12回 セラピストに求められる基礎知識（今井、島、榎、伊禮、田中、相原）
- 第13回 理学療法業務と管理（1）安倍
- 第14回 理学療法業務と管理（2）稲岡
- 第15回 理学療法業務と管理（3）大野

■ 評価方法

提出物5% 筆記試験95%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

当該科目内容は今まで学習した内容の総復習です。なお、講義内容や回数は学生の状況によりこの記載に限りません。適宜学習計画については教員のチェックを受け助言をもらって下さい。

■ 教 科 書

書 名：理学療法士・作業療法士 国家試験必須ポイント
出版社：医歯薬出版

■ 参考図書

書 名：国試の達人（運動解剖生理学編、臨床医学編、理学療法編）

著者名：理学療法科学学会

出版社：理学療法科学学会編

書 名：理学療法士作業療法士 過去問題集

出版社：久美出版

書 名：PT・OT 国家試験共通問題 である・でたもん

出版社：医学書院

書 名：基礎固めヒント式トレーニング 臨床医学編

出版社：南江堂

書 名：PT・OT 国家試験共通問題 ヒント式トレーニング

出版社：南江堂

■ 留意事項

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：④⑥ DP：①②

授業科目	総合臨床実習Ⅰ				
担当者	田坂 厚志			国家出題基準	専門分野Ⅴ
学科名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	2 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

国内医療施設または介護老人保健施設で3週間の臨床実習を行う。

■ 到達目標

臨床実習指導者の指導の下で、理学療法評価からプログラム立案までのプロセスを経験する。具体的には、ICF（又はICIDH）の枠組みの中で、参加、個人因子、環境因子を考慮して問題点を抽出し、目標設定を行い、具体的治療プログラム立案が行えるようになる。

■ 授業計画

実習施設 近畿圏を中心とした全国の一般病院、リハビリテーション病院、介護老人保健施設
 実習期間 3 週間
 実習形態 臨床実習指導者の監督の下に、対象者様に合わせた評価項目を選択・実施し、統合と解釈を行い、問題点を抽出し、目標設定を行い、治療プログラムを立案する。専任教員が適宜訪問し、学生の実習態度や実習目標達成度を把握する。専任教員訪問時には、学生自身の問題解決のためのディスカッション時間を設ける。

実習の
進め方 解剖学、生理学、運動学、臨床医学、理学療法評価学、理学療法治療学、日常生活活動学、地域理学療法学等の知識を駆使して、評価を行い、ICF（又はICIDH）の枠組みの中で統合と解釈を行い、参加、個人因子、環境因子を考慮して問題点を抽出し、目標設定を行い、具体的治療プログラムを立案する。実習の進め方は、実習施設の実情に合わせ、専任教員と臨床実習指導者で計画する。

■ 評価方法

出席（欠席 -6点、遅刻・早退 -2点）、実習内容及び態度（70%）、総合臨床実習症例レジメとICF/ICIDH 枠組み図の内容及び学内症例発表会の発表（30%）等を基に、専任教員と臨床実習指導者との協議で総合的に判定する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎日の経験と疑問に対する自己学習についてまとめるデイリーノートが課題である。
 また、実習期間で経験した症例についてレジメまたはレポートにまとめることも課題である。

■ 教科書

書 名：理学療法臨床実習サポートブック
 著者名：岡田慎一郎 他
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：3年次までに使用した教科書

■ 留意事項

総合臨床実習実施要綱には、総合臨床実習Ⅰの目的や注意点が記載されているので、実習直前に再度読み直し、理解しておくこと。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①②③④⑤⑥

DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

3 年間学習した内容を総動員して、臨床実習指導者および専任教員の援助の下、実際の対象者の評価を的確に実施できるようになることにより、4 年次の「総合臨床実習Ⅱ・Ⅲ」において適切な治療プログラム実施が可能となる。

授業科目	総合臨床実習Ⅱ				
担当者	藪中良彦・他（オムニバス）			国家出題基準	専門分野Ⅴ
学科名	理学療法学専攻	学 年	4 年	総単位数	9 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

国内医療施設で9週間の臨床実習を行う。

■ 到達目標

臨床実習指導者の指導の下で、理学療法評価からプログラム立案、プログラム実施のまでの一連の理学療法プロセスを経験する。具体的には、ICF（又はICIDH）の枠組みの中で、参加、個人因子、環境因子を考慮して問題点を抽出し、目標設定、具体的治療プログラム立案、適切なプログラム実施が行えるようになる。

■ 授業計画

実習施設 近畿圏を中心とした全国の一般病院、リハビリテーション病院

実習期間 9 週間

実習形態 臨床実習指導者の監督の下に、対象者様に合わせた評価項目を選択・実施し、統合と解釈を行い、問題点を抽出し、目標設定を設定し、治療プログラム立案し、治療プログラム実施する。専任教員が適宜訪問し、学生の実習態度や実習目標達成度を把握する。専任教員訪問時には、学生自身の問題解決のためのディスカッション時間を設ける。

実習の

進め方 解剖学、生理学、運動学、臨床医学、理学療法評価学、理学療法治療学、日常生活活動学、地域理学療法学等の知識を駆使して、評価を行い、ICF（又はICIDH）の枠組みの中で統合と解釈を行い、参加、個人因子、環境因子を考慮して問題点を抽出し、目標設定を行い、具体的治療プログラムを立案し実施する。実習の進め方は、実習施設の実情に合わせ、専任教員と臨床実習指導者で計画する。

■ 評価方法

出席（欠席 -1点，遅刻・早退 -0.5点）、実習内容及び態度（70%）、総合臨床実習症例レジメとICF/ICIDH枠組み図の内容及び学内症例発表会の発表（30%）等を基に、専任教員と臨床実習指導者との協議で総合的に判定する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎日の経験と疑問に対する自己学習についてまとめるデイリーノートが毎日の自宅学習の課題である。また、実習期間で経験した症例についてレジメまたはレポートにまとめることも自宅学習の課題である。

■ 教科書

書 名：理学療法臨床実習サポートブック

著者名：岡田慎一郎 他

出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：3年次までに使用した教科書

■ 留意事項

総合臨床実習実施要綱には、総合臨床実習Ⅱの目的や注意点が記載されているので、実習直前に再度読み直し、理解しておくこと。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①②③④⑤⑥

DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

3 年間学習した内容を総動員すると共に「総合臨床実習Ⅰ」で学んだ評価の技術を基に、「総合臨床実習Ⅱ」において、臨床実習指導者および専任教員の援助の下、実際の対象者の治療を的確に実施できるようになる。そうすることによって、4 年次の「総合臨床実習Ⅲ」において対象者の臨床像の変化に合わせて的確に治療プログラムを変更していくことが可能となる。

授業科目	総合臨床実習Ⅲ				
担当者	藪中良彦・他（オムニバス）			国家出題基準	専門分野Ⅴ
学科名	理学療法学専攻	学 年	4 年	総単位数	9 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

国内医療施設で9週間の臨床実習を行う。

■ 到達目標

臨床実習指導者の指導の下で、理学療法評価からプログラム実施のまでの一連の理学療法プロセスを経験する。具体的には、ICF(又はICIDH)の枠組みの中で、参加、個人因子、環境因子を考慮して問題点を抽出し、目標設定、具体的治療プログラム立案、適切なプログラム実施、治療効果判定に基づく治療プログラムの変更が行えるようになる。

■ 授業計画

実習施設 近畿圏を中心とした全国の一般病院、リハビリテーション病院

実習期間 9 週間

実習形態 臨床実習指導者の監督の下に、対象者様に合わせた評価項目を選択・実施し、統合と解釈を行い、問題点を抽出し、目標設定を設定し、治療プログラム立案し、治療プログラム実施する。専任教員が適宜訪問し、学生の実習態度や実習目標達成度を把握する。専任教員訪問時には、学生自身の問題解決のためのディスカッション時間を設ける。

実習の

進め方 解剖学、生理学、運動学、臨床医学、理学療法評価学、理学療法治療学、日常生活活動学、地域理学療法学等の知識を駆使して、評価を行い、ICF(又はICIDH)の枠組みの中で統合と解釈を行い、参加、個人因子、環境因子を考慮して問題点を抽出し、目標設定を行い、具体的治療プログラムを立案し実施する。実習の進め方は、実習施設の実情に合わせ、専任教員と臨床実習指導者で計画する。

■ 評価方法

出席（欠席 -1点，遅刻・早退 -0.5点）、実習内容及び態度（70%）、総合臨床実習症例レジメとICF/ICIDH枠組み図の内容及び学内症例発表会の発表（30%）等を基に、専任教員と臨床実習指導者との協議で総合的に判定する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎日の経験と疑問に対する自己学習についてまとめるデイリーノートが毎日の自宅学習の課題である。また、実習期間で経験した症例についてレジメまたはレポートにまとめることも自宅学習の課題である。

■ 教 科 書

書 名：理学療法臨床実習サポートブック

著者名：岡田慎一郎 他

出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：3年次までに使用した教科書

■ 留意事項

総合臨床実習実施要綱には、総合臨床実習Ⅲの目的や注意点が記載されているので、実習直前に再度読み直し、理解しておくこと。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：①②③④⑤⑥

DP と CP の関係は、ポリシーを参照してください。

3 年間学習した内容を総動員すると共に「総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」で学んだ評価と治療の技術を基に、「総合臨床実習Ⅲ」において、臨床実習指導者および専任教員の援助の下、対象者の臨床像の変化に合わせて的確に治療プログラムを変更していくことが可能となる。

授業科目	作業療法概論				
担 当 者	辻 郁	国家出題基準	Ⅱ -3 G - b	Ⅲ -2- D - b	
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

より良いチームアプローチが実践できるよう、歴史や理論的背景、種々の展開例から、作業療法実践の枠組みと実際を学ぶ

■ 到達目標

1. 作業療法の枠組みを概観できる
2. 作業療法の実践例を知ること、その専門性を理解できる
3. チームアプローチについて具体的な考えが持てる

■ 授業計画

- 第1回 作業療法の枠組み 理論的背景
- 第2回 既存データから見える作業療法
- 第3回 作業療法の実際
- 第4回 作業療法の実際
- 第5回 作業療法の実際
- 第6回 作業療法の実際
- 第7回 作業療法の実際
- 第8回 作業療法の実際
- 第9回 作業分析の実際（演習）
- 第10回 作業分析の実際（演習）
- 第11回 作業療法における作業の意味
- 第12回 作業療法評価の実際（演習）
- 第13回 作業療法評価の実際（演習）
- 第14回 作業療法研究実際
- 第15回 作業療法全体像

■ 評価方法

筆記試験 100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

作業療法に関連するトピックを読んでおくこと（授業時に配布する）
授業終了ごとに、授業内容を振り返り、リアクションペーパーを作成する

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

書 名： 標準作業療法学 作業療法概論
著者名： 岩崎テル子 編集
出版社： 医学書院
.....
書 名： 作業療法の世界
著者名： 鎌倉矩子
出版社： 三輪書店

■ 留意事項

作業療法の専門性を理解し、よりよいチームアプローチが出来るような学習を進めてほしい。

■ ポリシー該当項目

PT 専攻 CP：④ DP：①②